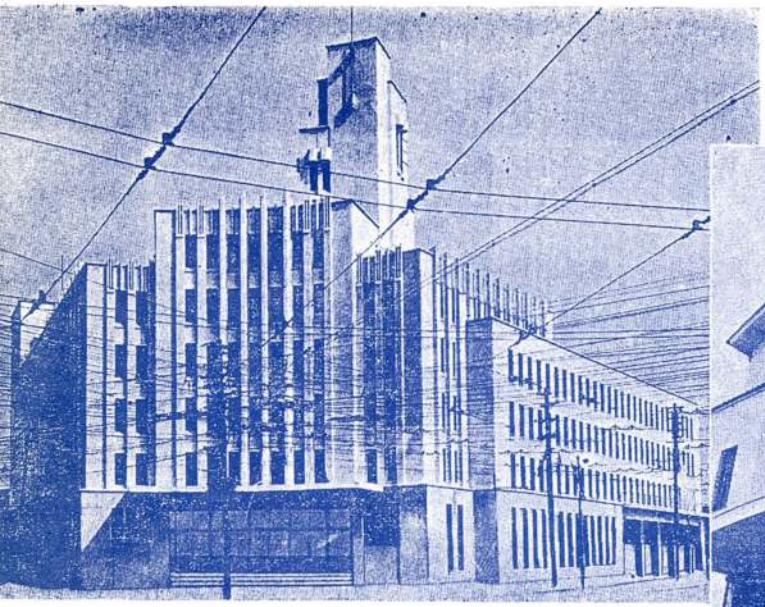
大正六年九月十四日 第三種郵便物認可・昭和十一年六月二十五日印刷納本・昭和十一年七月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

7

第十九輯第七號　昭和十一年七月一日

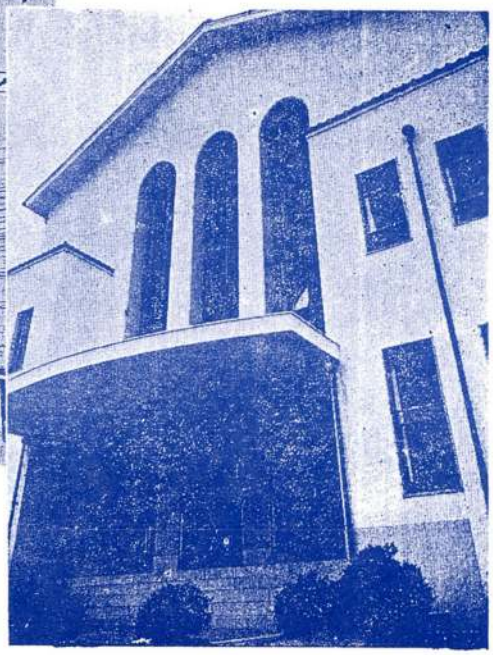
日本建築協會



文化の殿堂　**大阪放送會館**

設　計　渡邊建築事務所殿

施　工　大林組殿



新裝なれる　**青年塾堂**

設　計　大阪府營繕課殿

施　工　松村組殿

放送會館には電氣設備暖冷房換氣裝置

青年塾堂には富國石採用の光榮に浴す

諸建築材料及附帶設備一式

設計監督・工事請負並材料販賣

三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目（大阪三井ビル内）

電話土佐堀（44）8365(5) 1776. 3103

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）

電話銀座（57）5140(10)5941（7）

支　店　大阪・名古屋・福岡・大連・京城

出張所　札幌・函館・新京・奉天・臺北・廣島

工　場　東洋鋼材株式會社川崎工場…川崎市渡田

取扱店　三井物産株式會社各地支店出張所

（型錄贈呈）

第三回建築夏期講習會開催

京大建築同窓會主催

最近世態百般の活況著しきものあり。建築界亦此の影響を享け大活躍を期すべき緊要なる時期に到達す。此の秋に當りて最近建築學の新知識を獲得し建築界の發展に資すべき亦大いに意義あることゝ信ず。我等は茲に下記の如き陣容を以て「建築夏期講習會」を開催し、聊か斯界に貢献する所あらんとす。奮つて來會あらんことを。

建築夏期講習會規程

主　催　京大建築同窓會

會　期　七月二十一日(火)より二十四日(金)迄四日間毎夜六時十分より九時迄

會　場　大阪帝國大學工學部第八講義室
大阪市北區東野田町九丁目(市電東野田九丁目停留所下車)

定　員　二百名(申込順による)

會　費　二　圓　　學生一圓五十錢(プリント代を含む)

申込所　大阪市東區今橋四丁目一番地　三菱信託ビルディング内
東畑謙三(振替口座番號大阪 78429、電話北濱 4657)

申込方法　住所、勤務先又は學校名、氏名を記し振替貯金により申込まれ度し。受領證として聽講券を送附す。定員に餘剰ある場合は當日會場にても受付くることあるべし

講　師

京大營繕課長	工學士	大倉三郎
清水組技師	工學士	香取彦一
東京市技師	工學士	瀧本義一
京大助教授	工學士	棚橋諒
村野建築事務所技師	工學士	森忠一
四天王寺建築技師	工學士	吉村孝義

建築と社會

第19輯 第7號　昭和11年7月發行

七月號

目次

關西日佛學館の建築を顧る……木子七郎（1）
大阪放送會館の設計計畫に就て……中山克己（5）
大阪昔時の地割を論ず……佐古慶三（9）
勞働の家……佐藤四郎（17）
現在の鐵筋コンクリート構造……井手正雄（21）
建築費豫算漫語……高村勝（27）
エルサレム回顧……津田鑿（32）

• 研究及調査報告 •

米國に於ける計畫界最近の趨向……吉田信武譯註（37）
綠地帶都市……アルバート・マイヤー　亀井幸次郎譯（49）
昇降機に就きて……設備委員會（55）

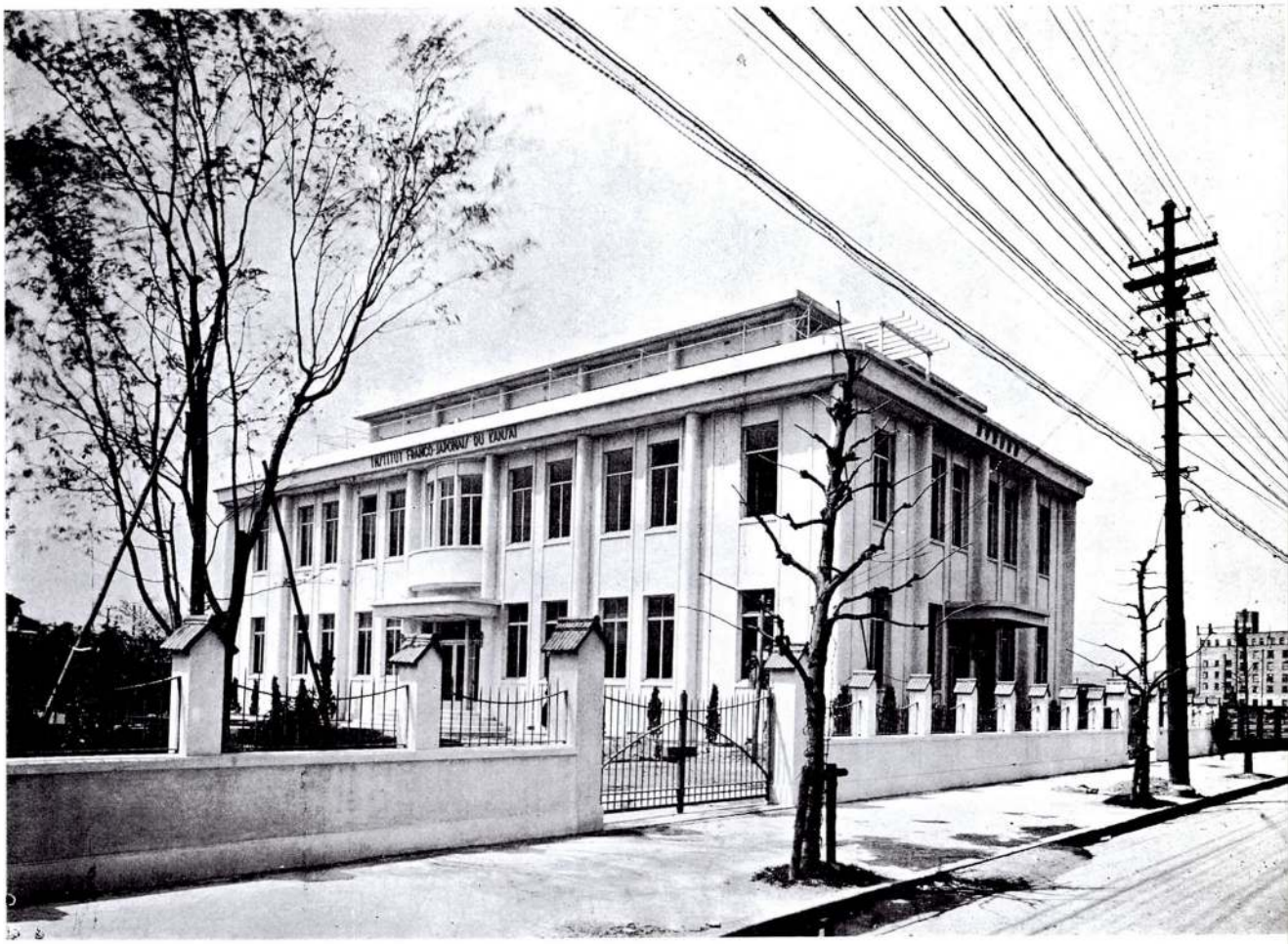
• 建築隨想 •

そこはかとなく……坂井則夫（60）

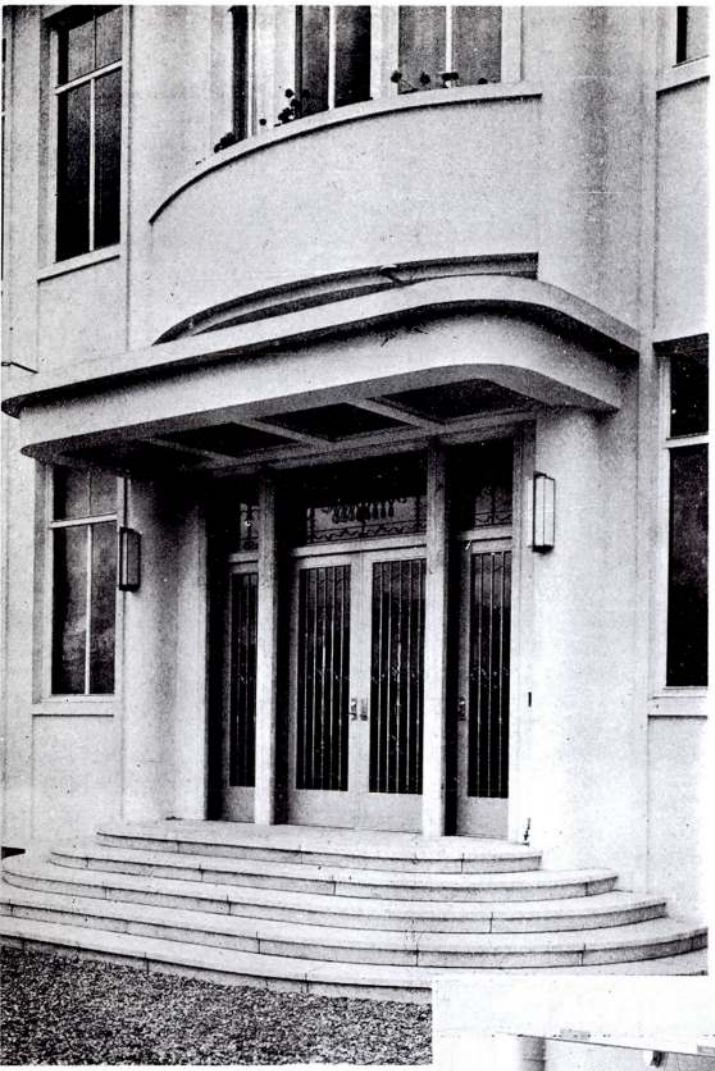
• 新建築欄 •

關西日佛學館　大阪放送會館
大阪青年熟堂　關西大學豫科教室
神戸市立第一高等女學校　北極星（大阪）
有蓋市場（スイス）　Owens—Illinois研究所（アメリカ）
ウオルセンドのライシングサン石炭工場（オーストラリヤ）　パリーのアパートメント内部（フランス）
Berlin-Wetbenseeに於ける集合住宅（ドイツ）　トリーノ市に建つアパートメント（イタリー）
古い住宅を近代風事務所に改造（アメリカ）　ブリストル郊外の住宅（イギリス）
未來の都市のセット

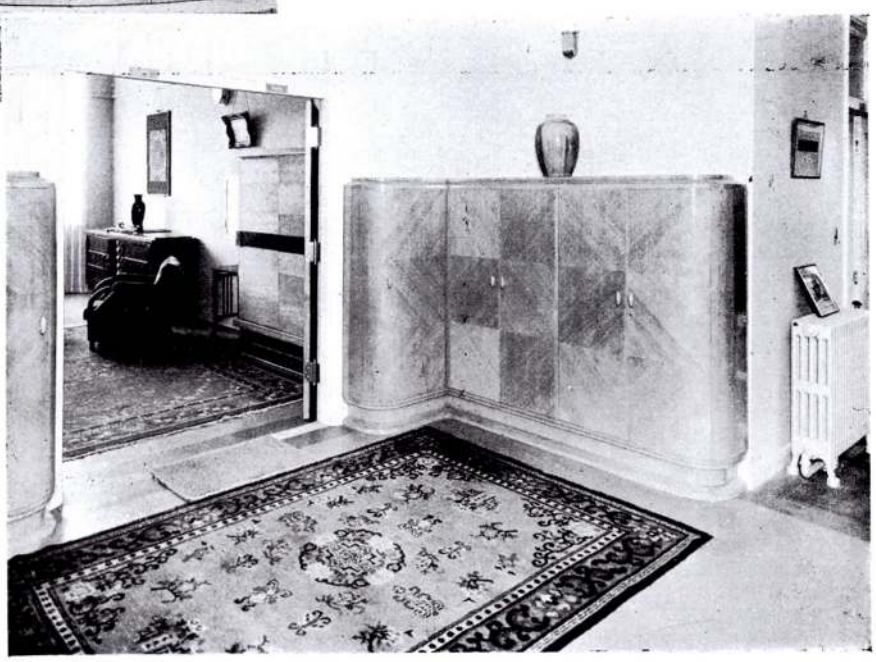
會報……（63）
附錄・新入會會員名簿（自昭和10年12月　至昭和11年6月）



全　　景



正面玄關



二階ホール

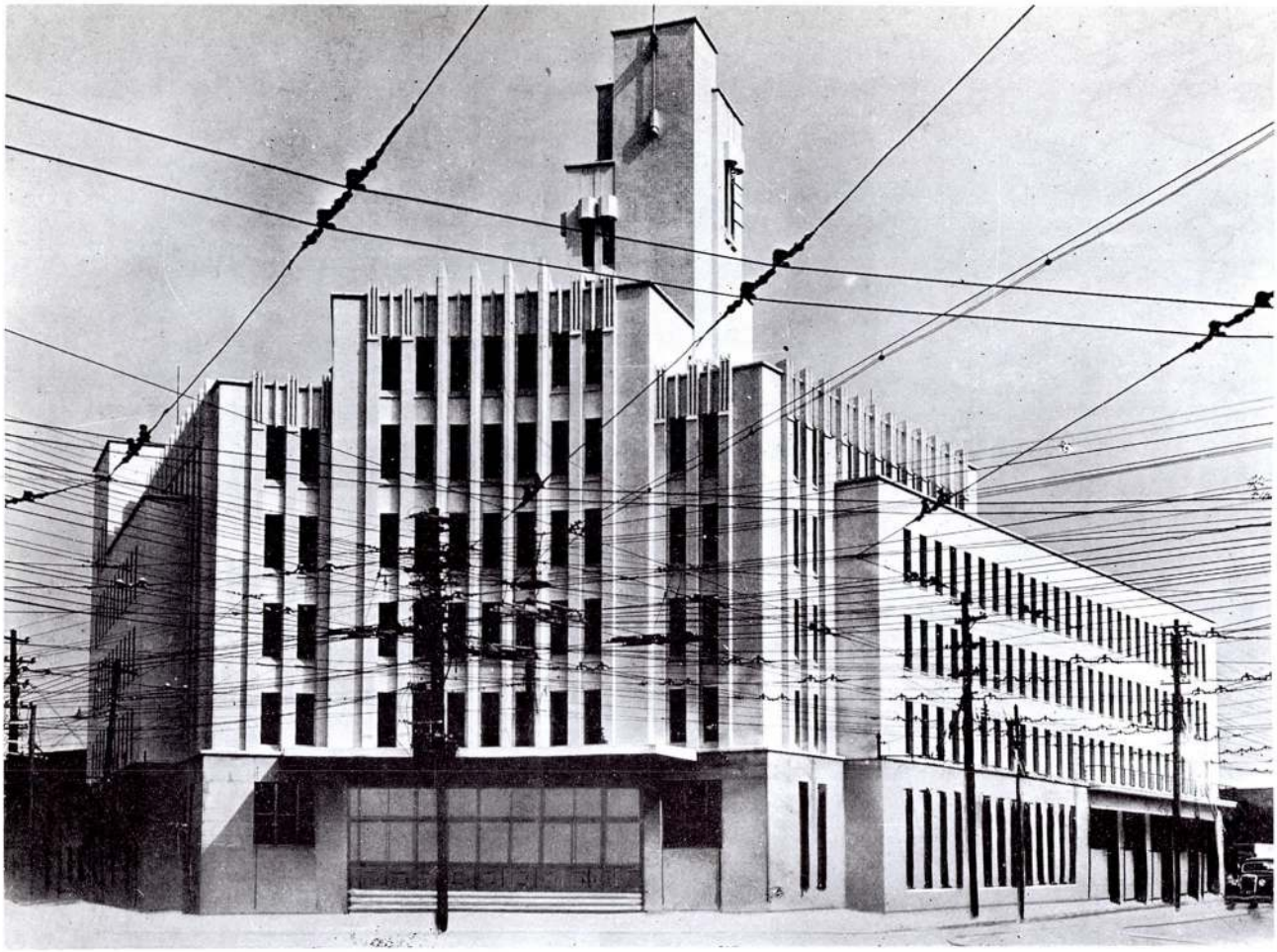
VII 2 "關西日佛學館" 木子七郎氏本誌論文參照



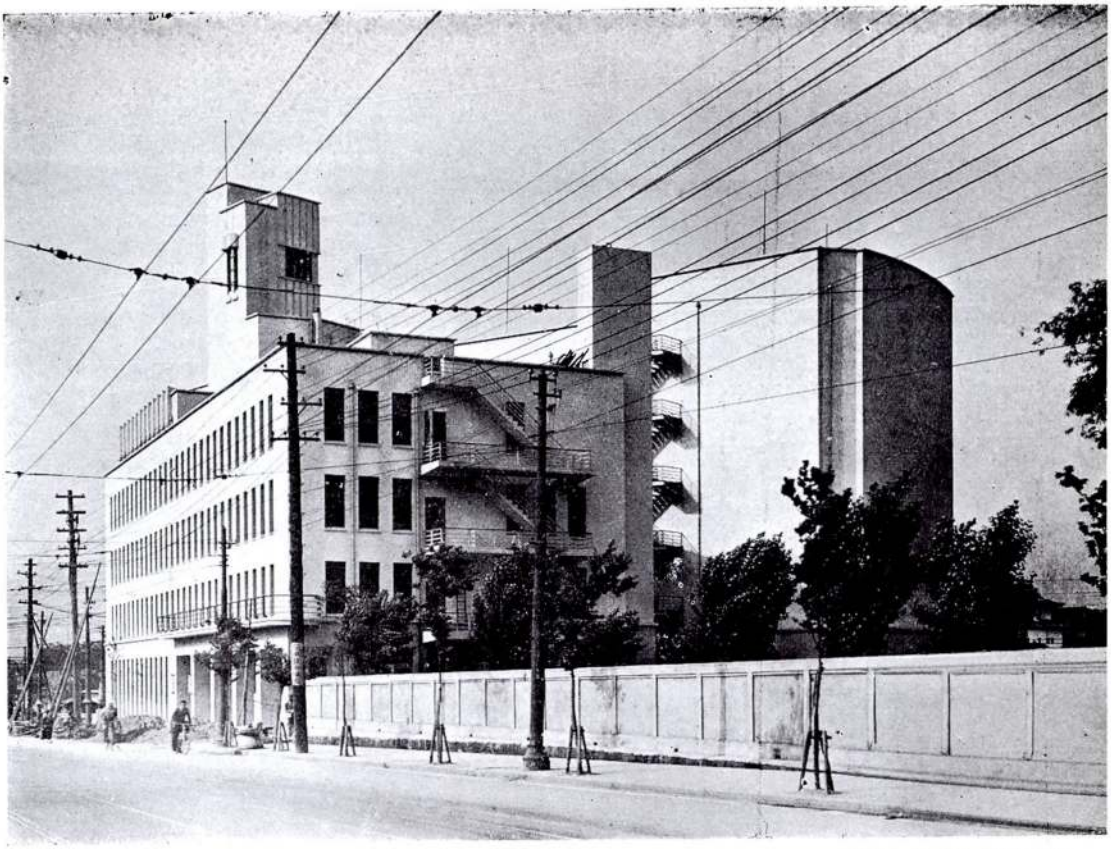
客　　室



客　　室

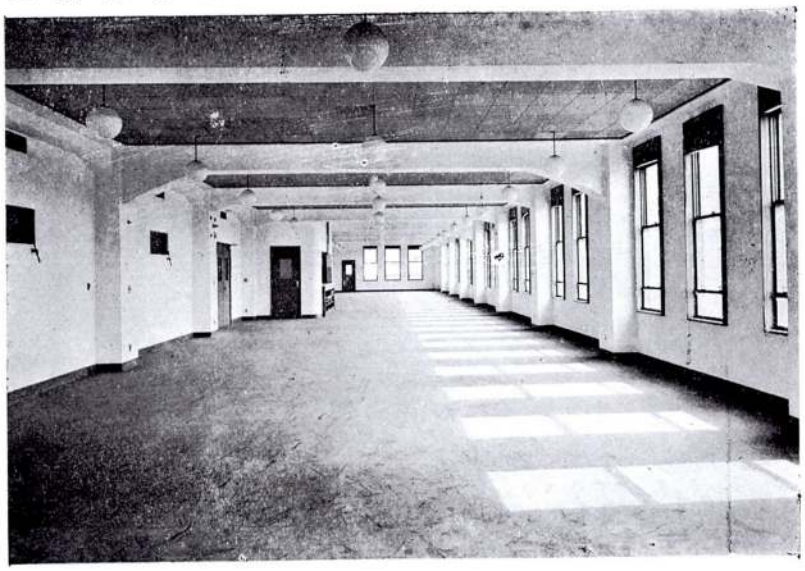


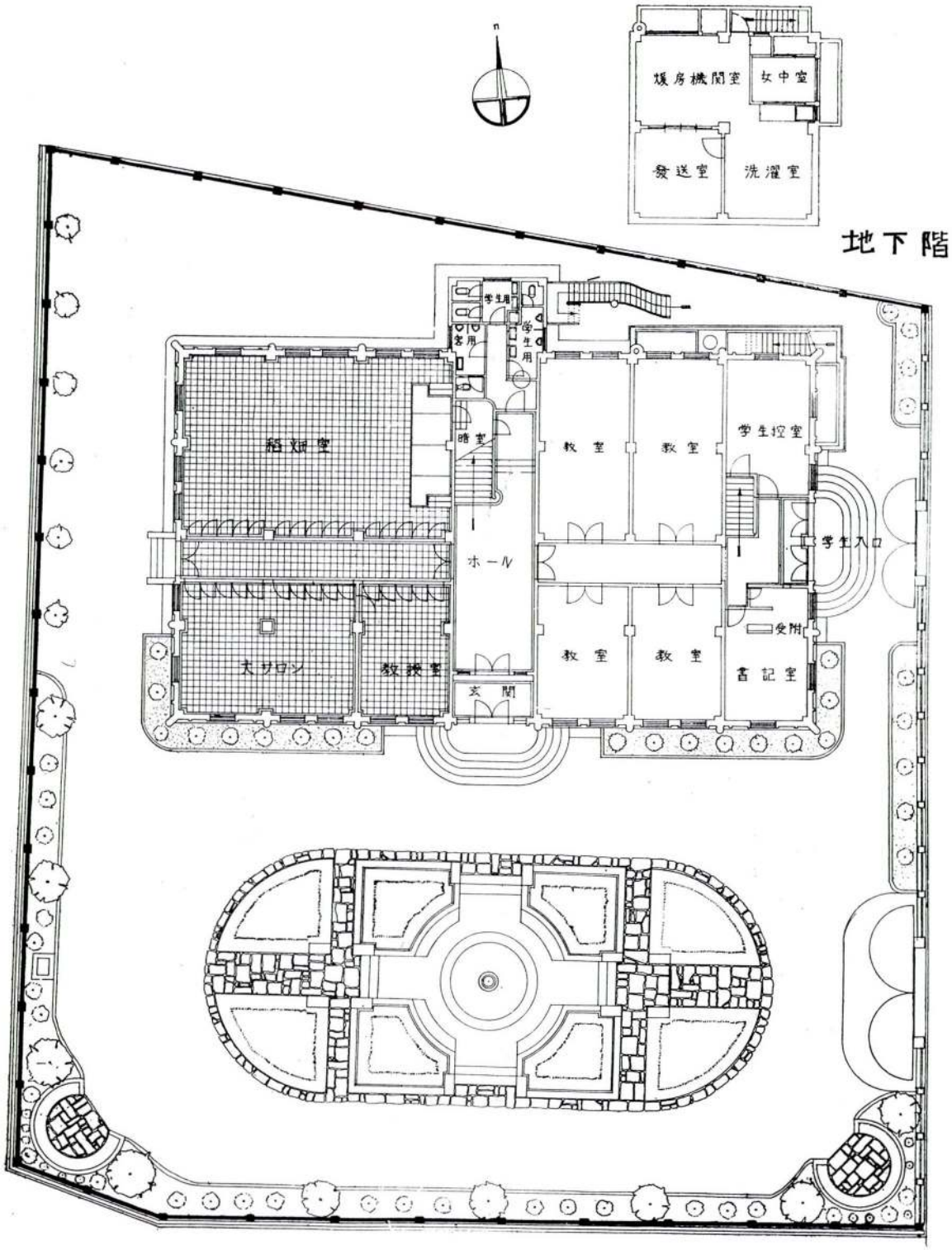
正　面　外　觀



背面外觀（南面）

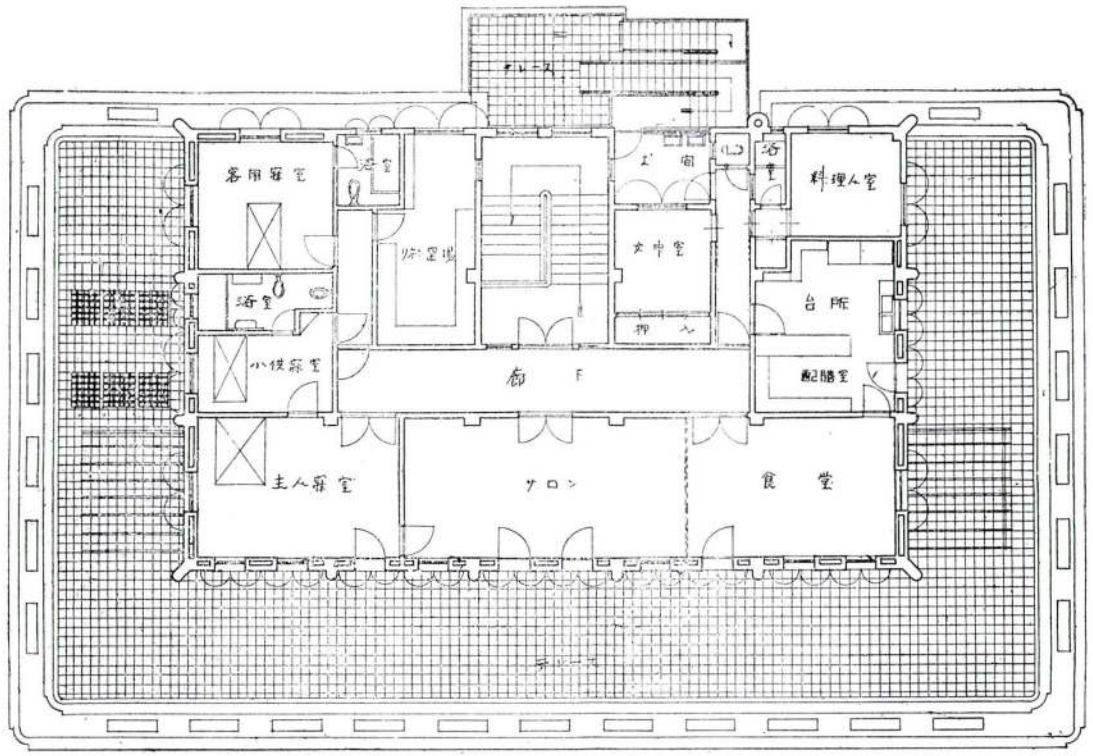
三階事務室



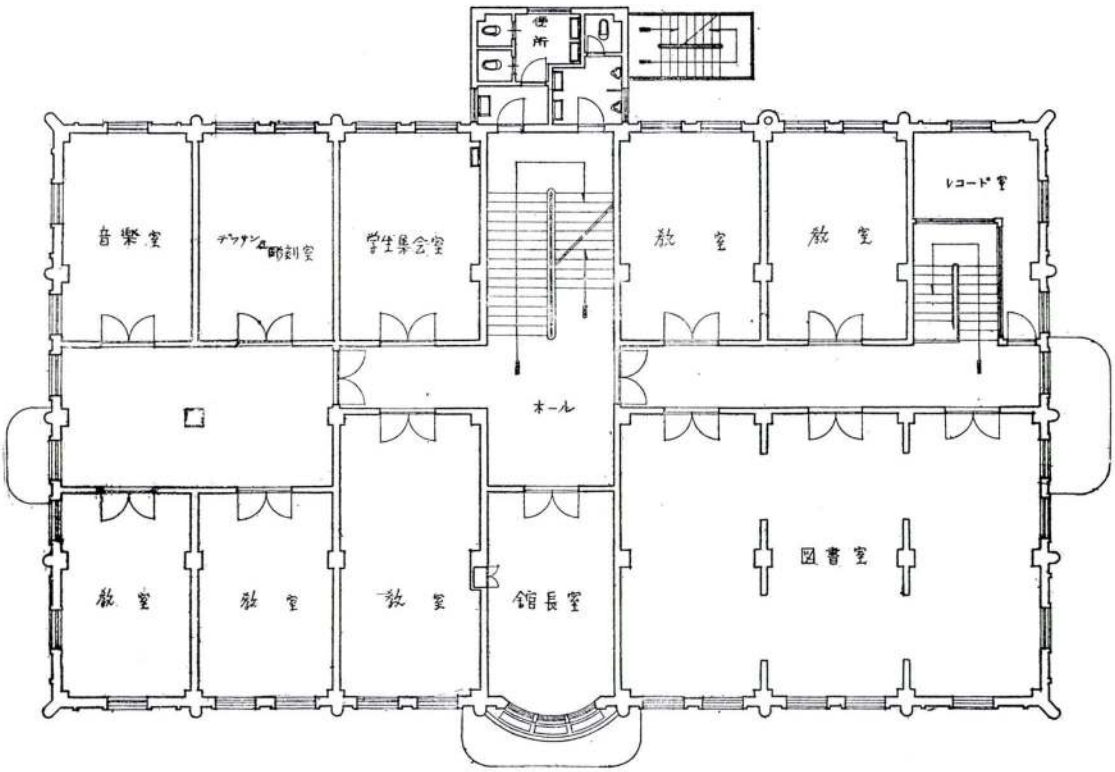


配置及一階平面

VII 6 "關西日佛學館平面圖" 木子七郎氏本誌論文參照



3階平面図

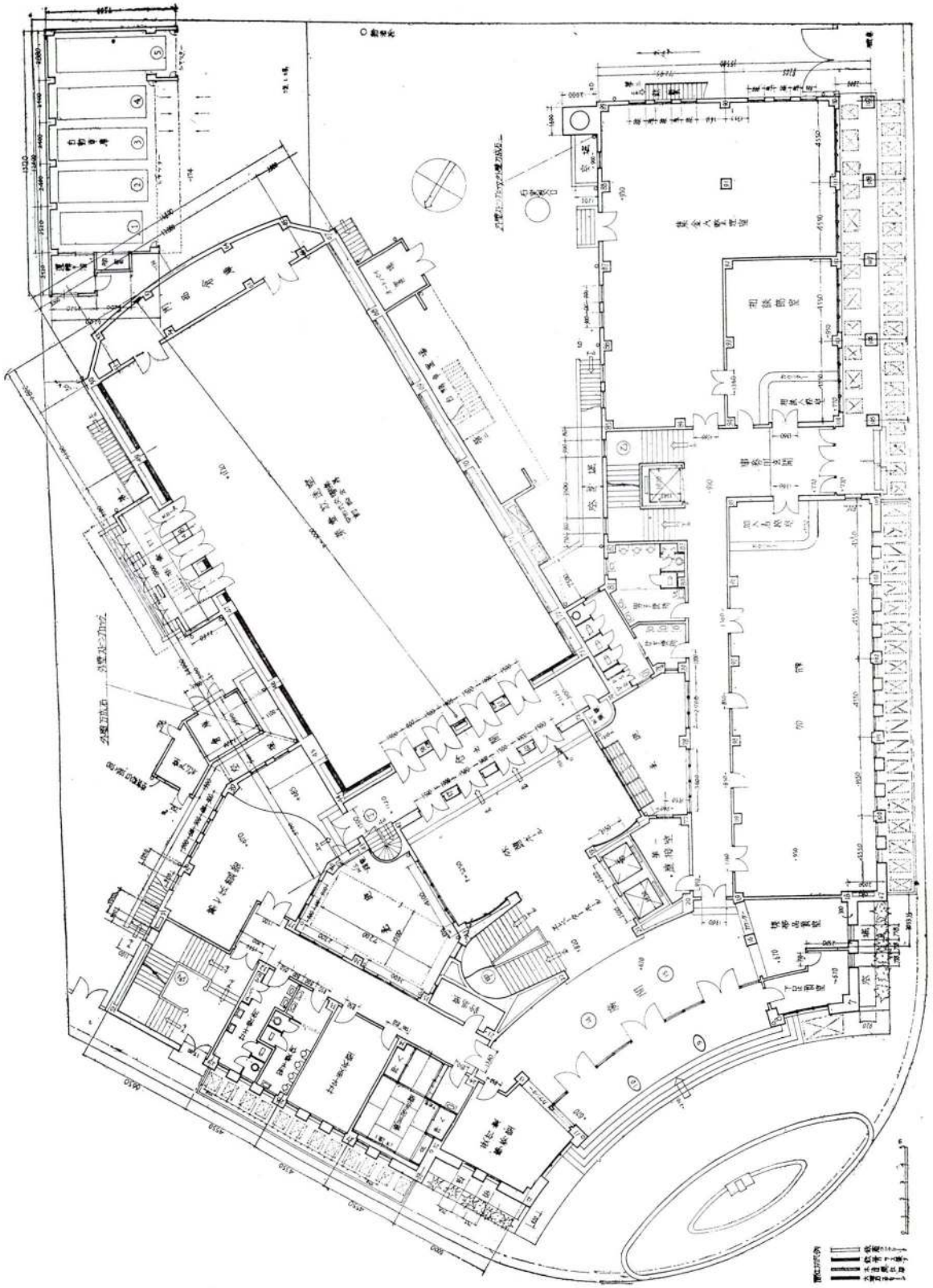


2階平面図

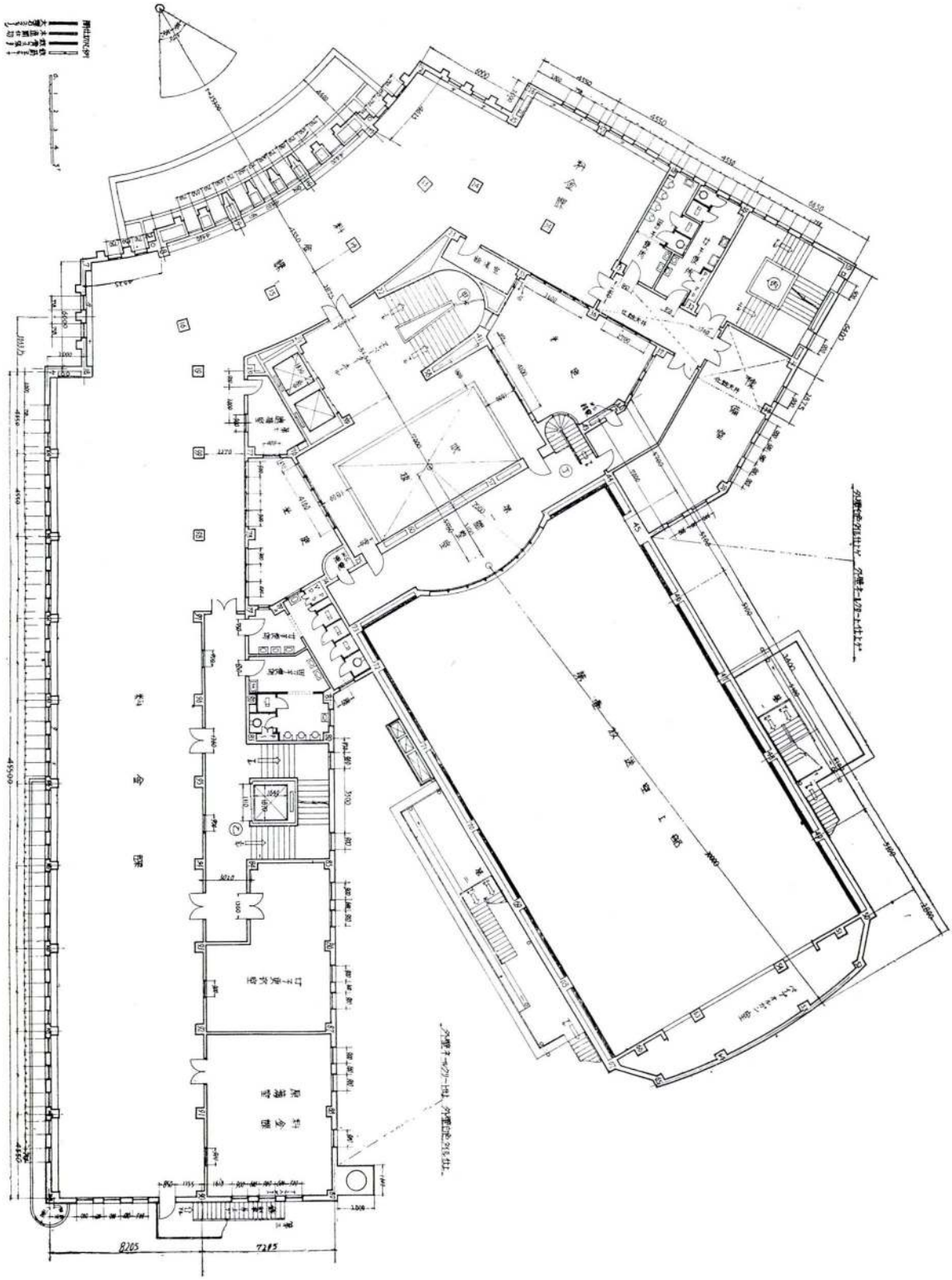
"關西日佛學館平面圖" 木子七郎氏本誌論文參照 7 VII



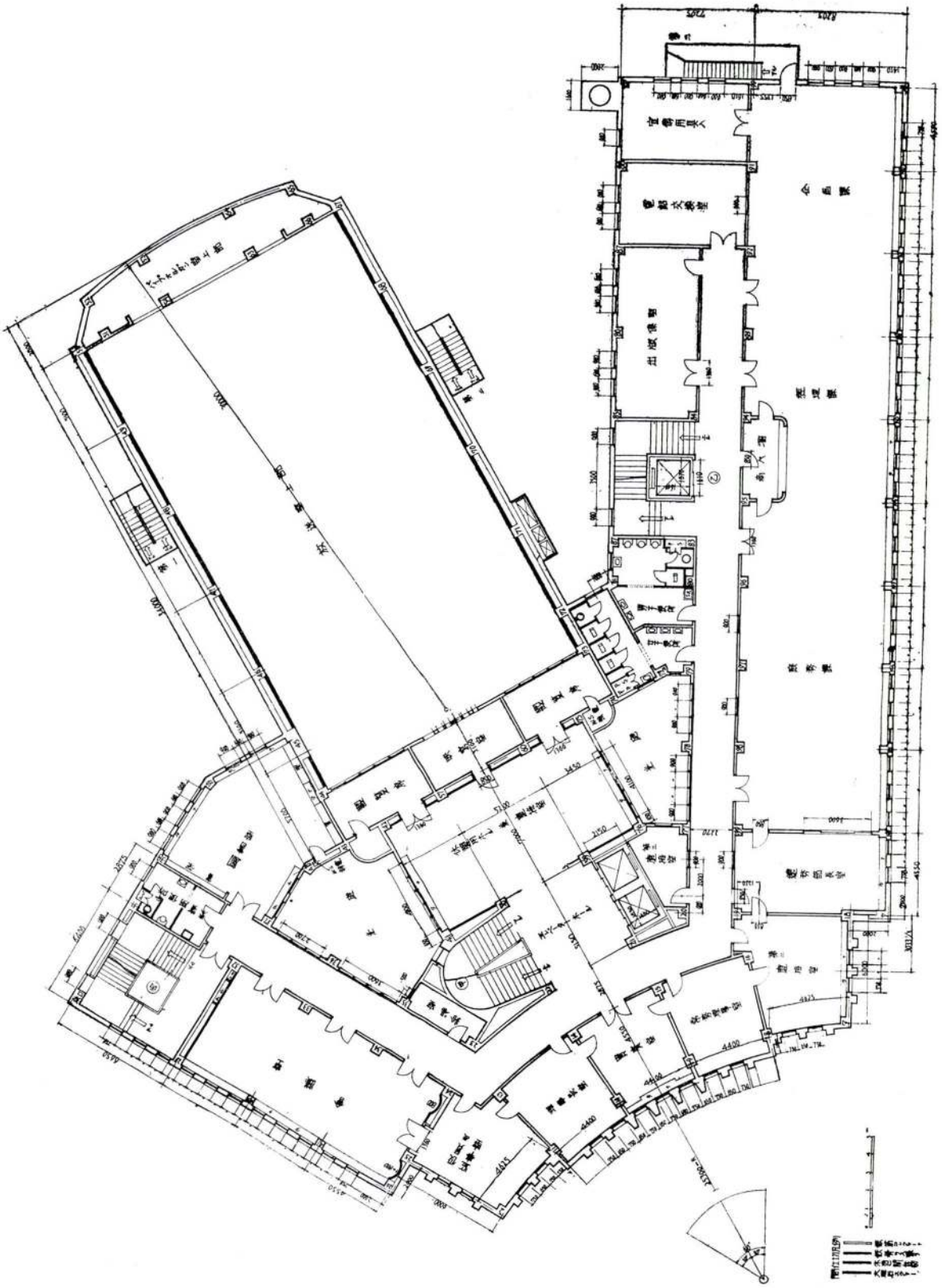
VII 8 “大阪放送會館地階平面圖” 中山克己氏本誌論文參照



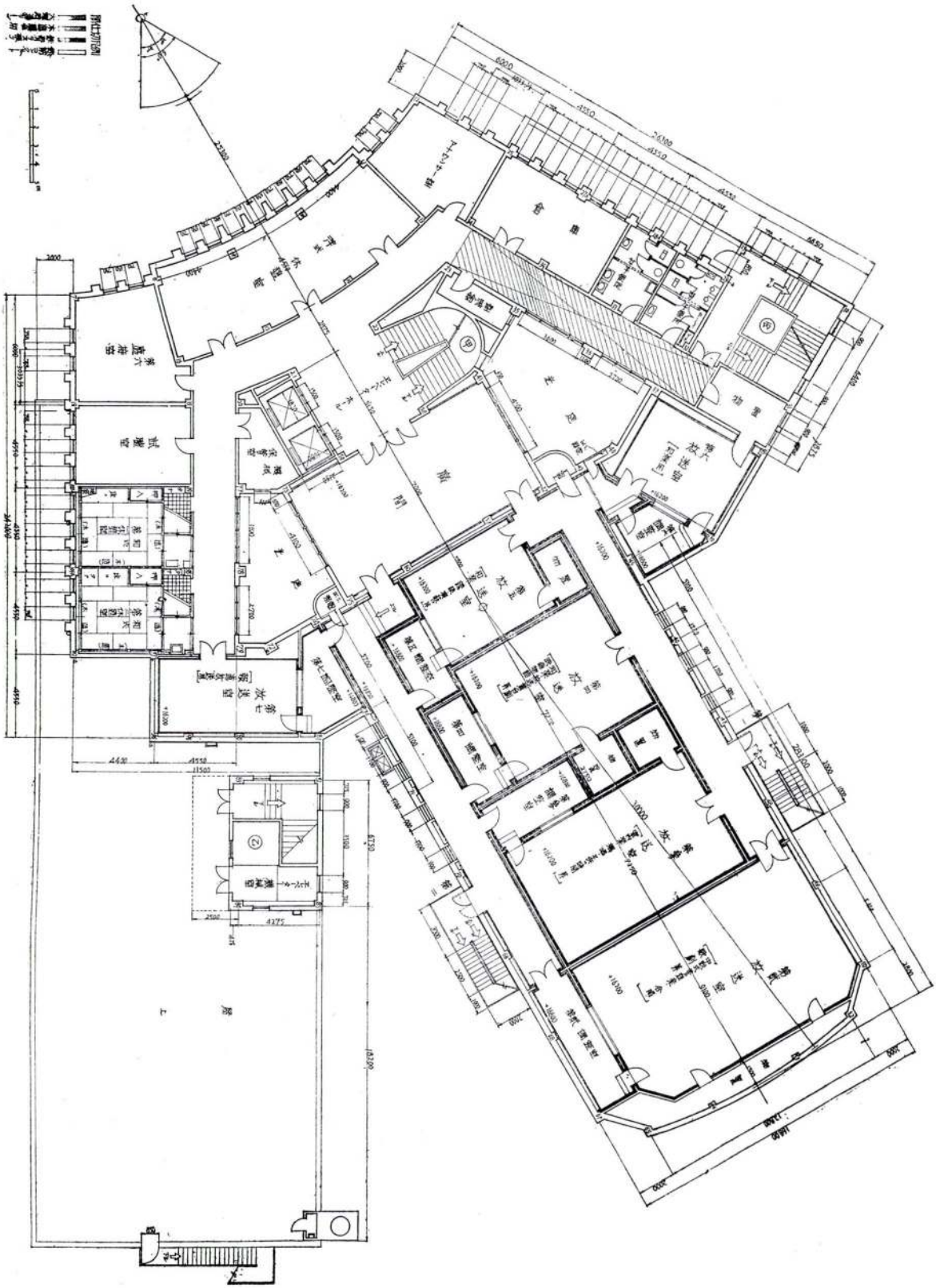
"大阪放送會館 1 階平面圖" 中山克己氏本誌論文參照 9 VII



VII 10 “大阪放送會館 2 階平面圖” 中山克己氏本誌論文參照

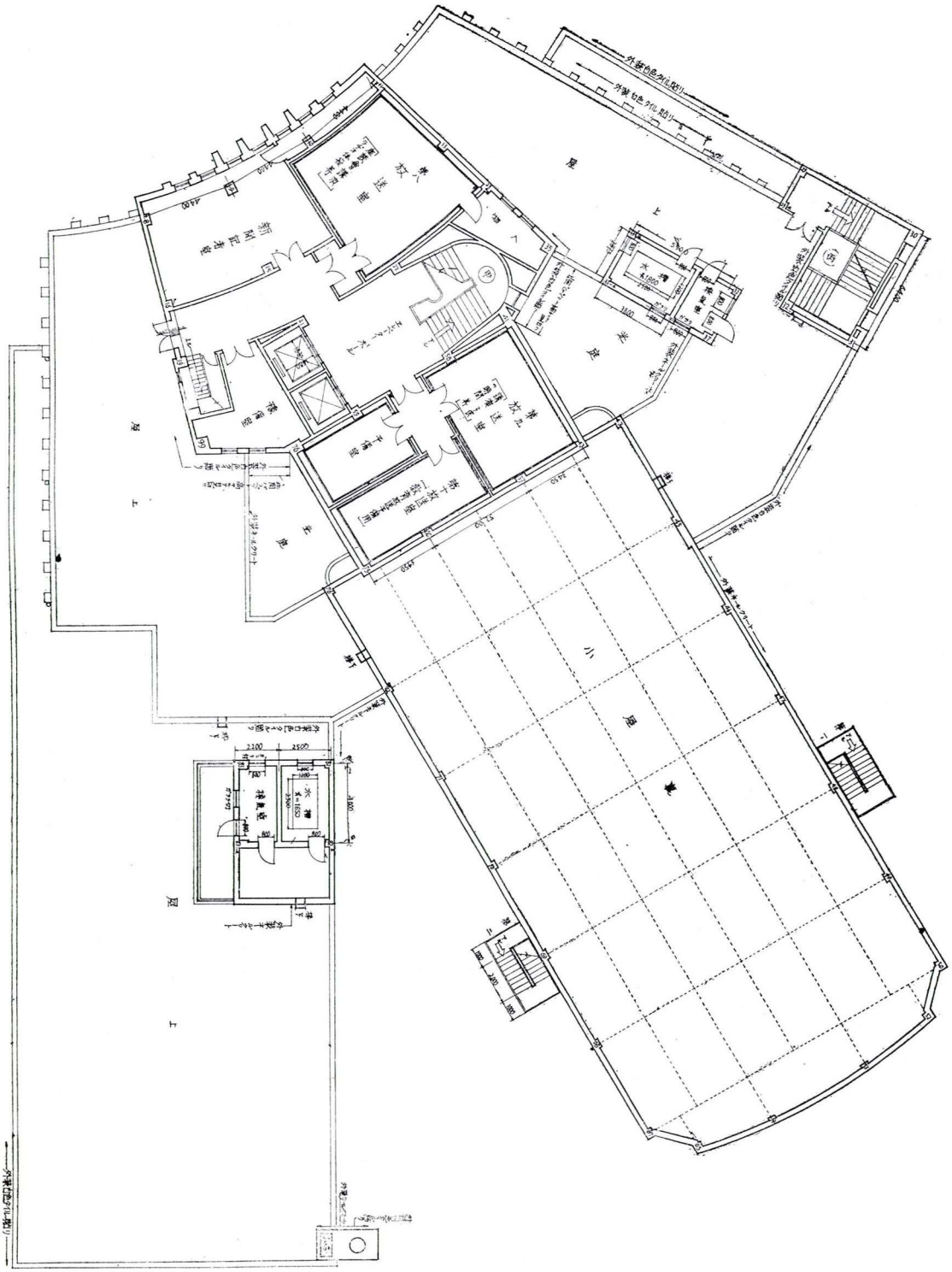


"大阪放送會館 3 階平面圖" 中山克己氏本誌論文參照 11 VII

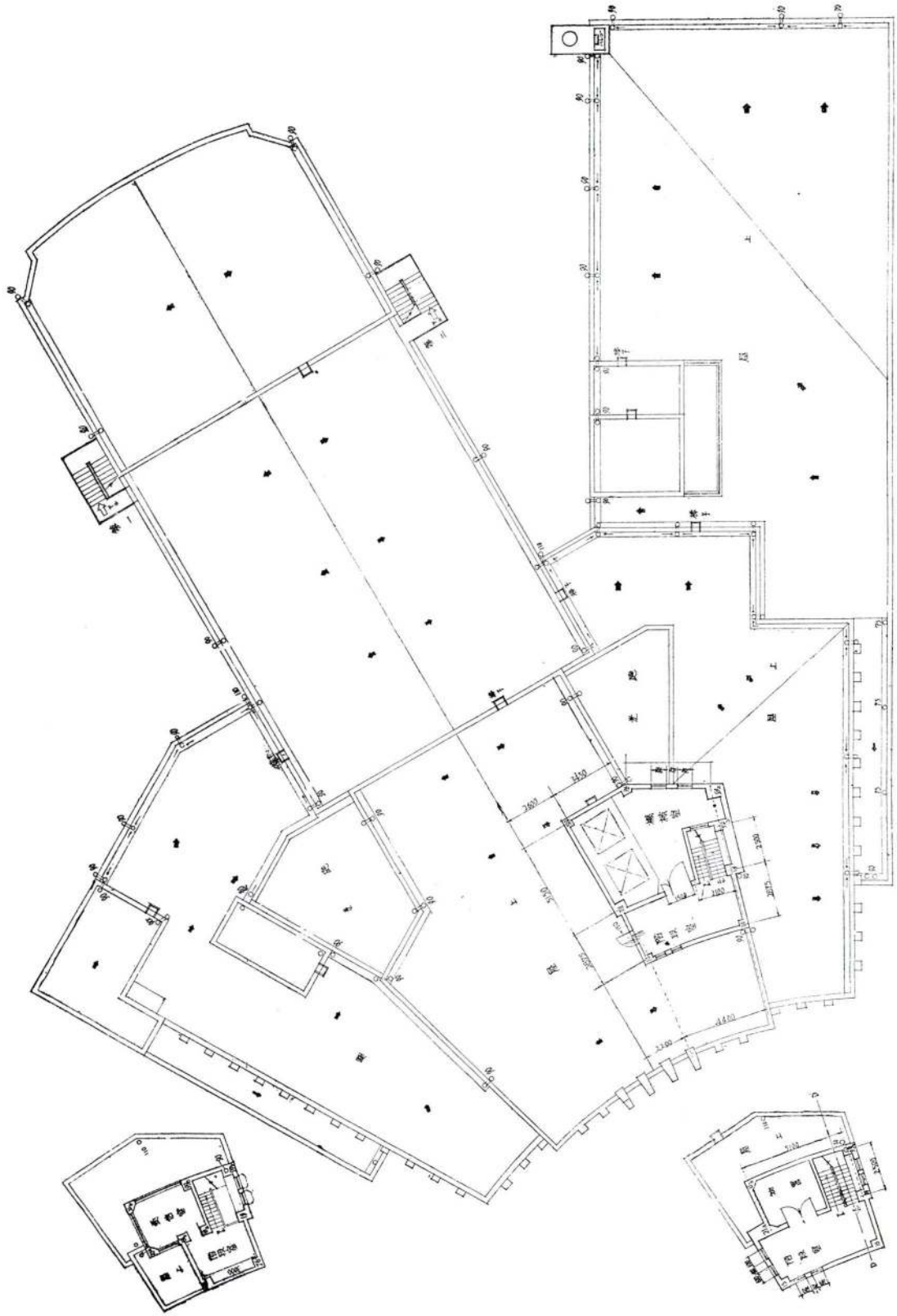


IIV **12 "大阪放送會館 4 階平面圖"** 中山克己氏本誌論文參照

“大阪放送會館 5 階平面圖” 中山克巳氏本誌論文參照 13 VII



VII **14 “大阪放送會館 6 階平面圖”** 中山克己氏本誌論文參照



"大阪放送會館屋階•塔屋平面圖" 中山克巳氏本誌論文參照 15 VII

關西日佛學館の建築を顧る

木　子　七　郎

僅か延500坪足らずの小さな三階建の建築に隨分苦勞してしまつて痩せる様な思ひをした事を顧ると、建築其の物は何んでもなくて外國人、特に此の建築ではフランス人相手の交渉にいらぬ苦勞をしてしまつた事を思ひ出して、將來そう云ふ場合に當面する諸君の參考としたいと思ひます。

何しろ風俗、習慣、言語を異にするフランス人が居住使用する建物なので無論それに適する建物を必要とする事は分つて居るが、此の學館としては階下階上は學館即ち迎賓講演會場等を含む學校として、又三階は全々館長のアツパルトマンとして使用するものなので公館として又居宅として色々の要求が出て複雜な交渉を生じた譯であります。此の體驗からフランス人相手の仕事では

1. 語學が自ら流暢に話せる事によつて先方の意思を充分に汲み、當方の意見を充分了解さし得られる事を要する。最もよき通譯者であつても誤譯や通譯の際の態度ででもそこに誤解が生ずる。感情がからむ。特にデリカなフランス人の場合にはそうだ。

   今回は幼少よりフランスに留學され、佛語を日本人放れして話されフランス人的感情を持つて居られる委員長稻畑勝太郎氏を餘りにも煩はした事を感謝し慚愧にたへない。それ丈け外人側が折れて出た事が多い。

2. 押しの強い事と、感情的にすぐ怒る事、それか一時的ではあるが何んでもかんでも議論で形付けて行く、全く色々の交渉も其の押しとネバリと精力に押されて、大低の場合面倒になつて向ふに屈服してしまつて、あとから不足をならべて居る、之れが日本人の缺點で餘りにアツサリと投げすぎる。國際會議の外交談判で大低閉口たれてしまふのもこれだと思ふ。あく迄威丈高になつて議論し、了解させてしまふにはやはり又言葉の問題になつてしまふ。

   聰明で腹の太そうな子供を澤山英、佛、獨、露等有力な國々に派遣して、幼時から語學をペラペラと喋らせそれに日本魂を叩き込んだ者を必要とするのは、外交方面のみじやない日本人の世界征服に必要な事である。

3. ランス人は屢々晩餐に招いて、家庭の1員として家庭料理を御馳走し、甘いボルドーの葡萄酒をのましてくれて其の際は建築の事の相談を離れて色々面白い話しに興じます我々多忙と言葉の煩はしさから大低の場合はノン、メルシーで斷つてしまふが、之れは彼等にとつては誠に不滿足らしい。やはり厚意を感謝し、務めて招きに應じ又時に招い

て朗かになごやかな平時の交際を忘つてはならない。

4. 設計者の榮譽と云ふ事は充分に尊敬して居る。それ丈け今度は身びいきでもあらうが、巴里で木造の簡單なデッサンをして來たメストラレー氏の原案を非常に尊重し、其の名譽を重んじて居た樣であるが、同時に日本の建築家としての努力と榮譽に對しても大使でさへ充分の尊敬を拂はれた事については、實に感じ入る次第で、日本人の施主の建築家に對する態度とは格段の相違がある事は學ばねばならぬ。それ丈け建築家の技術と社會的地位に尊敬の念を持つのであらう。

5. フランス風の建築で當面する事は、專門的に變つた處が二つあると見ていい。一つは全部の窓入口が內開きである事と鎧戸(ボレー)のない家は家ぢやないと云ふ位に要求される事だ。ボレーあるが爲めに自然內開きとなるのであらう。

始めは全館にボレーを附けろ、附けられないで、殆んど感情問題化したが、遂に館長居宅のみの窓入口で泣き寢入りしてもらつた位だ。尙網戸を絕對に要求された。夏3ケ月は輕井澤へ避暑して留守であるのにもかかはらず……

出入口の巾は兎も角、高さでは大しくじりでした日本人は大低2米乃至2米10位で圖面を引いて居る。2米20もする處は玄關入口しかない。

之れが入口枠を切込んでから低いと云はれて、どうしても2米30、乃至40にしろと云はれて大に閉口しましたが、成程やはり高い奴が來ると低いのは實用には適しない。隣りの日獨學館等でもそんな高くはなかつたと見たが、一寸した事だがむづかしい事です。

6. 構造の問題については地震を非常に恐れて居るので丈夫にしてくれの一天張りでしたが之れはよく任してもらへた。分らないからでしよう。隨分勝手な變更要求を持ち出す、細かくてなかなか金を出そうとは言はない。建築家の責任だと——頑張る、然し若し無理な事ならそれは建築法規が許さない第何條によつてと云ふと、法律に從ふと云ふ事は國民性としてよく訓練されて居ると見へて、忽ちに解決する。

丁度フランスで千六百何十年の法律により樂書を禁ずと書いてある土塀をよく見たが……法律はよく守る。

7. 色調に關する趣味、素養は流石によく洗練されて、淡階調のいい色でペンキ塗りでも家具の色でも撰んでくる。どうも今の日本人建築家は陰鬱な獨逸風を讃美して居る樣だがこの點は巴里ヂヤンは別だ。我々には了解されない原色に近いのを用るたがる。こんな色と云つても塗つてしまつておくと他のフランス人が來ていい色だと賞めるのでつい敗けてしまふ。

8. 何んでもかんでもフランス風に取扱ひたいのは分つて居ます。全く望鄉の念禁じ得ないだらうし同化力も少ない外人の事なので、止むを得まい、然し乍ら日本に建つのだから使用者も日本人の方が多いのだし、日本の習慣に從つた處も作つていいと云つても、仲々聞かない何んでもかんでもフランスだ。

9. 庭園工事では大議論をしてしまつた。植へたいと云ふ樹を一々明細に圖面に書き込んで來られたのを見ると櫻、紅葉、萩壯丹、ツツジ、バラ、藤等々丸で八八の庭が出來て猪や蝶々が澤山くるだらう等云つたものだが、貝塚を植えたりして兎に角開館した處ピラ大使の曰く、此の樹はフランスでは墓場でなければ植へないから、之れ丈けは換へて下さいとの事で、遂に笑ひ話しになつてしまひました。此處にマルシャン館長の手紙を入れて見ましよう。

「フランス式庭園には、ペルゴラ、薔薇、花木、落葉樹等は是非共必要に有之、我々フランス人にとりては次の如き變化は是非望ましき事に候即ち、蕾の花、若芽、新綠から濃綠への移り變り、赤、褐、花の交響樂、若葉の音律、拱門の蔭の光と影の戯れ、約言すれば、多様性、豐富さ、四季の自然の生命、——太陽と悦びの中の、或は雪に輝き、調和ある曲線等が我がフランスの庭園の魅力をなし居候。かかる美を學館の庭園に對して小生は希望致居候ひしものに候」

10. 總てが詩的に美文調にないと承知がならないらしい、手紙の文句でも美しい字句でも美しい字句の羅列です。建築や庭にしても其の通りでなければならぬと思つて居て、總ての觀察が詩だ、そんな様な美文的な氣持で何もかも取扱つて行くと大變喜こばれる。心得て居るつもりでも日本人らしい處が出てしまつて感情の衝突、意見の相違を來す、誠にどうもやり憎い。

11. どうやらこうやら漕ぎつけて見たが仲々不足らしく、中途では自腹を切つてよくしてやつても滿足とか感謝とか云ふ態度、文句は少しも出さなくて現場監督の如きは、外國人は謙讓の美德、感謝の誠意を知らぬケチ一方な動物だ等と罵倒して居たか、竣工式の時には心から感謝して堅い堅い握手で、「皆ほめますほんとにアナタのお蔭様でした」とお世辭ぬきに云つて居たのを考へると禮は一度に云可きものだと考へてるのかもしれない。

何しろ外國人相手の仕事は煩はしいものだ。私は事務所の相當の人を係りとして居た處すぐ意見の衝突をしてノックアウトされてしまつて遂に此の1ヶ年間自ら第一線に立つて其の交涉監督の任に當らねばならなくなつて、忙がしい身體をよくもこんなに京都通ひが出來たものだと思ふ程、仕事以外の苦勞をさせられました。

日本人の建築家じや、外國人相手の仕事はつくづくむづかしいと今でもゾッとする。此の建築では、裝飾は殆んどなく、僅に窓掛、家具の優秀な爲めに非常に見てくれがよくなつた。唯竹馬の友藤田嗣治君が、日佛學館なるが爲めに無報酬で大壁畫を讀いてくれた事を心から感謝する。之れあるが爲めに建築を一段と引き立てたが、彼れは何等の習作も持たずに此の大作を僅か丸4日目で書き上げた腕の凄さと確かさに驚嘆敬服してしまつた。（昭和11年6月6日稿）

關西日佛學館新築工事概要

1. 所　在　地　京都市左京區吉田泉殿町8

1. 敷　地　面　積　1.983.48平方米

1. 建　築　面　積　558.45平方米

1. 延　　面　　積　1.447.86平方米

内　　譯

地　　階　78.32平方米

小使室、ボイラー、ポンプ室、洗濯室、物置

1　　階　547.41平方米

玄關、廣間、學生入口、受附、講堂、貴賓室、講師室、教室 4. 事務室、學生控室、便所、暗室、階段室

2　　階　548.00平方米

廣間、館長室、美術展覽室、音樂室、繪畫彫塑室、女子學生、控室、教室 5. 圖書室 3. 蓄音器室、化粧室、便所、階段室

參　　階　274.13平方米

客間、食堂、館長寢室、小供寢室、客寢室、館長浴室、客浴室、厨房配膳室、コック室、女中室、衣裳室、物置、下浴室、下便所

別 = 露 臺　276.87平方米

1. 階　　數　地上參階、階下 1 階

1. 高　　サ　地上14.米

1. 主體構造　鐵筋「コンクリート」造

1. 工期　起工　昭和10年 5 月 1 日

竣工　昭和11年 5 月27日

設 計 監 督　　建築士　木　子　七　郎

巴里、建築家レイモン、メストラレー氏ノ木造建築略設計ニ依ル

1. 工事施工者　　合資會社　清　水　組

1. 裝　　飾　壁畫(大サ竪2m×2,m70)ノルマンデー風景　　藤　田　嗣　治

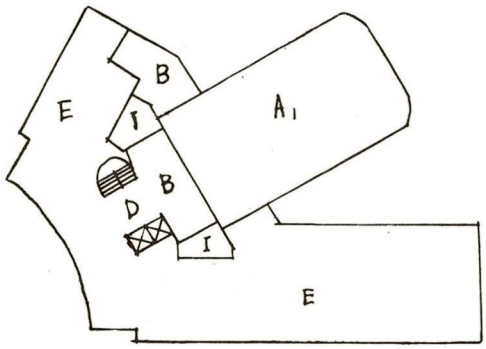
1. 家　　具　貴賓室及館長室家具はフランス政府の寄贈にして巴里より到來す。

大阪放送會館の設計計畫に就て

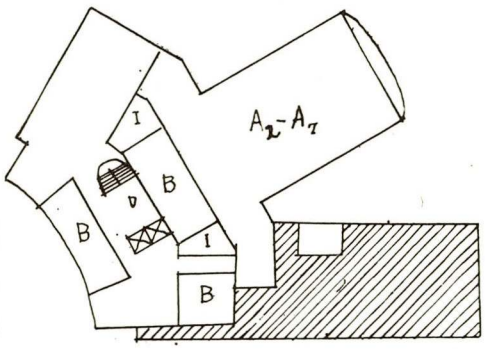
中山克巳

大阪放送會館の設計計畫は昭和7年秋に行はれた指名競技に於ける當選案に基いて進められ、放送協會と設計者との間の細部に亘る打合せの結果今日の如きものとなつたが、設計の基本は競技案そのまゝである。

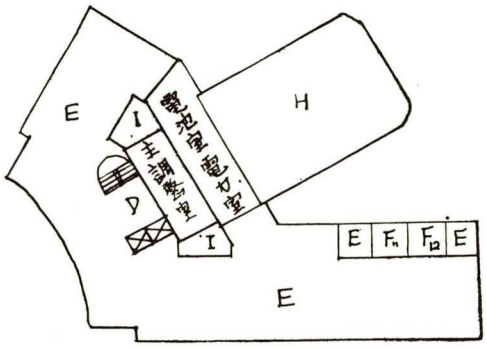
何分特殊の機能を有つ建物であり、特に演奏室に就いては、吾邦では未た經驗も豐富とは言ひ兼ねる狀態なので、設計に當つて折角愼重を期すると同時に、協會側からも、設計者側からも海外の放送局舍の實際を視察するために、人を派した次第である。たゞ外國に於ても、先行者としての經驗の豐かさはあるとはいへ、設計計畫の原則も未だ確立されてゐる譯ではなく、又それらの例を吾邦で直ちに應用し兼ねる事情もあるので、此等の實例も參考に止つたのは、止むを得ない次第であつた。演奏室は猶施工の道程に在り、音響效果其の他に就いては未だ何等の報告をも提出することが出來ないので、茲には設計方針の



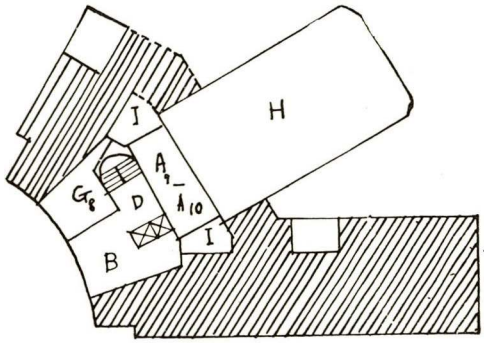
1



5



4



6

大略を述べて、大方の御教示に俟つ次第である。

放送會館設計に於ける建築的關心の重點は自然に演奏室、殊に其の音響的性質に鐘つたその第一歩として、外部の騒音を演奏室から遮斷する方法が考へられる。會館の敷地は二方電車通りに面し、交通量も相當に多いから、この問題は一層切實である。それ故、演奏室自體の絕緣法以前に、平面圖に見るやうに、演奏室ブロックの外廓を一般事務室、休憩室で取圍み、騒音が直接演奏室を訪れるのを能ふ限り防いだ積りである。配置のプリンシプルは圖に示す通りで、演奏室ブロックの1階から3階までは第1演奏室、四階は小屋裏5階に第2乃至第7の小演奏室が配置され、6階は小屋裏に隣つて第9乃至第10演奏室、豫備演奏室がある。ニュース、市況用の第11、第12演奏室及びラヂオ體操用の第8演奏室は、このブロック外に置かれた。

A……演　奏　室　　E……事　務　室
B……休　憩　室　　F……第11及第12演奏室
C……主　調　整　室　　G……第八演奏室
D……エレベーターホール　　H……合屋裏　I……光　庭

同じ様に外部騒音の遮斷の意味で、演奏室には全く窓を設けず、換氣照明共機械的方法に依つた。演奏室用廊下、第11、第12演奏室では、絕緣的要求が他の演奏室に比して低度のため、採光を助ける意味で壁面に開口を設けたが、この場合は上げ下げスチールサッシュと二重の木製防音開窓とから成る三重サッシュ又は嵌殺ガラスブロックを使用した尙、演奏室と外部又は演奏關係以外の諸室との間には、出來るだけ合の間、演奏用物置等を設ける様に工夫した。

演奏室の振動及び音響絕緣方法としては、コンクリート主體の內部に、全然別個の木造架構を作り、之と主體とはフエルト其他のパツキングを介して連絡する方法を採用した。更に遮斷用下地としてミネラルフエルト層(壁、天井)又はロックウール詰物層(床)を形成し、その上に各演奏室の用途、容積等により決定された殘響時間、振動數特性を保つやうに仕上材料を決定した。

仕上材料としては、ゴムタイル類、コルクボード、絨氈、疊(以上床)、プラトン及びテックス類、厚いベニヤ板、孔明きスレート付ロックウールボード、輕クリート、バルボイド、裂地(壁及天井)等を用ひた。

仕上材料配合の一般法則としては、演奏者側を比較的 live に、マイクロフォン側を dead にする方法を採り、容積の比較的大きい室では、定常波の成生を避けるために、壁面、天井面等に適宜凹凸を與へるやうにした。

意匠としてはたゞ平明な表現を志し第6演奏室のみは、用途上純和風に近いものにしようと試みた。

下に各演奏室の用途及び大いさを擧げて置く。尤も用途は確然たるものでなく、ある程度まで混用される結果になるのではないかと考へられる。

第1演奏室（4302.30m³）

大形式の管絃樂、吹奏樂、多人數の演劇、討論會、集會等に使用。聽衆も豫想されてゐる。

第2演奏室（632.67m³）
中形式の管絃樂、合唱、歌劇等。
第3演奏室（287.00m³）
室内樂、獨唱、子守の時間等。
第4演奏室（286.00m³）
和樂、放送舞臺劇、映畫物語等。
第5演奏室（112.00m³）
和樂、講談、演藝等。
第6演奏室（88.00m³）
和樂。
第7演奏室（97.20m³）
報道放送
第8演奏室（143.7m³）
座談會、ラヂオ體操
第9演奏室（94.0m³）
講演、子供の時間
第10演奏室（73.40m³）
教育放送豫備用。
第11演奏室（47.00m³）
第12演奏室（47.00m³）
市況及びニュース

防音扉は木製とし、ベニヤ板、ミネラルフエルト、テツクス、鐵板等のサンドヰツチデ勿論革パツキングを施す。

演奏室と附屬副調室との間のコントロールテーブル前の覗窓は厚さの異る三重のプレートガラスからなるエヤタイト型である。

その他の諸室は、大阪中央放送局用の事務關係諸室、技術關係諸室、演奏者用休憩ホール及び休憩室、設備機械室等である。

下にその仕上の概略を記して見よう。

1階玄關廣間—床テラゾウ眞鍮目地入。壁、ウイルナツトベニヤ板貼。天井プラスターペンキ塗。

1階休憩ホール床リノタイル文樣入。壁、ウオルナツトベニヤ板貼。天井プラスターペンキ塗。吹抜正面壁上部に漆仕上世界地圖を嵌入する。

1階第7休憩室—床リノタイル。腰楯ベニヤ板貼。壁及天井バルボイドペンキ塗。

昇降機ホール—床リノタイル。壁テラゾー。天井プラスターペンキ塗。

主階段室—蹴上、踏面共テラゾー色變リ。腰テラゾー。壁プラスターペンキステイツプル仕上。

一般事務室—床フラワリユーム。壁プラスター。天井ケンテツクス及プラスター。

3階貴賓室—床リノタイル。壁シトロニアベニヤ板貼及びプラスター。天井プラスターペンキ塗。

同上休憩ホール—床リノタイル。壁チークベニヤ板及びプラスターペンキ塗。天井プラスターペンキ塗。

同上會議室—床チークフローリングブロツク。壁ウオルナツトベニヤ板貼。一部鏡付。天井プラスターペンキ塗。

4階主調整室—床ライトラバー貼。腰ライトラバー。壁バルボイド眞鍮ホワイトブロンヂング仕上目地入。天井バルボイド塗。

同上聽守室—床フラワリユーム。腰鹽地ベニヤ板貼。壁天井共ケンテツクス。

5階休憩ホール—床リノタイル。壁ウオルナツトベニヤ板貼及びプラスターペンキ。天

非プラスター及びコルク吹付ペンキ塗。

同上洋式休憩室—床リノタイル。壁プラスターペンキ及び綠色葛布貼り。天井プラスターペンキ塗。獨立柱ラツカー仕上。

地階食堂—床テラゾー眞鍮目地入。壁モザイツクタイル、一部パルボイド及びプラスターペンキ。天井プラスターペンキ。

外裝は道路に面する部分及び隣地側一部地上から2階蛇腹まで萬成花崗石張りサンドブラスト仕上げとし、2,3,4,5,6階分は淡黃色タイル貼仕上。その他の部分は、地上二階蛇腹迄カストストーン貼とし、以上6階扶壁までネールクリート塗仕上。

設備は電燈、電話、動力、電氣時計設備、衞生設備、昇降機、消火設備等を具備すること一般建物と變りがない。

猶別に非常時用蓄電裝置及自家發電裝置を備へ、休憩室、應接室、試聽室、聽守室、部長室、食堂其他要所にラウドスピーカーを置く。放送用電氣設備としては、4階中央部に主調整室があり、之に隣つて放送用電力室及電池室を設け、主調整室からは各副調整室及演奏室へ放送用配線樋が通じてゐる。

照度は一般事務室に於て80ルクス、(最低)、演奏室に於て200ルクス程度に設計してあるから、まづ充分ではないかと考へる。

空氣調整裝置は、四系統に分れ、そのうち第1、第2系統は演奏室關係、第3、第4系統は事務室關係に充てられてゐる。

事務室關係は最初直接煖房方式に依る計畫であつたが、構造主體完成後冬氣溫風煖房を行ふことに變更されたので、風導管の配置其の他に多少の無理が生じたのは止むを得なかつた。又廊下で天井高が可成り低くなり、天井面と窓との取合ひなどに不都合を生ずる個所も出來て相當苦心しなければならなかつた。

第3系統は一般事務室用、第4系統は地階食堂用とし、現在は冷凍機を備へず冬期のみ完全な空氣溫濕度調整を行ひ、標準狀態で溫度17°C 程度50%內外に保たせる計畫である。

將來は地階機械室內に冷凍機を設置し、夏季も完全な空氣調整を行ふ豫定である。

便所及地階一部には、直接煖房を採用した。

第1系統は第1演奏室用、第2系統は第2乃至第12演奏室用で、地階にキヤリヤーブランスウイク型100噸冷凍機を備へ、夏冬共完全な空氣調整を行ふ。標準狀態は、冬氣外氣溫度—1°C 濕度50%の時室內溫度約18°C 濕度50%、夏季外氣溫度35°C 濕度48%の時室內溫度26.8°C 濕度約50%程度に保たせる豫定である。

演奏室に於ては、風導管から生ずる雜音及び風導管を通じて傳達される機械其の他の振動は注意して避けねばならぬので、機械類に防震基礎を施工すると同時に、風導管要所及び吹出口吸込口には特殊の消音裝置を施し、風導管からの騷音をある程度以下に reduce することに努めた。

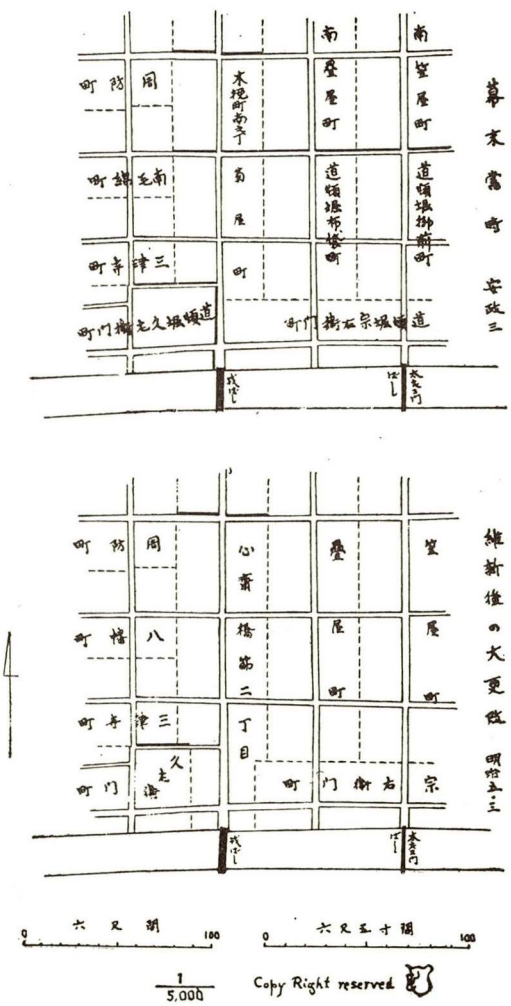
猶、演奏室には採光窓の無い關係上照明器具のうち一部を紫外線燈とし、建物の保健性を高めるやうに試みた。

大阪昔時の地割を論ず

佐古慶三

元和偃武の直後わが大阪の更生策として徹底的な市區改正の施行[1]を見たが、地割そのものに改變を加へたとは考へられない。なんとなれば横堀以東の城地三之丸を開放して、新市街の造成を試みた方面の町割は、條里制の遺構を過分に留めてゐるし、飜つて豐太閤の時代より城下町として既に發展を遂けてゐた船場の町割には、それと違つた特殊な地割をそのまま持續させてゐるからである。この路幅引くるめて京間45間正々方々の特殊地割[2]こそ、難波京に於ける條坊の遺制であると筆者は確く信ずるが、藤田元春氏の說かれたところでは京間40間正々方々になつてゐて實地の數字と合致しない[3]。大阪市史に菊屋町水帳を引き、各戸の奥行必ず20間[4]なるより推せば町幅は40間を定制とせるものかとあつても、これは綜合的判斷を忘れた一知半解の認識不足論に過ぎぬ。菊屋町水帳では事實その裏行20間となつてゐるにせよ、これを合せた2240間で町幅が成り立たない所以を第1圖[5]に據り知つて頂きたい。東半分を占むる道頓堀布袋町、西半分を占むる南毛綿町に三津寺町いまそれら各町の水帳に附屬する繪圖面を稽査せんか、道頓堀布袋町は21間、南毛綿町は20間4尺、三津寺町は20間1尺7寸5分とあり、しかも町界にはそれぞれ下水敷の除地が間半内外[6]あるため、2240間では愈々町幅に不足を來たすことが判かる筈。かく東西に於いては町幅40間以上なるに反し、南北に於い

第　1　圖





第　　2　　圖

ては町幅38間しかない。尤も菊屋町の場合は例外視すべきであつて、下水敷を設けぬ側の町幅は42間あるを通例とする。これ八幡筋以南の町々が、所謂道頓堀川八丁の開發されてから後に、充塡的地割を行ふた振合上さうなるに至つたものとおもつてゐる。

(1) 拙稿「大阪都計の今昔」(大阪朝日、大正14、2、15—24)參照。

(2) 拙册「大阪町割制に關する一考察」「再び大阪の町割制を論ず」の各小文に於いて推考を試みておいた。

(3) 卑見は「大阪の町割を論じて藤田學士に示教を請ふ」(大阪史談會報2ノ1)に。

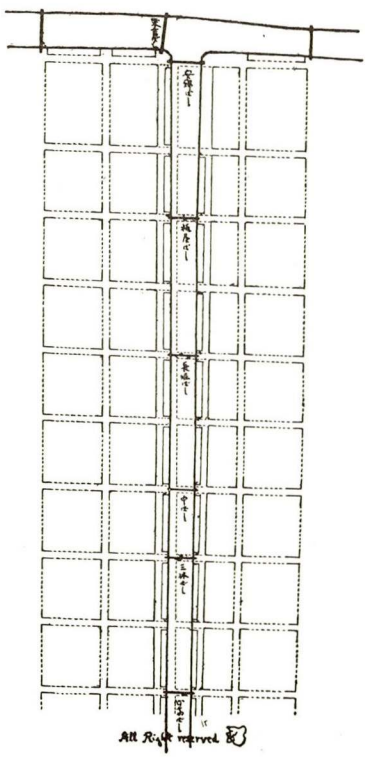
(4) 市史には何等斷り書を見ないが、間棹は勿論京間の曲6尺5寸棹である。國史大辭典でも大阪に京間の行はれてゐたことを說いてゐない。

(5) 圖は安政三年改め各町水帳繪圖に基いて作製し、新舊の町名、町域を對照させておく。しかし京間45間の方罫は赤刷せねば徒らに煩雜を來たすので除くことにしたが、添ゆるところの縮尺に從つて判定を願ひたい。

(6) 水帳の繪圖では下水敷が間半内外になつてゐるが、元和の町割當初は1間だつたものと信ずる。

とにかく船場島之内には京間20間の裏行が斷然多い。でも地割としては、路幅引つくるめての京間45間、うち3間に4間が路幅、これを引き去つた42間に41間（下水敷を除けば2240間の裏行となる）が即ち町幅になる勘定[1]であつた。卑見は多年の蒐採による水帳繪圖[2]を統括し調査せる結果であつて、また實測圖上に於いても事實それに相違ないことの證明をば直ちに擧ぐることが出來るのである。いま陸地測量部發行の1萬分1地形圖大阪近傍8號に京間45間の方罫を描き入れると、現在でも尚その町割が京間45間てふ方罫に、しつくり契合す(第2圖參看)を知るであらう。ただ長堀の川沿ひにて約束破りのもの——船場は鹽町通りの南側にて京間12間半[3]の裏行、また島内は鰹谷にて京間20間の裏行ではあつても片々だけしかないもの[4]——あるを見出すが、これは長堀川の疏通(寛永2)によつて素された元和の町割を取繕はんがための一工夫に過ぎぬ。蓋し船場と島之内が一聯の地割で連らなつてゐたことは、第3圖[5]の復原で一目瞭然となる筈。しかして筆者の京間45間といふ實長が、平城京に於ける條坊の1町曲30丈のそれに相等しいこと[6]を想到せんか、難波京の由緒を誇るわが大阪の地に、條里制では說き盡くせぬ京間45間正々方々の特殊な地割が、千載の後まで殘つてゐて何等差支ないではないか。從前相承は地割制の守るべき約束とはいへ、よくも傳へ來たつたものと京間45間の、この特殊地割に對する認識を愈々深めなければならぬのに藤田學士は如何。儼然たる事實の敎ゆるところを一切等閑に附して、京間40間正々方々の地割——しかもそれは4間の路幅を除いてゐるから併算せば京間44間の地割を以つて、四天王寺の曲40間即ち高麗尺200尺平方の地割に關聯をもたせ、條里制の布かれてゐたこと疑ふべからざる上町の丘地[7]でさへ、おなじ曲40間正々方々の地割であると、地圖上に模索[8]を行ふ獨斷の外なにもないではないか。

第　3　圖



(1) 前揭「町割考察」參照。

(2) 安政三年改め各町の水帳繪圖は「大阪古町圖說」と題して逐次頒布、いまでは其5に及んでゐる。

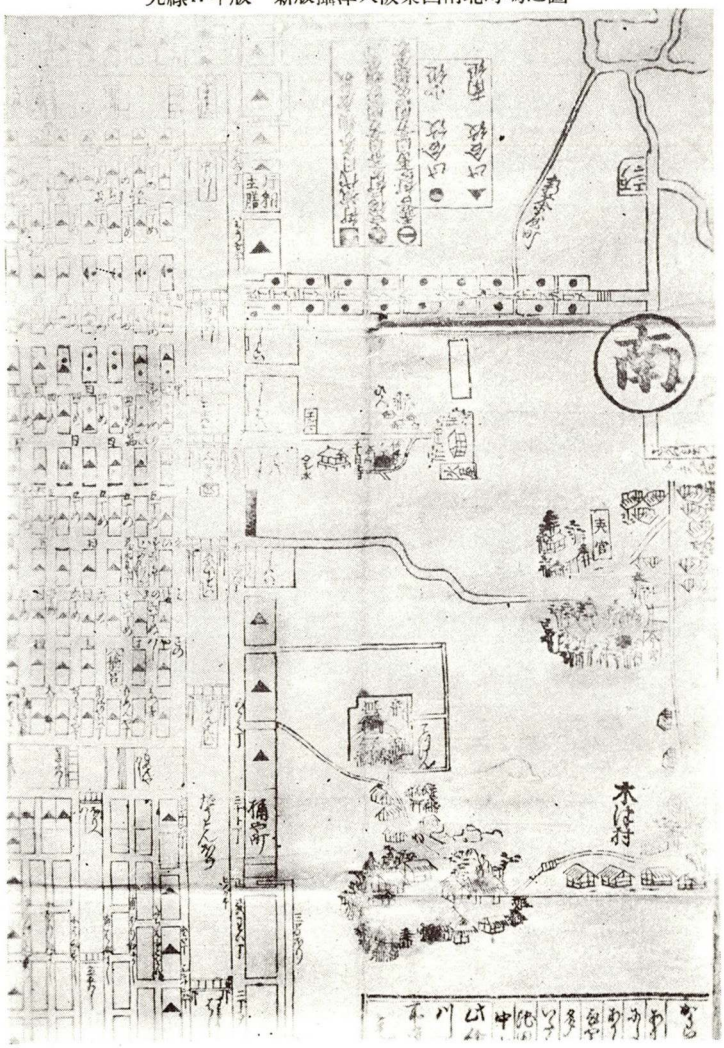
(3) 拙册「大阪古町圖說其4」所收の鹽町通り各町の水帳繪圖と對照のため舊間の京間そのままを。

(4) 町割としては裏行20間の片々であつたが、1町の構成は長堀川を挾んで裏行2240間となり、町名を長堀次郎兵衞町、長堀心齋町、長堀十丁目と附けてゐるから理窟はおなじこと。

(5) 實際の計數を入れた青寫眞の明細圖は前揭「町割考察」に收めてある。

(6) 平城京の用尺が曲9寸7分5厘の1尺であつたことは、喜田貞吉先生が旣に論究されてゐる。そでこ

元祿17年版　新版攝津大阪東西南北町嶋之圖



$65^{尺} \times 45 = 2925^{尺寸} \div 9.75 = 300^{尺}$

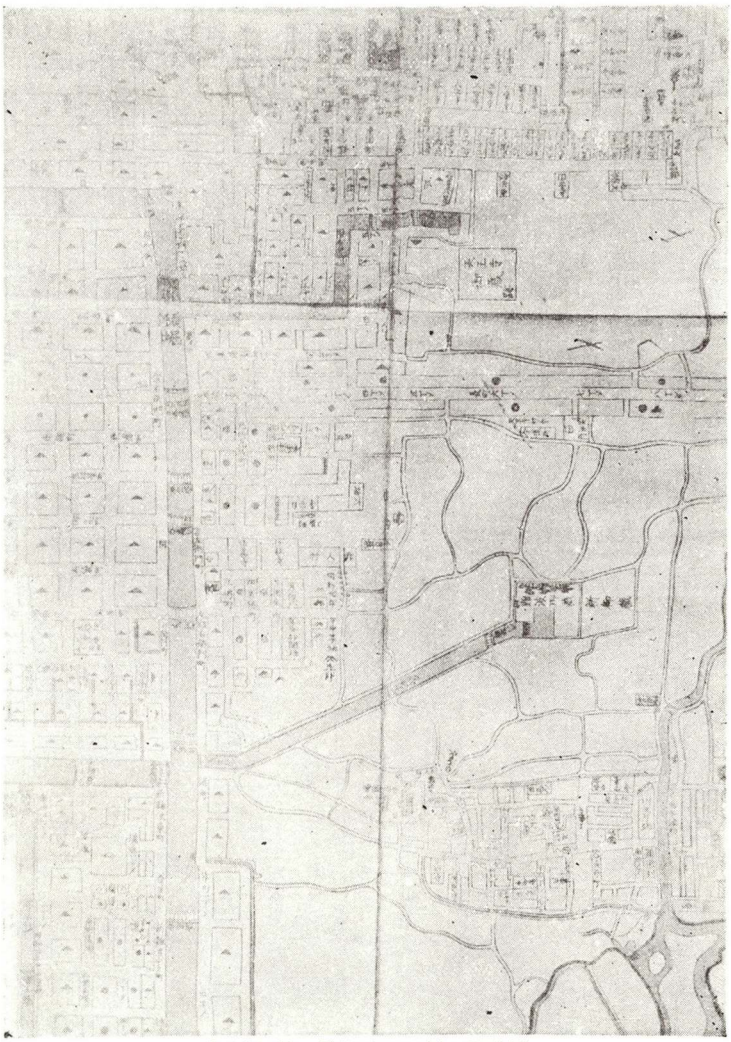
かかる方程式が成り立ち、京間45間は曲30丈といふことになる。

(7) 天坊幸彦氏「南攝の條里」(歷史地理、53ノ6) 參照。
拙册「城南の地割に及ぼせる條里制の影響」を併讀。

(8) 藤田元春氏著「尺度綜考」第69圖 p. p. 456—7 參看。

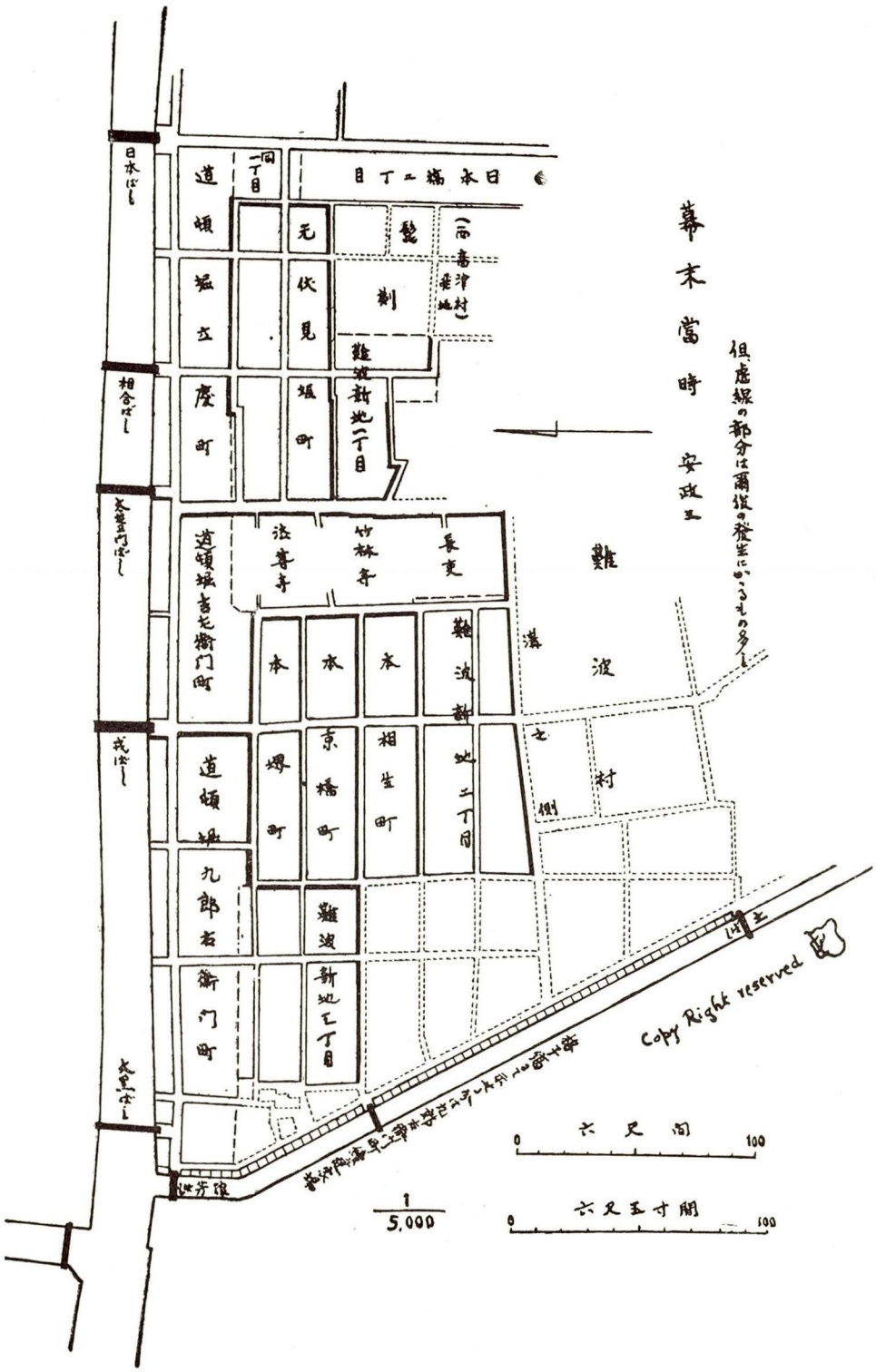
では京間45間正々方々の地割の存するところ、難波京の故地であると認めてよいかといふに、さう

は一概に定められない。元禄11年の開發にかかる堀江新地[1]は、この京間45間地割に則つてゐたことが窺はれるが、新地開發前は上難波村と下難波村に屬する田畑であつて、條里制[2]の坪讀み[3]も殘つてゐた土地柄である。また京間20間の裏行ならば、船場島之内以外でも所在に散見する。[4] 2、3の例を擧ぐれば、道頓堀の開鑿（元和元）と共に新規に町割を施された道頓堀川８丁の裏行が孰れも京間20間となつてゐる。[5] 尤も九郎右衞門町の如きは現在その裏行28間前後に達してはゐるが、[6]



文化3年版　増修改正攝州大阪地圖

これは享保年度に町尻にあつた懐徳堂助成のための預ヶ地を、明治５年の町名町域大更改では難波新地３丁目の一部を、翌６年の市郡境界整理には難波村領の若干を、逐次併呑せる結果[7]かく延びたものであつて、當初の裏行に變化を來たしてることは注意を要する。泉州堺への街道筋に沿ふて出來た一條の細長い町なので、昔は長町と呼ばれてゐた今の日本橋筋でも、裏行はおなじく京間の20間であつた。元禄末の地圖（第４圖參看）は當時の狀態を髣髴たらしめるけれど、古地圖の慣はしとして縮尺が一致せない。故に道頓堀と長町は各町の裏行に於いて、大小あるかの如き感じをば與ふるが、水帳繪圖に從へば京間20間のおなじ裏行である。[8] かく地割に於ける保守的作用のもつ根強さより當然考へさせられることは、もし何等かの都合あつて下水敷を取らなかつた場合はどうなるか。京間2240間の裏


幕末當時
安政五
俱虚線の部分は爾後の發生にかゝるもの多し
日本橋
相合橋
長吉橋
戎橋
水車橋
日本橋二丁目
一丁目
道頓堀
元伏見
靱
高津村
難波新地一丁目
堀江
難波
溝
之
村
道頓堀
九郎右衛門町
法善寺
竹林寺
長吉
本
水
京橋町
相生町
難波新地二丁目
難波新地三丁目
1:5,000
六尺間
六尺五寸間
Copy Right reserved

第 6 圖

行で以つてする例があつたかと確めるに、幸町新地が正さにそれで、裏行40間が即ち南北の町幅となつてゐるではないか。これ幸町が西道頓堀の南岸に位する片側町であり、町裏の下難波村との境界に幅３間の井路[9]が新地の開發（元祿11）と同時に開鑿され、大下水をば設ける必要がなかつたからである。[10]

(1) いまの堀江は新地の外に、慶安元年所替の新玉造８町をも含む。

(2) 拙册「難波村解消過程」に新地となつた２村の反別は掲記。

(3) 北堀江和光寺境内の有名な阿彌陀池が〝八ノ坪〟にあつた求掻き池であることは、難波村庄屋舊記に見ゆるところ。

(4) 例示、上町では和泉町、追手町、　玉造では岡山町、　下船場では佐渡嶋町、立賣堀中橋町、江戸堀２丁目、　中之島では上中之島町、常安裏町、　堂島では堂島新地３丁目、堂島新地中３丁目、　曾根崎新地は1、2、3丁目ともに、西道頓堀（北側）の新難波中之丁。　(5) 計數入りの青寫眞は拙册「道頓堀の町割」に。

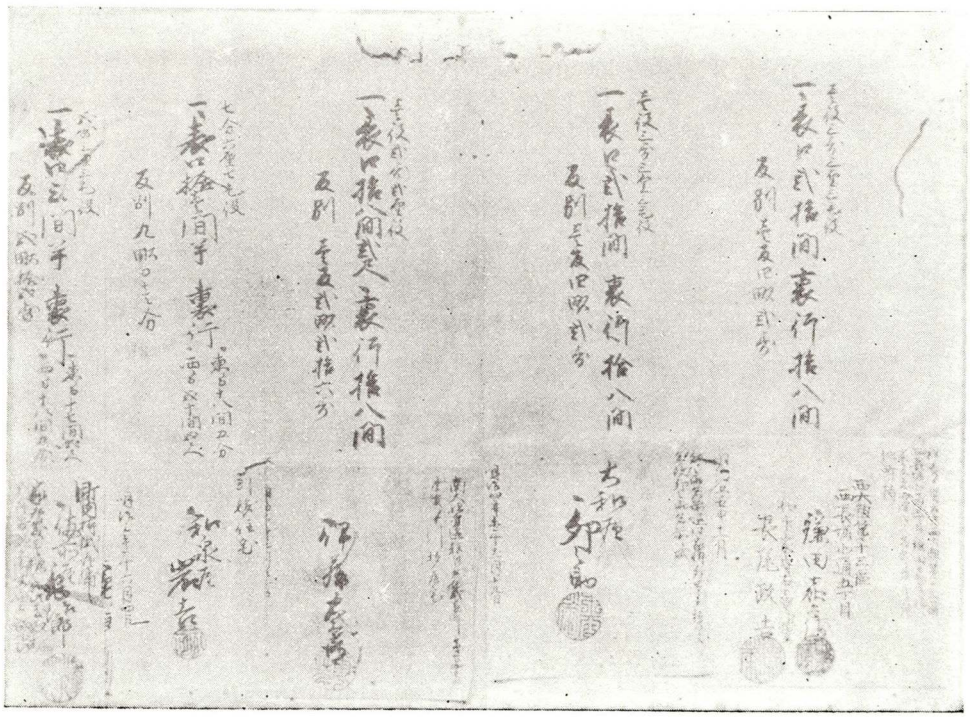
(6) 曲６尺間の新間。

(7) 木村彦右衞門遺稿「九郎右衞門町に於ける土地所有狀態の推移」所揭の圖版、特に第２を參看。

(8) 各町の水帳繪圖は拙册「大阪古町圖說其３」に所收。

(9) 東西の町幅が京間6、70間となつてゐたことは拙册「幸町起略」に既述。

難波新屯二丁目水帳　安政3年改



(10)この3間井路を4間に取り擴げ(天保14)舟をば通すことになり、土堤を南の岸に造つた。その土堤に風致を添ゆるため櫻樹をば植付けたので爾來櫻川の名で知られてゐたが、市電九條高津線の開通(大正4)で埋設せられ跡方もなくなつてゐる。

殊に江南のこの一角は——即ち造幣堀以南、長町以西は、元祿以後にも續々と新市街の建設されたところ(第5圖參看)從つて地割を比較研究するに絕好の對象となる。

(1) 元伏見坂町は元祿15年の開發で、玉造にあつた伏見坂町が道頓堀南裏の千日寺門前(難波村[1]西高津村領)に所替せるもので、京間13間5尺1寸の裏行(第6圖參看)。

(2) 相生新地は享保9年の開發で、本堺町、京橋1丁目、相生東町、同西町が火除地として收用され難波村字向嶋に替地を給はつて移り來たもの[2]

本堺町は京間13間1尺2寸の裏行。

本京橋町に本相生町は京間20間の裏行(第6圖參看)。

(3) 難波新地3丁は明和元年の開發で金田屋正助の請負であつたが、天明7年より新地3丁の直持になつて他町並に町年寄を選出する。裏行は不同(第6圖[3]參看)。尙この難波新地は市郡兩屬といひ、市內であつて同時に代官領(難波村)であつたから、町役を納める場合は坪詰であり、年貢を料かる斗代の場合は反別であつた。詳言すれば屋敷割としての表口なり裏行は曲6尺5寸棹の京間は用ゐるが、斗代の反畝歩は曲6尺1歩の田舍間と使ひわけるのである[4]。されば第7圖に新地2丁目水帳[5]の一部を示した如く、坪詰の外に反別を必ず併記せる所以も判かる筈。

かく町割を施すところ常に京間の曲6尺5寸棹を以つてせるは、大阪の建家が古い地割に制約され京間で建てられて來た關係[6]上、それを新市にまで及ぼしたものに相違ないと考へる。いまに建坪として殘り地坪と區別される慣はしも[7]、その根源を質せば京間のこの古い地割であつて、實生活に一旦くひ込んだ以上は一片の政令で容易に改めることの難きを敎ゆるであらう。

(1) 上難波村が堀江、幸町の新地開發で殘り少くなり下難波村に併呑された(元祿13)から、下の字を附けておく必要もなくなつて難波村と改稱。

(2) 拙册「相生新地の町割」にその開發事略を述ぶ。

(3) 計數入りの青寫眞は拙册「難波新地の町割」に。

(4) 平野鄕町でもおなじく坪詰と反畝歩の差別があつて、坪詰は京間になつてゐる。

(5) 水帳奥書にも、

''難波新地新町屋明和元申年新建家御免被爲仰付、同2酉年3月古町天滿組え被差加被下、反畝歩は難波村田畑之通6尺杖、屋敷割坪詰は6尺5寸杖、西高津新地之例を以、裏行に不拘、表口15間一役云々。''

(6) 守貞漫稿に、

''京阪は6尺5寸を以て1間とす。是を京間と云。民屋と雖も皆用之是准之。建具亦竪幅ともに准之云々''

''建具今俗、戸障子唐紙襖等の惣名とす。京坂の間法、京間と云て6尺5寸、故に疊建具凡長6尺2寸、幅3尺1寸。江戸は田舍間と名附け、1歩6尺の私製有。故に民屋等用之、疊建具長5尺7寸、幅2尺8寸5分云々''。

(7) 拙稿「建坪考」(虎屋時報、昭和6、12)參照。

勞働の家

佐藤四郎

現代の社會生活の內容を構成して居るあらゆる要因の中で最も特徵的な者の一つは勞働であります。勞働と申しますと夫れは地球の上に人類の生活が開始されると同時に現はれたるものであることは疑のない事實でありますが、其の發達は極めて遲く、長い間原始的な形式の下に喘ぎながら僅に其の存在を續けて來たのであります。然るに十八世紀に至りて俄然重大なる變革が起りました。即ち動力の發明であります。貧弱なる人間の體力の代りにあの限りもなく大いなるそして殆ど疲れることを知らぬのではないかとも思はるる蒸汽力や、電力などの出現かそれでありまして、引きつづき鐵其の他の金屬の鍛鍊や使用が容易となり、從つて機械の製作が驚くべき速度を以て飛躍し、世界の文化は嵐の如き工業的洗禮をうけて茲に其の面目を一新したのでありました。

個人主義的な、重商主義的な、市民的な、唯美的な中世紀の文化の普遍的光彩が、新に出現した赫奕たる火焰の前にあはれにもその傳統的な輝きを失ふたのであります。此の力の機械化の進展に伴ふて生產的企業が著しく其の能率を高めると共に、强固なる資本主義が先づ其の經濟的組織の形態に於て、明確なる存在領域を獲得し、やがて又現代文化の動かすべからざる樞軸となつたのであります。斯くして文化の諸系列の中心となつた資本主義は、其の莊嚴にして雄大なる經濟組織の完成に向つて突進する爲には、不可避的に人間の集團勞働を必要となしたるが故に、勞働階級の進出といふ事が新らしき社會的環境の第一條件となり、今まで原始的な形式の下にあるかなきかの存在を續けて居た勞働そのものが一躍して現代文化の典型的特徵となり、人類生活のあらゆる形式の表面に湧き立つやうに浮かび上つて來たのであります。

まことに勞働は現代文化の系列に於て見のがすことの出來ない特色であります。勞働を除外して現代の文化を語ることが如何に美しい言葉で夫れは飾られてあらうとも現實と何の關聯も持たぬ痴人の夢であり、雲の彼方に漂渺たる蜃氣樓のまぼろしの影に他ならぬのであります。

建築の分野に於ても同じことで、勞働は現代建築の最も大なる特色の一つであります。從つて勞働の概念と結びつけられたる建築形態の解決即ち勞働人の集團住居と勞働の家と此の二つの課題の解決の基底に橫たはつて居る根本方則が、凡ての現代建築の存在理論の基調をなすものであると斷言して憚らないのであります。

勞働人の集團生活のことは暫く措き、勞働の家即ち一般に工場と呼ばはれて居る建築に

就いて考へてみたいと思ひます。

工場は機械の發達の最も自然なる歸結であります。その中には時としては同一性質の、時としては各種の性質の、しかも常に共通の目的に向つて配列せしめられたる機械の集團を結合せしめて居ます。是等の機械の集團は構成の恐るべき組織性を顯現して別々個々の機械よりも遙に偉大に遠く無限に潛勢的運動の量を蓄積し、創造的昂揚の質を示唆して居るのでありますから、工場建築なるものは當然其の緊張したる尖鋭さと強調したる明朗さとを具體化すべく計畫せられねばならぬものであつたにも拘らず、出來るだけ資本を固定せしめないで生產費を低減せしめようといふやうな極めて單純な小兒病的錯覺に囚はれて居た大方の事業家も、建築家も、此の問題に對して從來あまり多くの關心を拂はなかつたことはまことに遺憾であります。

思ふに工場建築は之れを概念的に取り扱つて二つの種類に大別することが出來るのであります。此の大別せられたる二つの種類によりて工場建築の計畫態度と云ふものも亦自ら其の視角を異にせねばならぬのであります。

一つは纖維工業の類の工場にて、工場の建築それ自體が內部の機械と密接なる關係を有し、即ち其の建築は家屋の形態の下に機械の一部を形成して居るものにて、建築の計畫又は施工の最も僅少なる過失と雖直に其の工場の生產能率の上に重大なる影響を與ふるものであります。

他の一つは重工業の類の工場にて、其の建築は內部の機械の運轉過程に對して比較的疎遠なる關係に置かれ、其の建築の良否が生產能率の上に直接なる影響を與ふるといふことよりはむしろ、其の建築の巧拙が風雨や寒暑より如何に機械を保護するかと云ふ建築構成の最も原始的なる形式に重點を見出したるものであります。

從つて工場建築の計畫に着手するに當りては、最初に其の工場は如何なる種類に屬すべきものなるやを考へて見ねばなりません。唯漫然と柱を立て梁を架し窓を開らき屋根を覆ふただけでは工場にはならぬのでありまして、其の計畫は須らく工場の生產過程に深き理解を有し、其の全系列の指導原理の動向に正しく步調をあはせたる者であらねばならぬのであります。

第一の場合に於ては、其の內部における機械の有機的關聯に正しき認識をたもち其の運動の何れの部分に於ても常に最も經濟的であるべき環境を工夫し、生產の全行程に對しては極度にまで昂揚せられたる必然と正確との組織體を要求するのであるから、其の建築に於ては材料の科學的適應を嚴正に撰擇し、構成の力學的堅牢を充分に保證し得らるべき物でありまして、建設工費の經濟的價値と云ふが如きは、當然第二義的に考へらるべきものであります。即ち此の種の建築にありては、外氣の變化の如何に拘らず工場內の溫度や濕度を一定に保つ爲には如何なる材料と構成とを必要とすべきやとか、建設地の緯度によりて窓硝子の面積及び傾斜角度を如何にすれば最も經濟的に有利なる採光をなし得べきやと

か、其の他色彩感觸通風照明等あらゆる觀點より微に入り細に亘りて理論的に及び經驗的に檢討せられたる物を要求するのでありまして、恰も機械の最小齒輪の齒の一枚の增減が全系列の運轉に非常なる變革を與へると同じく、建築組織體の僅少なる一部の變更と雖、工場の生產能率に至大の影響を及ぼすものなることを意識して、最も効果的に計畫せられたるものであらねばならぬのであります。

第二の場合に於ては之れと少しく計畫態度を異にするものであります。勿論工場建築である限りは其の工場內部の機械の性能に通曉し、其の生產過程の動向に深き注意を拂はねばならぬことは云ふまでもないのでありますが、建築構成の二三の變更は、必ずしも內部の生產能率に甚しき影響を與へると云ふのでもないのであるから、機械を中心としたる有機的環境の考案と云ふことよりもむしろ其の建設工費の經濟的價値といふことが第一義的に重要視せられて、材料の科學的適應とか、構成の力學的堅牢とか云ふものは最小許容限度にまで壓縮低下することを餘儀なくせしめらるべき者であります。即ち此の種の建築にありては、機械の運轉に對する有機的の關聯が比較的薄弱にして、所謂機械の被覆ともいふべき性質を多分に有するものなるを以て、第一の場合に於けるが如く、建築其れ自體が必ずしも機械の能率增進に直接參加するものでもないから、或る程度までは機械の構成に關聯せざる建築獨自の構造を考慮することが出來るのであります。從つて其の材料は如何にすれば最も經濟的に處理せらるべきか、其の構成は如何にすれば最も理論的に組織せらるべきかと云ふ事も建築の觀點より充分之れを檢討したる上にて計畫し、然る後更に機械の性能に適應せしめらるべきものにして、此の點は第一の場合に於けるが如く、全然機械の觀點より立案せられて建築獨自の工夫は僅に其の補助的計畫に過ぎないものとは、頗る趣を異にするのであります。

以上は現代の工場建築を、其の內容より出發して概念的に論じたるものでありますが、更に又外觀より形式的に考へて見ると、其處には今までに想像することも出來なかつたやうな新らしい美しい視野がひろびろと展開せられて居るのであります。

如何なる場合に於ても工場建築は其の內部に包容せられたる機械の動向に步調をあはせ其の生產の能率增進に適應したるものでなければならないことは勿論でありますが、單に夫れのみにて工場建築の能事終れりとなすならばそれは未だ思慮の至らないものであると云はねばならぬのであります。工場建築は勞働の家でありますから一面に於ては勞働力の結晶たる機械の性能に追隨すると同時に又他の一面に於ては家たる建築の要因を正確に明瞭に構造化しなければならぬのであります。

ここで建築獨自の要因と云ふ者を少しく檢討して見ませう。

雨風を防ぎ寒暑を調節し外敵の襲擊から安全であり得るための要望が人類をして家屋を建造すべく考案せしめたることは今更喋々するまでもない事でありますから其後生活樣式がいかに複雜に發展したとしても生活的必要に對する安全なることの保障と云ふことは

時と處とに論なく建築の有つ第一要諦であらねばならぬので、之れは即ち建築の功利的又は技術的と呼ばれて居る要因の一つであります。更に又建築の重大なる要因の一つは空間の隔離といふことであります。凡ての建築は果てしもなく擴がれる空間の一部を或る物質を以て形式的に限局し隔離して之れに容積的な感覺を與へしかも其の形式は全然人類の頭腦の裡に醱酵したる描象的なるものの具體化であり組織化であるので、之れは即ち建築の審美的又は藝術的と呼ばれて居る半面であります。

過去の建築は此の二つの要因即ち技術的なるものと藝術的なるものとは全く相反せるものとして、或は到底融合することの出來ないものとして、或は又並存する事すらも出來ないものとして、其の取扱ひに慘憺たる苦心を拂つたのでありましたが、現今に至りては精神活動の異常なる進展と技術能力の驚くべき發達とに依り此の二つの要因の建築的調和の創造はさまで困難なる課題ではなくなつたのであります。從つてわれらの前に與へられたる公案は二つの要因を調和するといふ單なる建築的構造の設計にはあらずして、綜合したる建築的要因と更に社會的環境の他の部門より生長したる人類生活の重大内容の要因とを如何に組織化すべきかと云ふ事の解決であります。

現代文化の最も微溫的な條件は其の生產的企業の創造的昂揚を具體化したる機械であります。機械は默々としてしかも分秒の誤差も無く新らしき生活の建設へと其の巨大なる觸手を延ばしてゆくので、實際現代のあらゆる社會生活は形式的にも概念的にも此の機械の何等かの影響を蒙つて居らぬものは何一つ無いのであります。

されば、此の現代の社會生活の凡ての層に滲透して居る機械的な要因と夫れ自體の存在を明確に理由づくる建築的な要因とが、渾然と融和され構造された時に於て始めて現代を表象せる典型的建築が生れ出づるであらうと思はれます。即ち機械の發達の當然の歸結である工場建築の解決が、此の提案に正しく答へるものであることを思へば、勞働の家の研究といふ事は建築に關係を持つ者の一日も忽諸に附すべからざる、重大なる課題ではありますまいか。

現在の鐵筋コンクリート構造

井手正雄

1. 耐火耐震構造と鐵筋コンクリート

近來建築物は耐火耐震的であらねばならぬと云はれ、又世間の人は專門外のものも皆常識となつて來てゐる。

そこで耐火耐震的な（耐風的な建物は之に含まれる）建築物はどんなものかと云ふならば、耐火的なる物必ずしも耐風的耐震的ならず、又同時に經濟的でないから、所謂實用的の建築物では比較的經濟的で耐火耐震であることは言を俟たないのである。而して耐火耐震的の標準を考へて見るに、其建築物の周圍の狀況に關係あり、市街地建築物法等により之が耐火耐震的なりと認めるものであつて甚だ不徹底で少しも合理的でないと云はねばならない。耐震的とは我々が普通日本に於て嘗て經驗せる地震に對して安全なる設計をせるものを云ふとしても、耐火については其に用ひられる窓、床及び內部の家具裝飾が充分耐火的材料を用ひることが出來ないから、建物全體を耐火的にすること困難なわけであつて、更に建築物法の耐火構造に對する規定を見るならば實に情けない限りである。

さて我々が今日耐火耐震建築構造は鐵筋コンクリート又は鐵骨鐵筋コンクリートを第一とするのである（この他にはない様であるが）之は要するにコンクリートを以て被覆せられたるものが耐火構造であり、鐵骨又は鐵筋の入つてゐるものが耐震構造であると云ふに他ならない。今は、即ちコンクリート萬能時代であつて建築もこの例に洩れずコンクリートでなくては治まらないと云ふ始末である。

さて鐵筋コンクリートは今より廿餘年前に實用に供せられ、十年前頃より急激の發達をなし今日に至り、時代の寵兒となつたのであるが、其の間にどれ程の進歩をしたかを考へて見ることにしよう。其の理論的計算に於てラーメンを解く様になつたことの他、大した變りはない。其の施工法に於て大分變つて來た。即ち二流三流の請負人でも大きな建築物を機械を利用して易々とやつてのける鐵筋の配筋も上手になり、間違へることも少い工期もうんと縮められた。又使用する工具の發達により人力を多少減ずることも出來た。又近時は水セメント比が稱へられる様になり、比較的均一質のコンクリートが打たれる様になつたことは喜ばしいことである。

然し未だ未だ發達進歩せらるべき様で一向に進歩せないのは何故であるか。コンクリートの調合にイナンデター、オーセクリーター等機械が用ひられてゐたが、之はほんの小數

のものであり今でもコンクリートは充分凝固して假枠を取りはづすにはやはり一ケ月近くもかゝるのではないか。

2. 鐵筋コンクリートの缺點附强度及地耐力の問題

次に私はコンクリート構造の缺點を考へて見ようと思ふ。

鐵筋コンクリートを考へる前に先づ、鐵骨鐵筋コンクリート構造について少しく述べたい。鐵骨はコンクリートで包むが之は明かに耐火の用に供するものであり、鐵骨構造は高層建築及張間の大なるものに多いが力にもならない重いものを附けるのは實に馬鹿げたことゝ云はねばならない。鐵骨は三十年前も今もあんまり工法が進歩してゐないと云ひたい。然し之は已むを得ぬとされてゐる。今度は本論に入り鐵筋コンクリート構造即ちコンクリート造の材料について考へつ見るとしよう。

第一はセメントである。セメントは實に長足の發達をした。强度は增した、製品の品質が向上した、製造會社が增し製造能力が增加した、海外にも輸出してゐる、然るに製品は一向安くはならないのは、各製造會社が値段の協定をし、製品の制限を行ふからである。會社の株は100圓以上になつたが我々の受ける利益は少いのである。最近に色々なセメントが出來たが。實際は餘り使用せられてゐない。

次に砂に砂利はどうか素人考へではこんなもの何處にでも幾らでもあると思はれてゐるだらうが、我々はかなり高價な値段で買つてゐるのである馬車に一拾自動車に一拾の砂利はほんの僅かなものでそこにありながらも重たいものを遠いところから運搬してゐる。山陽、四國に紀州からでは、其の運賃は決して馬鹿にならないものがある。

さて之によつて作られたるコンクリートは水セメント比(1:2,5:3,5)(1:2,25:3,15)とか面倒な割合に混合せられる。

コンクリートの强度はどうか、實際の許容强度はどうか、よく考へて見ることにしよう。今、45kg/cm² 乃至 50kg/cm² の許容强度により設計せられてゐるものが多いが法規では 70kg/cm² までとなつてゐて實際は官廳の取締は 50kg/cm² 以上は許されてゐない狀態である。之ではセメントが良質のものが出來ても十年前と同じことであつて、製作上ムラがあるからこんなことになつてゐるのであらうが、其の施工如何によつてはもつと力を出し得るわけである。別表に示す如く實際の施工中での實驗の結果から見て、200 kg/cm²以上出てゐるものはザラにあるのであるから日本全國ですいふん不經濟なことをやつてゐると云はねばならない。しかも 1:2,5:3,5より悪い調合は許されて居らないのである。

然し問題は之のみに止まらないと思ふ。コンクリートの成立ちはセメント、砂、砂利を混合して之を高いところまで持ち上げて作るのであるから、實に重たい建築物を作るのが我々の仕事なのである。而も十年此の方同じことを繰り返してゐた、大阪の樣なところで

は此の重い建築物を造るにはすいぶん骨が折れるのであつて、例へば地盤の軟弱なる敷地では基礎を大きくする、大きくすれば猶更自重が增す、隣の敷地まで一抔の基礎をして未だ足らないから杭を打つと云つた様な始末である。初めは木の杭を打つが足らないときにはコンクリートの重たい杭の長いのを打つてゐる。大阪市内の目抜の大建築物は皆杭打ちで鐵骨を無駄なコンクリートで包んだものばかりであると云ふてよからう。今大阪市で小學校を幾つもやつてゐるがコンクリート三階建で正直に計算をすると、素人が目を丸くする程大きな基礎が必要になつて來る。(寫眞及表を參照)又地盤の悪いところは杭を打つ、打つても打つても未だ足らぬので思ひ切つて二階建のコンクリート構造にしたところがある。地耐力3tonなんてこんな處にコンクリートの建物は建たないと云ふ結論に達するのであるが、之は誰か悪いのか、こんな處に家を建てようと云ふものが悪いことになる。然しそうばかり云つてゐられない。現に小學校の講堂は耐震耐火構造でなければならないと云ふ規則が出ようとしてゐるではないか。

私一人が思つてゐる鐵筋コンクリート構造は耐震耐火で眞に結構であるが砂と砂利とセメントと鐵と何で又こんな重いものばかりで家を造らねばならぬ様になつたかと、鐵筋コンクリートの良いところは暫く預りとして其の缺點の最大なるものはこの重量であらう。

缺點はまだある。第二に假枠であらう。假枠が實に惜しいではないか。

新しい厚板を削つて合決りにしてバタを以て針金でしめ使用した板は二度用ふれば大抵駄目となる。三度の役を勤めるものは半數か後はバラバラの小破となつて長屋の焚物になるとは實に不經濟の極みである。この費用が鐵筋コンクリート造の建物の內に含まれてゐるのであるから氣を附けねばならない。

さて出來た建物は塗つて化粧をせなければ使はれない。それが又音響や濕度には極悪いと來てゐる。小學校等は今では木造校舍を希望してゐる向も少くない。

懼れ多い話ではあるが鐵筋コンクリート造の御眞影奉安庫が濕氣を含む爲に頭を惱ましてゐるのである。こんなわけで住宅ならば鐵筋コンクリートを望む人は未だ少いだらうと思はれる。

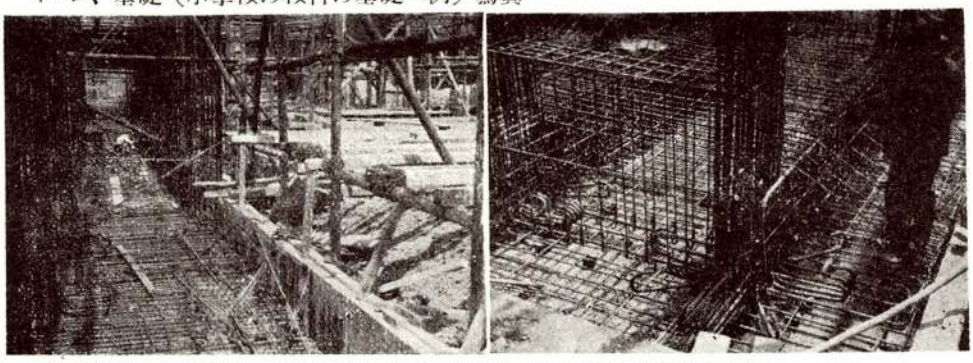
素人はよく云ふ「近頃の家は柱が太くて梁が大きくて不愉快だと」我々はよく判つてゐるが此不平を聞かない様にと何時も苦勞をするのであるけれども不可能なのである。

我國は地震國である上に大阪は地盤が悪い。大阪は鐵筋コンクリート造は不適當な場所と云はねばならない故に其の犧牲も大きいのであらう。或は曰く鐵筋コンクリートは耐久力があると。たとへ火事に會つても塗り代へさへすれば元通りとなる成程然り、然し未だ歷史は淺い、其の壽命は知るものはない、そうして出來た鐵筋コンクリートはどしどし勞力をかけて破壞せられてゐるではないか。

我々は一度出直して考へて見る必要はないか、之を何とか改良する餘地はないかと、其の材料に於て、其の施工法に於て、其の重量に於て。

3. 參　考　圖　表

イ・ロ、基礎（小學校の校舍の基礎一例）寫眞



地耐力10kg/m²に於ける基礎を示す立てるは筆者、其の大きさが大體わかる。

株業	拂込	配當	時價	利廻
	10錢	厘	10錢	毛
A	500	60	460	652
B	300	60	243	740
C	500	100	672	744
D	275	40	・95	1157
E	500	60	・360	833
F	500	160	・1013	789
G	500	80	・495	808
H	500	100	・690	724

ハ●大阪市內學校敷地地耐力表

（學校名は數字を以て表はす　△印は目下工事中のもの）

學校名		地耐力	杭	學校名		地耐力	杭	學校名		地耐力	杭	學校名		地耐力	杭	學校名		地耐力	抗	學校名		地耐力	杭
		ton/m²				ton/m²				ton/m²				ton/m²				ton/m²				ton/m²	
1	△	10		23	△	18		45		20		67		12		89		15					
2	△	9		24	△	3		46		8		68		3	杭	90		15					
3	△	8		25	△	5		47		9		69		10		91		18					
4	△	12		29	△	12		48		10		70		10	杭	92		18					
5	△	10		27	△	25		49	△	12		71		4	杭	93		10					
6	△	12		28	△	3	杭	50		25		72		8	杭	94		25					
7	△	12		29	△	15		51	△	25		73		5	杭	95		5	杭				
8	△	10		30	△	20		52		15		74		5	杭	96		8	杭				
9	△	25		31	△	18		53	△	3	杭	75		5	杭	97		3	杭				
10	△	7	杭	32		8	杭	54		8	杭	76		8		98		5	杭				
11	△	5	杭	33		5	杭	55		5	杭	77		25		99		3	杭				
12	△	3	杭	34		3	杭	56		6	杭	78		3	杭	100		15					
13	△	8		35		10		57		8	杭	79		20		101		25					
14	△	10		36		12		58		5	杭	80		5	杭	102		20					
15	△	5	杭	37		9		59		3	杭	81		10		103		25					
16	△	12		38		12		60		5	杭	82		9		104		9	杭				
17	△	10		39		7	杭	61		12		83		5	杭	105		8	杭				
18	△	8	杭	40		12		62		10		84		12		106		25					
19	△	15		41		8	杭	63		7	杭	85		20		107		12					
20	△	7	杭	42		10		64		10		86		12		108		15					
21	△	12		43		25		65		5	杭	87		10		以上の中杭とあるは杭打地形24號は鐵筋コンクリート二階建							
22	△	18		44		10		66		9		88		9									

ニ●工事に使用せる混凝土試驗片の强度表

(調合ハ1:25:35)※印ハ1:225:315

學校名	セメント製造會社	一週間後ノ强度	四週間後ノ强度	試驗場及月日
16	日本セメント	平均 101kg/cm²	——kg/cm²	府廳 11. 4. 4
23	小野田セメント ※	——	275	府廳 11. 4. 5
18	ヨーギヨセメント	——	平均 225	ヨーギヨセメント會社 11. 3. 8
20	同 上	平均 114	平均 181	同上 11. 2.18
20	同 上	——	平均 135	府廳 11. 2.20
4	東洋セメント	——	平均 221.8	工業研究所 11. 4. 6
6	小野田セメント	——	平均 174.9	府廳 11. 2.13
12	ヨーギヨセメント	——	平均 148	府廳 13. 2.15
7	同上シリカセメント	——	227	工業試驗場 11. 5.12
7	同 上	——	185	同上 11. 5.12
5	ヨーギヨセメント	——	平均 259	府廳 不明
14	東洋セメント	——	平均 167	工業試驗場 11. 5. 2
11	東亞セメント	——	平均 219	同上 11. 5.20
9	土佐セメント	——	平均 180	同上 11. 4.13
8	ヨーギヨセメント	平均 127	——	同上 11. 4. 4
16	日本セメント	——	平均 188	同上 11. 3.12
15	宇部セメント	平均 97	——	府廳 11. 3.17
19	ヨーギヨセメント	平均 105	平均 216	工業試驗場 11.10.26
3	ヨーギヨセメント	平均 87	平均 174	同上 11.11.10
10	宇部セメント		平均 207	宇部セメント會社 11. 5. 4

ホ●大阪市小學校の建築工事費一例

學校名	總工費	抗打チ費	抗長サ	延坪數
11	229,00.00圓	35,471,00圓	10m	2980,47m²
12	283,555.30	42,231,40	24	3532,8 及 649 木造
10	133,889.75	12,471,00	7.5	2185,08
15	113,167.76	10,637,00	7.5	234,2
15講堂	41,363.925	4,576,00	7.5	427,2

4. 鐵筋コンクリートは何處へ行く

然らば我々は何故にコンクリートを使用するか、土木工業に於て使用せらるゝのは別として建築構造に用ひられ世人が之を謳歌する程には餘りに缺點が多いと思はれるが、要するに之に代るべき適當な材料がないからではあるまいか。世は今鐵筋コンクリート時代と云ふか鐵筋コンクリートに非らざれば建築にあらずと云はぬばかりである。

私の云ふところは鐵筋コンクリートを之程までに使用するならば何故少しでも改良せら

れないかと云ふ點であるもしこの重量を一割減じ得たとしたなら如何、進んで二割減するとしたならば如何、云はずと知れた驚くべき國家の經濟とならう。又版床及天井に假枠なしの施工法を考へたならばどうか。輕量コンクリートの時代は來るか、其れともさらりと止められないものか。

私は思ふにコンクリート建築がある間は木造の建築も益々盛んであるだらう、即ち安價にして施工簡單なればなりである。又我々は考へて見なければならぬ又我々が常に考へ常に云つてゐることは世人にどんな影響を與へてゐるかを。又合せて、建築物法の缺點をも時代は進む建築も施工法も理論も進まねばならない。我々は建築家なる殻を脫して考へて見るならば、我々の考は反對の結果をもたらしてゐるかも知れない。

何はともあれ、この建築構造の問題は一日も等閑にすべきものではない、之が改良は建築協會等の大きな多數の力及監督官廳の力が必要であらうと思はれる。(11、6、16)

本號執筆者紹介

(五十音順)

井手正雄	大阪市臨時校園建設所
龜井幸次郎	大阪府技師警察部建築課
木子七郎	日本赤十字社大阪支部病院建築事務所 建築主任技師
佐古慶三	前大阪商科大學講師・商業史家
佐藤四郎	佐藤四郎建築事務所長
坂井則夫	日本工業新聞社記者
高村勝	工學士・建築設計家
津田鑿	津田鑿　建築事務所長
吉田信武	都市計畫大阪地方委員會

7月號

建築費豫算漫語

——"正しく經濟的に"——

高村勝

何か書けと與へられました命題の內〃建築關係事務に關する感想〃でもあり〃最近の建築界に對する意見の一つでもあると云ふ事にひとりぎめして、私は建築費豫算、見積に就いて常に考へさせられる事を、難かしい論議や流暢なる名文は私の柄でありまんから、想ひつく儘に漫語さして頂いて御免を蒙り度いと想ひます。

建築費豫算見積の仕事即ち——正しく經濟的に建築費を定める問題——之は建築計畫での他の部門と同樣に、或は夫以上に重要な問題であり、大いに研究を要する問題であり乍ら、然も割合に輕視されてゐるんではないかと云ふ事です。物の順序として建築主が一つの建築物を計畫して、工面出來る懷豫算を提げで建築家に相談致します。建築家はその要求に應じた設計をし、その設計に基いてその妥當なる建築費を積算之を注文主に提示、話が纏まれば此にこの工事の建築豫算が成立致します。請負者が之を見積り、條件に適へば契約が締結されて始めて此處に建築費か定まる事になるのです。從つて正しく經濟的に建築費を定める問題、之は勿論の事此等三者の一致協力の下に始めて求められる問題であり、その內の一の協力が缺けても爲し遂げ得られない事です。然り、而して現在何れの場合にも此等三者の協力が果して充分でありませうか?

正しく經濟的にと云つて、この一言の正しくが大變難かしい點で、果して何れの限度を以て正しいとするかは十二分の考究を要する問題であり、此處でこの限界點の考究は暫く預る事に致しまして、建築費が正しく經濟的に定められなかつた場合と云ひますならば自ら大きく二つに別れます。即ち正しく妥當に見積られました時に提示されるだらう處の金額より、一は高く定められる場合であり、一つは安く契約される場合であります。而して前者の必要以上に高く賣られ高く買はれる場合は、通常は少い特種の場合として此處には言及しない事に致しまして、後者の妥當金額より安く契約される場合に就いて考へますならば、特命にしろ入札にしろやはり豫算內で最初から話の纏まる場合と、豫算超過再交涉の經過を辿つて契約される場合とになりませう。而して安く契約されるのに色々考へられませうが、建築注文主の側では買ふ方として經濟的に安く安くで妥當以下に豫算削減、請負者側では商賣人根性、競爭々々で吾と吾身を叩かれて妥當以下で注文引受、其處で妥當以下に契約締結の運びに至るのが最も普通に見られる場合だと想はれます。

建築主として買ふ方の側からは勿論安いに越した事はない筈です。さればこそ經濟的に建築費を定める爲には云はずもがな最大の努力が盡されるべき筈です。然し正しくとなると疑問です。どうも餘りに安い程OKに傾いて、その結果所謂〃安物買ひの錢失ひ〃に終つてしまつたりはしないでせうか。

契約までの經路が入札であらうと特命であらうと、兎に角決定迄に取られる態度として、八百屋の顔さへ見ると何でも彼でも値切らなくては買へないお神さんの夫でも困りますし、夜店の植木屋を相手に財布の中の豫算では充分有る事を懐勘定し乍ら、〃金が足らぬ負けて置けよ〃と頻りにねばる旦那さんの夫でも困りものであります。須らく充分なる見識と自信を以て此品なら此位はかかる。〃よし！之丈で買はう！〃と氣前よく手元をさらけ出す紳士の心構へは持つて欲しいものと想ひます。いやお神さんの買はうとなさる大根も、旦那さんのお求めになるシヤボテンも既に目前に完成されてあるのですから、まさか値切られたから悪い方のと取り代へられる心配もありますまいからこいつは値切り倒す丈得だと云ふ理窟なのかも知れません。處で建築の場合はそうではなくて何時の場合にも、品物のお顔を見ない内に先づ注文額を決定契約するので品物は後程です。之では當初に餘り値切り倒したのでは勢ひ安からう悪からうに終らうではありませんか。勿論圖面仕様書があつて建築家が之と寸分違はぬ物たらしめる可く指導監督に努めます。然し之とて仲々に骨の折れる仕事です。賣る方の側請負者では商賣ですから勿論の事損は御免でありますし、利益は多いに越した事はない事、丁度建築注文主と正反對の立場にある筈です。自分の仕事の出來不出來も勿論信用に關係する事ですから、充分立派なものを仕上げる可く努力は拂はれませうが、やはり其處は人情、買ふ人の立場と賣る人の立場です。勢ひ注文額の低減は仕事の質の低下にと自然に傾きさうに想はれます。

其處で建築注文主の豫算不足が如何して起るかに就いて考へて見ませう。先づ注文主は相談相手と選んだ信賴出來る建築家の見積査定金額には充分尊重、賴る可き事が肝要です。そして自身の懐に狂ひを生じ、その豫算金額を許さぬ場合等に際しても設計變更の要求こそすべけれ、決して吾儘勝手な金額の査定削減などは考へるべきでありますまい。官廳大會社等で注文主と建築家とが同一所屬にある時等は、その爲の氣安さからか、請負者の見積徵收折衝等の仕事を擔當される庶務家がその豫算額の細部に充分なる認識を持たずして豫超を理由に、いとも平氣で削減のメスを振はれる事がありはしないでせうか。充分なる研究の上での自信を以て積算豫算を立てた建築家なら、自分の積り上げは之々であつたが、庶務家の方へ廻つてどう査定されたやら等とは無關心ではあり得ない筈です。必ず其の無認識なる不用意極まる豫算額上の御手入は阻止すべきでありませう。然も尙注文主の豫算不足が起るとすれば其は建築家自身のその時の相場の認識不足か、でなければ何れかの數量不足違算等でなければなりません。餘程の財界變動でもない限りこの請負者の見積と建築家の積上げとにそう開きの出來る可き筈がないのですから。第一回入札豫算超

過、再入札豫超、再入豫超々々で入札に應ずる請負者が一人減り二人減り、遂には最後まで附いてお出になる御熱心なる請負者と隨意交渉等は如何考へても餘り感心した圖ではなささうです。數量の違算は少しの注意で除かれませうが今少しく材料手間の單價、人件費其他諸雜費の計上の跡に就いて檢討して見る必要はないでせうか。諸材料費諸手間賃の經えざる變動相場に留意す可きは勿論、種々なる環境の相違に依る單價の相違も大いに考慮に入る可きでせう。又商賣違ひの未經驗から、例へば假設費とも稱す可き費用には餘りにも僅少の豫算計上に留めて居る様な事はないでせうか。過去に請負者から提出された參考に供してゐる見積内譯書にもやはり〃手前の方では極力無駄な費用は掛けてありませんので、假設費等彼様に僅少で全費用の幾割にしかついて居ません〃と云はぬばかりの帳面上の表示手加減と云ふものもありさうです。假圍、下小屋、材料置場、詰所、機械器具、假枠、模型型板、水盛遣形、足代棧橋、葭簀張、矩計現寸板等諸損料は勿論、敷地整理、借地、動力、用水、養生、塵埃投棄、給料等現場諸經費は適宜計上されたとしても、消火設備費の所要な事もありませうし、發材、セメント其他の試驗一つにも試驗費が所要でせうし、諸種假設物の運搬費も考慮すべきでせうし、火災保險にもは入るでせうし、勞働者災害保險があつて請負金額一萬圓に對して廿八圓の保險料は嫌でも應でも政府に請負者は納めますし、請負者の負擔する保證金支拂立替等には、泣いても笑つても金利と云ふ奴がついて廻ります。いくら監督指導充分施工正確を期すと背水の陣よろしくかんだ處で、若干の斫り手間はやはり見込んで置くのが妥當ぢやないでせうか。鐵製建具を計上する時は建具材工共に塗工費硝子費迄丹念に分割積算計上しても、周圍を當然塡充す可きモルタル費の計上を忘れはしないでせうか。硝子は總體で幾平方米と計算したのは至極細かいでせうが、硝子の清拭は必ず何回か所要の筈です。之とて硝子工が無料奉仕はしますまい。かく考へて來ますとどうやら最初の豫算内譯の今一應の檢討研究の必要がありさうです。之等の工事施工上當然必要なる各諸費用は充分考慮の上正確なる他の諸材料、手間、損料、諸費及び雜費と共に明瞭に計上見積の上豫算額を決定し、正しく經濟的に建築費を定め度いと想ひます。そして請負者から提出さす見積内譯書等も前述の如き帳面上の手加減等のない、夫々所要費用は各項目別に明示された詳細確實なるものたらしめて掛り度いと想ひます。而して入札決定に際しても請負總金額の親金丈で決定などは行はずに、充分此の内容の比較研究調査の上態度を決する餘裕を持ちたいと想ひます。さすれば種々自他共の内譯上の缺點にも氣付きませうし、眞の意味の該建築工事施工に對する請負者の熱誠意の度合も、決して請負金出精額の大小丈に現はれるものでばなく、寧ろその内容の正否にある事も自ら判然とする筈です。かく正しく計上された妥當額からは注文主としても、さう値切減額さす可きではないでせうし、請負者も眞面目に施工する心組なら、そうは出精値引も出來ない筈のものでせう。かう考へますと嘗て誇らかに私が聞かされた某建築社主の〃第二回目の入札の結果充分豫算内に見積られたんだが、知らぬ顔の半兵衛で豫算超過々々で

再入再入と引ぱつて、最後に殘つた某組と、とうとう君こんな額で契約した――〃との自慢話は笑止の沙汰ぢやありますまいか。

次に請負者の見積に就いて、特命工事の場合は比較的妥當に取運ばれると考へ、競爭を餘儀なくされる入札の場合を考へませう。一體見積と云ふ仕事そのものには請負者がその本質上當然他の二者よりはるかに眞劍であり、研究的であり、熱心である筈です。然し正しくと云ふ問題になると必ずしもそうとは限りません。競爭の必然の結果として妥當以下の出精値引が盛んに行はれます。特種の事情の下に一度此の工事は是が非でも欲しいとなりましたら、その積算は微に入り細に渡り、正確な上にも正確を期されます。施工法段取にも研究に研究が積まれませう。到底注文主建築家の內譯など顏まけかも知れません。而して算盤の上計金が出されます。そこで見積書の表紙には「希望」の「キ」印が意味ありげに附記されると、それこそ文字通りにキ印の様に、この計金が入札額決定までは見積擔當主任、工事主任、店長等々と夫々お偉い人々の手元に、鰻登りにすると同時に、値引々々で痩細ると云ふものです。利益加算どころの騷ぎではなささうです。然も勿論の事損などする心算ではありません。値引した丈は何處かで捻出しようと云ふのです。契約さへ出來たら何とかなると考へられるのです。店員にもオーバーロードさせ得ませうし、自分等の二の舞を演ずべく馳參ずる諸下方をも叩けようと云ふものです。見積分擔者の一人が猿も木から落ちるで、何か纏つた數量の拾ひ落しのあつた事でも、契約後に解らうものなら、表向き首もの位にこつぴどく驚かされませうが、內心彼奴の御蔭で大膽に仕事が取れたと云ふものだとの感謝の一つもされようと云ふものです。御念の入つた工事擔當者等、乾兒を養ふ工事の欲しさ一念に、單價の無茶な値引は突込まれるからと云ふので、乾兒共の丹念に拾つた積算數量から幾パーセントづつか大きな處で數量天引の上、上長者の御檢閲をもごまかす減額手段を講じ兼ねない有樣です。然も考へた物で、仕事が取れさへしましたら、各々下を承る諸職方に之に輪をかけた天引數量で以て大きな顏で請負はせ、立派に損をしないで濟ませ得ると云ふのです。一式無增減請取、後では文句も云はしません。親分が御損が御嫌なら乾兒だつて御同樣です。そこで當然仕事の質の低下を辿られさうです。指導監督者たる建築家の御骨折こそさこそと想はれます。かかる同業者との競爭から、充分なる研究と最大の勉强を以て工事を正しく施工し得べく計上されたる妥當見積金額以下にかくまで切込んで出精される事は、請負者が慈善家になつて呉れない限り、果して注文主建築家にとつて有難い事なのでせうか。眞面目に立派に、正しく經濟的に、工事を完成すると云ふ事を主眼として、請負者お互がより自制し、統制されて、非合理な建築費の低下はむしろ阻止すべく反省すべきでせう。

往々常識的に行はれる入札のつきものに請負者の談合があります。工事を引受けた請負者が他の入札者への幾何かの負擔をなし、結果は當然注文主に辨分の犧牲を負はしめる事になる等は許すべからざる冒德であり、然もかかる手段で不當利益を貪らう等は全く言語

道斷でありますが、若しお互が鎬を削つて結局眞面目な仕事が出來ないではと、工事工事の配分の仕合ひと云つた話合ひが纏り適者が選ばれて、正しく經濟的な建築費て契約が成立し眞面目に工事が施工されたとすれば、むしろ之は許さるべきではないでせうか。

翻つて若し假に妥當金額まで豫算を投げ出したとて、それ丈餘計に請負者が儲けてしまふ丈だ。やはり叩ける丈叩いて、取締れる丈取締る方が得である、等と考へる注文主がありましたら、その反省を促すと同時に、かかる先入觀を與へ來つた請負者達の罪をば同時に指摘反省すべきでありませう。

而してこの兩者の間にあつて建築家の利害關係を離れた立場からの正當なる批判と、正しい監督指導と、惜まれざる折衝の勞とがあつて始めて、正しく經濟的に建築費を定める問題は完成されるのです。建築家の介在を抜きにした算盤の達者な家主さんと、手抜きの上手な大工さんとの間で纏つて、どんどん新築されて行く所謂借家建築の、驚くべき粗雜さが之を雄辯に物語つて呉れます。即ち冒頭に述べました様に、建築主、建築家、請負者この三者の協力の下にして始めて正しく經濟的に建築費を定める問題——之が解決されるのです、御約束通りの甚だ漫語に終りますが以上で御免を蒙りたいと想ひます。

エルサレム回顧

津田鑿

3千年の歴史を有するパレスチナの一角地中海に面する小港ハイファアーに、過る日上陸のエチオピヤ皇帝には一路祖先緣故の地、エルサムに現今止まらせられたるとの(昭和11年5月)ニウースは最近世界の大いなる出來事のひとつである。

曾遊の地エルサレムの回顧も時の問題として胸を打つのである。聖地はどんな處かパレスチナの内最も著名なる舊都氣候平均溫度最低47度位、最高78度餘先つ溫暖の方なれど實感の光線は餘程強く感ずる。

聖書に記されたるキリスト敎に關する意義深かき場所エルサレム神殿、或はソロモンの宮殿を始め、文化榮えし古都更に2000年前聖者の入城と異邦人に神の福音を叫ばれ、更に昇天の地星移り時去り現在英國の委任統治となれり、曾て離散したるユダヤ民族は近來懐しき故鄕に續々と歸國、新しき神の國土建設の運動漸く隆盛となりしは周知のことである。爲に時として人種的爭いの起るは歎かわしく先年ハイファー騒動及び最近數度に起りし事件について新聞の報道に依れば、

ハイファー全景





アクサ大會堂



セント、ステパノ門

エルサレム又惡化（朝日昭和11年5月15日發同盟）パレスチナ政廳の彈壓策に對抗し、アラビヤ人が非軍事不服從運動を開始した結果エルサレム地方一帶の情勢は更に惡化を告げるに至つたが、就中ヤツファ市では15日午後アラビヤ人示威團が警官隊と衝突し、示威團から死者2名負傷者8名を出した、首都エルサレムの治安狀態もいまだ恢復せず、戒嚴令は撤回されるに至らない。

建築の方面から見たるエルサレム、ユダヤの地は一帶に荒野にして建築材料として岩石の散在するに過ぎず、隨つて石材は豐富に各用途に當て得れども樹木恰んど成長せず、地味又豐かならず、斯る土地に建國は元より困難のことと思われる。最も近時各工業發展の途につきつつあれど未だ多くの物資は之れを



嘆きの壁



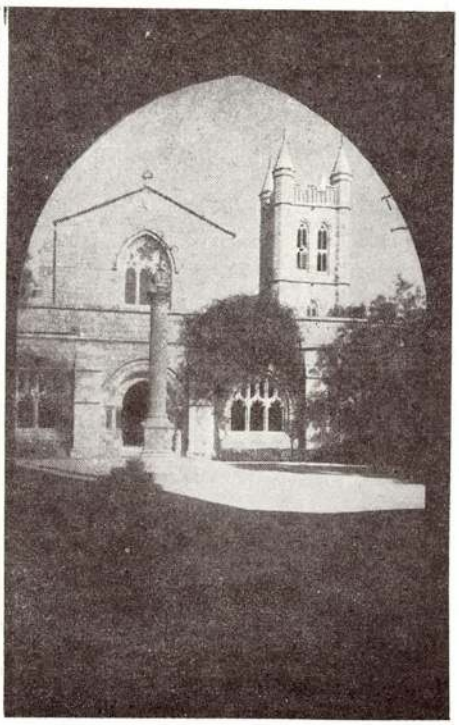
アントニー塔



ヂャフアー門



ダビデ通



セント、ヂヨウヂキヤセドラル

擧けて輸入に待ち、輸出品の極めて少量なるは國の隆盛ならざる一原因と推察せらる。

都會の文化に、河川の必要に對し、不幸水の流るる川なき飲用水の不便も甚敷く僅かに存する堀井戸に賴るのみ假りに地中海より船舶の自由航行の便(鐵路は一部にあれど)あればと何人も想像する處ならんも、海拔2400尺の高地には不可能のことたるべし。(ソロモン王時代既に水道の設備あり乾けるエルサレムを潤したるに反し現今は雨水を貯え不潔の水を使用するは不自然の極なり)。



アラビヤ人 ハイファーにて

高地にあるエルサレム、特に城壁は依然として嚴めしく大石を積み上げ、ダビデの塔青空に聳え西にヂャツフヤー門北にダマスコ門とヘロデ門東にステパノ門南にシオンとアラビヤ門其他の數門を有し、城内古の宮殿は今日既に遺構なく只僅かに舊蹟を殘すに過ぎず。

城壁は元來ダビデ及ソロモン王によつて築かれ、のちユダヤ人バビロンより歸りてネヘシヤの指揮の下に再建ヘロデの時代其他に改造され、今日に及び或は修理又は變更され昔と現今とは多少相違あらん、其の一部にユダヤ人の歎きの場所あり、石垣に向ひユダヤ建國の爲祈り且つ大聲に哀歌を合唱する人々の熱心には敬服の外なし。

アルメニヤ教會



各所に存在する古き建物の内教會堂は最も多數をしめ、壁體は石積を主とするは材料の關係により當然である。年代別に當時關係せるロシヤ、ドイツ、トルコ、其他の國々を經て現今英國に依り自然支配さる結果、構造に又形式に其の影響を受くるは、不得止ざることならん、且つ特種の建築として見る程の物なし、最もオーマ、モスクは第7世紀アジヤ王オーマの造營したるアラ

ビヤ式善美のもので異彩を放つ。普通の建物及び民家は石造平屋根の粗末極まるもの、外來の歐米人は各自國の風習に倣ひたるものを城外に造れり。二三最近建築したる公館現代的のものあり、但し舊態を存する濠を廻したる城壁の構造及門は大に參考とするに足る。

市街は餘り清潔ならず、不完全なる下水、道路に敷詰められたるゴロタ石は恰んど修の跡なき有樣幾百年其儘かを偲ばしむ狹き町に、駱駝、驢馬を曳き入れ2列の通行は恰んど不可能店舖軒をならべて居れども、見るから貧弱なる物資を商ひ羊肉は至る處に釣され無數の蠅は飛廻り穢きこと限りなし最も見ようにては古色蒼然たる古都の香なくもがなで、何人によりて据えられたるか苦むす石或は1本の柱にも無限の感興を覺ゆるのである。

聖書に記されたるソロモンの宮殿は建築當時金、銀、寶石、香木を惜氣もなく用ひ華麗極なかりし、よし今日其の片鱗だも見ること不可能なるは是非もなき次第である、聖墓教會の堂內、宗教的、特に聖なる可き場所を餘りにも銅臭紛々こけをどかしの墮落せる裝飾をなし勤めて信者を多く集めんとする傾向ある爲、自然他派と勢力の爭いを起し弊風を伴い其の結果は聖地として如何なるものか識者は定めし眉をひそむるであろう。

米國に於ける計畫界最近の趨向

吉田信武譯註

序

ウイリアム・ペン氏によつて計畫されたフイラデルフイヤの原平面計畫は格子型直角街路系統を有する、例へばドイツのマンハイムの如きヨーロッパ先進都市の系統を繼承せる模倣物であり、1694年に完成せるアンナポリス及其の後約半世紀に完成せるデトロイトの計畫は全く月並な蜘蛛巢式街路配置法を試みたるに過ぎず、又首府として稍〻理想的な形態を備へたるワシントンは、當時の大統領ワシントン氏によつて遙々フランスより招聘せられたるシヤールス・ランフアン氏が1791年に完成した原計畫に基きしものであつて、何れもアメリカ合衆國の國民性を充分に發揮した都市計畫精神はその片影すら見ることが出來ない。從つて、アメリカ合衆國の計畫界はヨーロッパのそれに比して頗る不振であつて、敢へて顧るに足らないと斷定するのは早計であらう。輓近のアメリカ合衆國は、地域、街路、公園、住宅等の各計畫を始め、國土、州、郡、都市、聚落の諸計畫に亘つて相當の考慮と手段とが講ぜられ、我々の以て參考となすべき點も尠くはない。

本文は、1936年1月15日、ハーバード大學都市計畫學科に於けるバッテンハイム氏の第6回特別講義[1]を骨子として、之に適當なる註解及圖表を附せるものである。讀者諸子の御參考の一助ともなれば幸甚である。

I・州　計　畫[2]

輓近のアメリカ合衆國の都市計畫上特筆すべき事項は、1933年7月國土計畫局の創立に端を發した州計畫の强力且樞要なる運動の出現である。この局竝に其の繼承者たる國土資源局及國土資源委員會による結合は頗る强く、遂に1935年迄に46州の州計畫機關の樹立を見、之等36團體は夫々の社會團體に永久的計畫局を法律的に確立するに至つた。

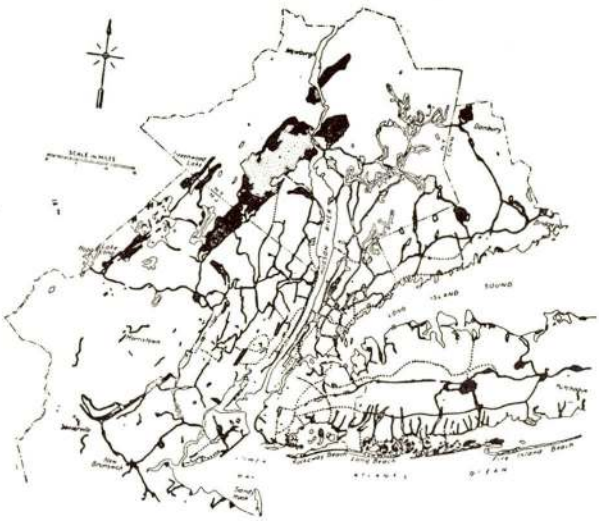
各州には夫々の特質があり、夫々に必要な個々の問題もあるが、〃州計畫[2]〃（1935年6月に始まり同12月に終る）の報告によれば、其の最も緊急なる問題は何れも相互に共通性を

註 1. "Trends in Planning in United States: 1935, by Harold S. Buttenheim (Planning and Civic Comment, Jan.—March, 1936. 所載)

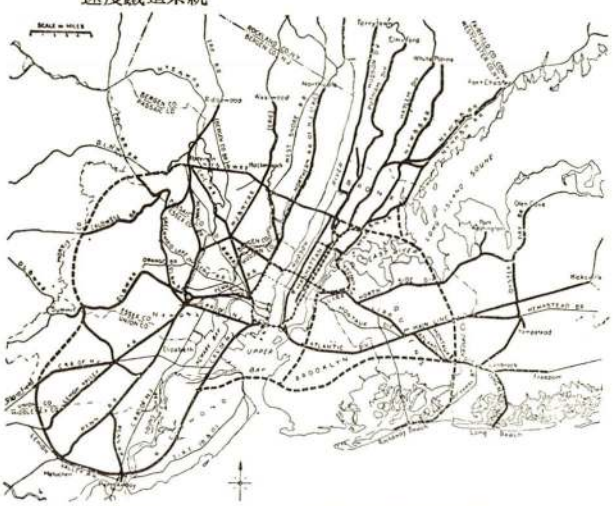
註 2. State Planning

有する事項である。發展せしむべき計畫の方法及技術は、都市竝に郡[3]計畫局、及一般に州立大學と共同研究のもとになされる種々の聯邦監督支廳の調査竝に計畫事業の發達及擴張となつてあらはれて來た。

46州計畫局に於ける共通條項と見られるものは、其の中の數州の局によつて研究されてゐる、次の如き箇條と略々同様である。



第1圖・ニユー・ヨーク附近の公園系統



第2圖・ニユー・ヨーク附近の高速度鐵道系統



第3圖・ニユー・ヨーク附近の幹線道路網

農耕地の利用
Agricultural Land Use

勸告的の奉仕
Advisory Service

建築物の建設
Building Construction

郡及地方局の創設
Creation of County and Local Boards

郡地域制
County Zoning

郡及市計畫
County and Municipal Planning

通報の傳播
Dissemination of Information

註 3. County —州の下にある行政區分の稱

教育	Education	動力	Power
森林	Forests	公共の安寧	Public Welfare
聯邦有地	Federally Owned Lands	公衆の健康	Public Health
		公園及運動場	Parks and Playgrounds
塵芥處理	Garbage Disposal	人口	Population
平面交叉	Grade Crossings	慰樂	Recreation
通路の建設	Highway Construction	再植民	Resettlement
道路の美觀及安全	Highway Beauty and Safety	田園の電氣化	Rural Electrification
		慰樂地	Recreational Lands
住宅問題	Housing	河川の不潔化	Stream Pollution
工業と農業	Industry and Agriculture	土地の浸蝕	Soil Erosion
		州會議事堂群	State Capital Group
土地の利用	Laud Use	學校	School
圖書館	Libraries	道路幅員	Street Width
地圖、海圖等	Maps, Charts, etc.	運輸	Transportation
天然資源	Natural Resources	交通	Traffic
公共事業	Public Works	水源	Water Resources
公共的協會	Public Institutions	貯水	Water Conservation
計畫の準備	Preparation of Projects	上水及下水	Water Supply and Sewerage
人口の趨勢	Population Trends		

州計畫局が從來關係し來れる數ある仕事の中、最も困難な事項は合州國の將來の活動性が果して如何なる動向にあるか、之を窺知し、之に最も賢明なる手段を決定することにあるに拘らず、現在の所では以上に掲げた各項目に對してさへ40餘州の各局は充分なる効果ある結果を望むことの出來ない遺憾な狀態にある。

第1表　米國主要都市人口[4]

都市名	調査年次	面積（平方粁）	人口	人口密度（一方粁に付）	增加率（人口千に付）	1920年人口（千人）	1910年人口（千人）
ニューヨーク	1932	826	7,218,223	8,739	4.92	5,620	4,767
シカゴ	1932	544	3,523,400	6,477	4.23	1,702	2,185
フィラデルフィア	1930	336	1,950,961	5,806	5.64	1,824	1,549
デトロイト	1932	360	1,495,392	4,154	8.63	994	466
クリーブランド	1932	189	923,200	4,885	6.74	797	561
セント・ルイス	1932	161	832,700	5,172	2.95	773	687
ボストン	1932	124	790,076	6,372	7.99	748	671
バルチモア	1930	238	806,607	3,387	4.60	734	558

ピッツバーグ	1932	141	680,990	4,829	4.57	588	534
ロス・アンゼルス	1932	1,165	1,294,106	1,111	1.69	577	319
バッファロー	1930	109	587,201	5,387	1.51	507	424
サン・フランシスコ	1932	75	662,400	8,832	-1.16	507	417
ミルウオーキー	1932	112	578,249	5,163	7.93	457	374
ワシントン	1930	161	486,869	3,024	4.20	438	331
シンシナチ	1927	—	411,000	—	5.00	401	364
シアトル	1932	110	376,500	3,423	2.27	315	237
ニユー・オルリアンス	1930	1,206	466,000	386	2.80	387	339
大阪	1932	187	2,586,300	13,830	11.33	1,253	1,227
東京	1932	550	5,312,000	9,370	13.89	舊2,178	舊2,186
ロンドン	1931	303	4,397,003	14,512	14.94	4,485	4,522
ベルリン	1932	884	4,227,171	4,782	8.56	3,804	3,730
パリ	1930	104	2,871,429	27,610	14.67	2,906	2,888

註 4. "大阪市統計書"及"昭和7年日本都市年鑑3"による

第2表　世界主要國都市數[5]

	面積（平方粁）	人口	人口密度（一平方粁當）	都市人口比 %	都市數 人口一萬至五萬	都市數 人口五萬至十萬	都市數 人口十萬超過
日本	381,576	64,759,427	157	50	540	51	21
アメリカ合衆國	7,839,063	105,710,620	16	51			88
チリー	751,605	4,364,395	5.7			2	2
中華民國	3,970,000	411,351,000	103				27
インド	4,675,616	318,942,480	68		650	54	35
パレスチナ	26,300	816,064（1929）	35	37	6	1	
ベルギー	30,440	7,995,558	245	78		2	4
デンマーク	42,927	3,434,555	80	44	22	2	1
ドイツ	468,716	63,180,600	134	65	505	47	51
ダンチヒ	1,950	407,629	215	75	3	0	1
イギリス	241,761	45,737,000	185	79			49
エストニア	45,221	1,116,553	24	30	6	1	1
フインランド	388,279	3,582,406	10	17	6	2	1
フランス	550,986	40,753,841	74	46		25	17
ギリシア	130,199	6,397,000	49	33	36	2	3
イタリー	310,139	41,173,000	133	44		35	2
ユーゴスラビア	247,852	13,290,000	56		40	4	3
ラトビア	65,792	1,895,016	29			1	1
ニーデルランド	34,226	7,730,577	201			10	6
ノルウエー	323,795	2,810,592	9		15	2	1
オーストリア	83,833	6,695,000	80	50	21	1	3
ポーランド	388,390	30,408,247	70			6	9

ポルトガル	92,713	6,540,000	70		20		2
ルーマニア	294,967	17,500,000	61		24	10	3
ロシア	5,408,277	109,768,300	20	30		15	32
スエーデン	410,583	6,105,190	15	30	25	2	3
スイス	41,295	4,108,500	94	61	21	3	4
チエコスロバキア	140,394	14,612,000	97		84	7	5
トルコ	762,736	13,660,000	18			3	2
ハンガリー	92,916	8,525,725	93		70	6	3

註 5. Bruno Schwan 氏著 "Städtebau und Wohnungswesen der Welt, 1935" による

II・地　方　計　畫[6]

地方計畫なる問題は、都市計畫國家會議の創設後10年にして既に毎年論議され來つたものであつて、ナイアガラ瀑布及バファロに於ける其の第10回會議——1919年——の開會書には、當時カナナダ政府の住宅問題及都市計畫顧問の職にあつたトーマス・アダムス氏が〃地方及都市計畫〃に關する提案を發表してゐる。

勿論、尙之以前にも地方計畫は各地に於て屢々論議せられ相當の進捗を見たものであつて、例へば1893年に組成されたボストン大都市公園地域の如きは其の嚆矢と見ることが出來る。1919年に至り地方計畫なる言葉の意味[7]が稍々明白にされて以來、この中には大都市を中心とする地方が含まれることとなつた。而して斯かる地方[8]は二以上の州に亘る必要が

註 6. Regional Planning

註 7. 地方計畫の目的、意義、範圍、內容等に就ては、我國に於ても近年盛に研究されつつある。彼我兩國に於ける其の意味には多少の觀點の相異あるを免れないが、現在我々の最も一般的と思はれる解釋は、本年富山市に於て開催せられた第三回全國都市計畫會議に於て發表された所の近畿2府5縣(大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀、三重)提出の次の如き事項であらう。

地方計畫の趣旨並に目的とするは、大都市の不健全なる過大化を抑制し、其の膨張力を衞星都市に分集せしめるため、適當なる農耕綠地の保存、住宅及工場の聚落計畫を策立し、一體として最も經濟的な健康的な有機的關係を保持し、以て相互の健全なる發達を期することにあり、之は從來の都市計畫のみを以てしては到底實現を期し得なかつた點である。從つて、地方計畫の區域は之等の目的を達成するに必要なる範圍、即ち母市と地理的、經濟的、社會的に緊密不可分の關係を有する範圍と定むるのが最も適當と考へられる。但し母體となるべき都市が相當近接して存在し、其の各地方計畫區域が一部相重り複合的になるが如き場合には、之等を統合したる範圍とすべきであつて、この區域は行政區劃等に據る必要はなく、地方の實狀により、或る場合は一府縣の一部、或る場合は數府縣に亙つて然るべきである。地方計畫の內容たるべき事項として最も肝要なことは、都市及各聚の特質に應じて夫々其の發達すべき方向に之を指導し助長せしめるための地域制の設定、都市の過大膨張を抑制し自然風光を維持し慰樂休養に資するための綠地の保存、都市聚落相互間の連繫を圓滑ならしむべき鐵道、軌道、道路等交通路線の計畫であると考へられる。

屢々あつたが、又逆に必ずしも全州土を包含される必要もなかつた。最近の傾向として特筆すべき一特長は、地方計畫の範圍を單に都市或は都市を中心とする地方に止めず、隣接數州の大部分を之に含め、國土計畫を基調として適當なる都市の分集を行ふべきことであり、1935年以來之が實現に要する調査が盛になされてゐる。國土資源局竝に各州計畫局の共同盡力によつて組織されたニュー・イングランド地方計畫委員會及北西太平洋岸地方計畫委員會、或は議會の決議によつて成立したテネシー・バレー事務局[9]は其の適例である。斯くの如き大規模の地方計畫は、1935年12月國土資源局より發行せられた〃國土の開發と計畫に關する地方要素〃なる刊行物によつて益々刺戟促進されるに至つた。

この刊行物を嚆矢を以て迎へた新聞評論及政治演說によつて、直に合衆國を12位の自治公國に分割しなければならぬと脅迫されてゐるやうに考へる者もあつたが、この委員會は先づ〃決してアメリカをバルカン化するものに非ざること〃を特指し、準國家的基礎の上に立てる州及聯邦の權限を統合して、一州以上に亘る綜合的計畫問題の解決に當らしめることを强調してゐるのである。

地方要素に關するこの報告書[10]は、二州以上に跨がれる水の利用、土地の利用、浸蝕及鑛業政策の如き緊急問題の解決には、到底州の權限のみを以てしては不充分であることを示し、州計畫に對する聯邦政府の絕えざる支持、ニュー・イングランド及西北太平洋岸に於けるが如き地方計畫委員會の設立、地方問題解決の手段として州間聯約の有効なる利用、テネシー・バレー事務局の如き地方官能的性質を有する聯邦當局の利益の考察、計畫及一般政策の樹立をなし地方及州計畫を刺戟し大統領に對し計畫提案の進捗及發展狀況を通告すべき大統領直屬の永久的國土計畫局の建設、及永久的國土發行政部の創設等の實現を要望してゐる。

尙、地方計畫に關する技術委員會の國土資源委員會の報告書に從へば、合衆國に於ける綜合的計畫を樹立すべき地方には何等必ず守るべき境界はあり得ない。地方計畫の組織問題に關する凡ゆる考察中最も重要な標準は、如何なる場所に地方計畫事務局を設置すべきか、換言すれば其の中心地——新聞紙上の所謂首府——を如何に撰擇するかと云ふ點であると、論じてゐる。

註 8. 大都市を中心とする一團の雨方の半徑は各地の事情によつて異つてゐる。例へば、New Haven 及 Norfolk, Va. のは24粁、Boston, Buffalo,St. Louis, Cleaveland 及Toledoのは32乃至40粁、New York City のは64乃至72粁となつてゐる。又この面積も同樣種々變化してゐる。例へば、Chicago のは約20,000平方粁、Los Angels のは10,657平方粁、New York のは14,317平方粁、Niagara Frontier のは4,014平方粁、Philadelphiaのは約10,000平方粁、Santa Barbara のは7,100平方粁、Washington のは1,165平方粁となつてゐる。(Lohmann 氏著 " Principles of City Planningによる)

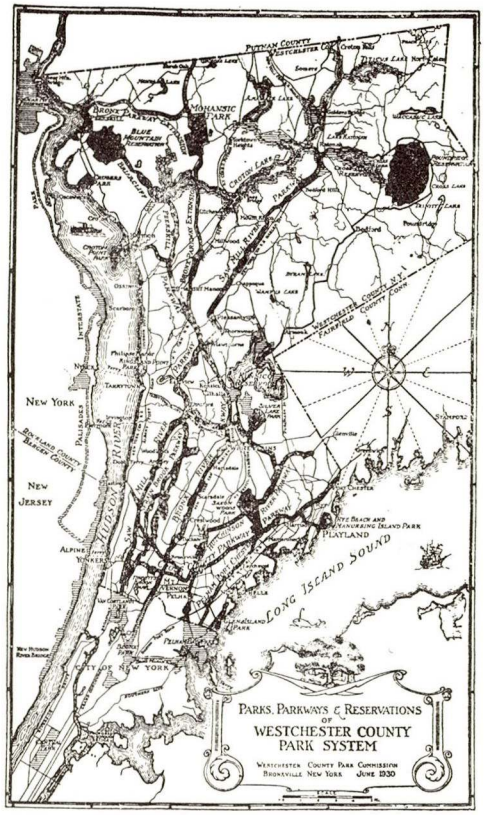
註 9. Tennesse Valley Authority (略稱 T. V. A)

註 10. 本項に關しては「建築と社會」本年4月號72頁に、龜井幸次郎氏が圖表と共に詳細に解說されてゐる。

III・州間盟約

計畫家が政治科學者と共同しなければならぬ重要なる分野に於ける輓近の明確なる一傾向は州間盟約實現可能性の認識である。所謂小アメリカの創造に對するこの工夫は嚴然たる憲法を背景として立つてゐるやうに考へられる。即ち、合衆國の憲法は〃州は條約、聯盟又は同盟に加入すべからず〃及〃議會の承認を得るに非ざれば州は他州と協約又は盟約をなすべからず〃と規定してゐるが、合衆國建國以來この消極的な言葉使ひが、〃州は議會の承認を得れば互に協約を結び得る〃權限を積極的に附與したことになつてゐるのである。

國土計畫及發展の地方要素に關する1935年12月の國土資源委員會の報告書に於ては、州相互間に於ける其の協約の歷史竝に計畫及公共事業の分野に關する可能性に對する議論が二章に亘つて記載されてゐる。

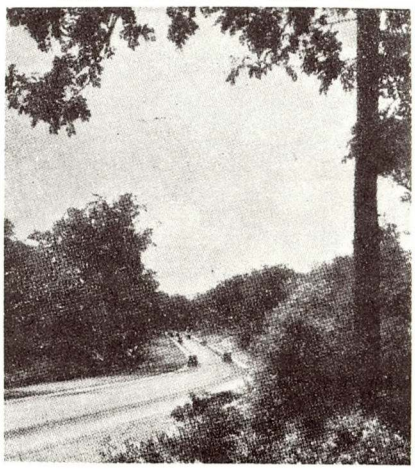


第4圖のA・ウエストチエスター郡公園系統
ニユー・ヨークのウエストチユスター Westchester 公園系統は、合衆國に於て最も有名な公園計畫で、1922年より今日に至る迄に、經費約60,000,000弗を投じ、面積(水陸共)約 16,000エーカーを占め、延長160哩に亘る公園道路を有してゐる。而してこの計畫のため本郡の地價は 目覺ましく昂騰した。

IV・郡計畫及地域制

輓近地方計界中最も著しい傾向は郡地域制の進捗である。アメリカ計畫官吏協會の常務理事ワルサー・H・ブルツシヤー氏が同協會會報第26號に發表せる所說は次の如くである。

第4圖のB・ウエストチエスター郡公園の一風景



〃從來、インデイアナ、テネシー及ミシガンの各州は特に郡地域制を採用してゐる。之等各州の他、ウイスコンシン、カリフオルニア、マリランド、イリノイ、ミシシツピ、ゼオルジア、バージニア及ワシントンの如き各州も郡計畫或は郡地域制を有してゐる〃。

1935年11月15日發行の〃ウイスコンシン納稅者〃によれば、1933年7月より1935年7月に至る2年

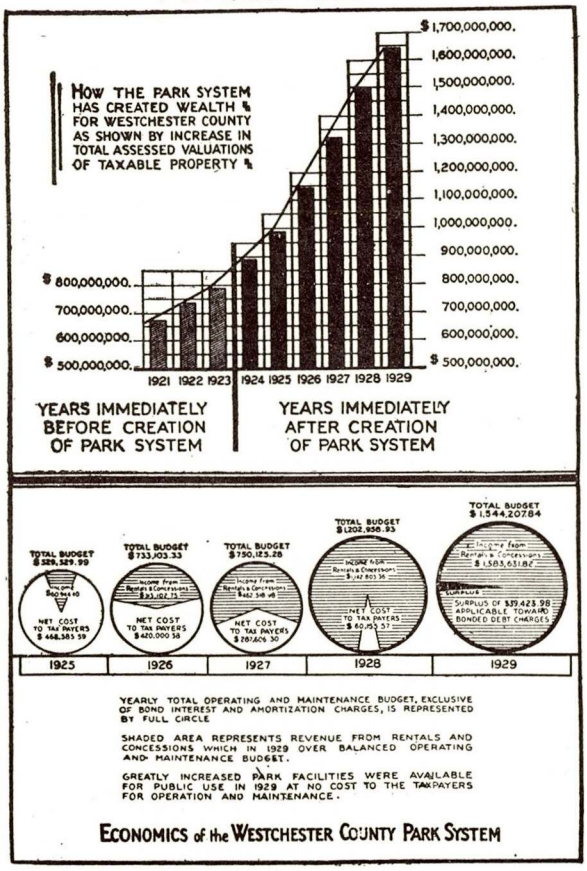
間に、ウイスコンシンの地方20郡中面積其の38%即ち約5百萬エーカーに土地の用途を制限する郡地域制が敷かれ、他の10郡に於ても地域制指定に就き目下調査研究中である。と報じられてゐる。

又、ミルヲーキーの都市計畫技師チアールス・B・ベネツト氏は次の如く報じてゐる。

〃ウイスコンシン州の立法部に於ける最近の會期に通過せる法令は、郡地域制權限を更に擴張して、用途のみならず高度及容積に關する地域制をも指定するを得せしめ、加之自然水面に持續してゐる特殊地帶に或種の權限を附與し得るやう改正された。從つて、郡は自然水面部即ち制限せらるべき地を表示した公定地圖を採用することになり、斯かる地圖は土地區劃整理者竝に暴風雨時の下水或は交通路締を計畫する各種の自治體に對して計り知れない價値を與へることとなるであらう。〃

郡計畫立法中、ニユー・ジエルシーは昨年重要な躍進を遂げた州の一つである。即ち、1935年法律第251章に於て、各州は計畫局を指定すること、或は一州又は一自治體は地方計畫局組成のため一或は夫以上の州又は自治體と聯合すべきことを謳つて居り、郡計畫局によつて樹立された綜合的計畫は郡の管理體によつて其の全體又は一部に採用せられねばならず、其の際管理體は適當と思はれる綜合的計畫をあらはした公定郡計畫或は公定地圖を作成しなければならず、次いで公定計畫又は公定地圖は公定文書となり管理體及若干の郡部門を連結するものと看做されることを規定して居る。

第5圖・ウエストチエスター郡公園系統設置による郡財政の向上率



尙、ニユー・ジエルシーの條例には、地方官は報告書の型式にて郡計畫局に提案整理地區圖に付き伺ひを立てしめる條項がある。これは此内地方的の計畫局のなかつた自治體に於ては、土地區劃整理の監督が出來なかつた弱點を强化し得るものとして大いに役立つにたもので、夫々の管轄區城内於ては區劃區の地方的是認に先立つて、總ての土地區劃整理を檢閲す



第6圖のA・ラツドバーン Radburn
ニユー・ゼルシーのラツドバーン住宅地は、前圖のウエストチエスター公園系統と決に屢々紹介され書された觀がある程有名である。ニユー・ヨーク市より約20哩、現在戸數約300、人口約2,000で、自動車交通萬能の現代的要求に頗るよく合致してゐる。

權限を與るへられたものである。

V・市街地地域制條例の近代化

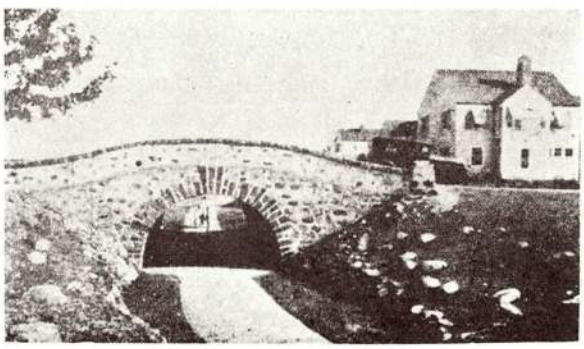
現在都市の再計畫及再建設のため、或は又將來の不必要なる混亂を豫防するため、現在の地域制條例に英斷的改正[11]を加へる必要があるが、幸斯かる方面への專門的竝に公定的考慮の趨向は頗る順調に行はれてゐる。

目下、ニユー・ヨークに於ても、都市計畫市長委員會及市倶樂部住宅委員會合同の委員會によつて多大の研究が行はれてゐるが、其の趣旨とする所は、現在法制上許されてゐる將來の混亂を豫防せんがため、建築物の容積竝に人口の密度を地域制によつて制限せんとするもので、この修正は單一公式として發展せんことを期待されてゐる。斯くして、各州の自治體聯盟は地域制の再檢討を漸次認識するに至り、例へば、1935年ニユー・ヨーク州市長及市吏員會議に於ても、各都市及町村は經驗上必要であると考へられる所の地域制の改正を研究し之を促進すべきこと、不動產に對し將來不健全な投機的事業を阻止するため自治體境界內に於ては未開發地にも適當なる規定を設けて之を制定すること等を申し合せた。

VI・將來の一趨向

國民都市の認形は次の時代の人々のなすべき主な仕事であるとは、アメリカ建築家協會

註11.住居地域、商業地域、工業地域及以上3地域以外の部分所謂未指定地（輕工業地域）に分ち、建築物の用途、敷地に對する面積及高度を一率的に制限せる我國の現行地域制にも各方面より再檢討すべしとの要望が昂まりつつある。用途地域制の細分化、建築物の敷地に對する面積及高度即ち容積制限を用途制限より分離すべしとの論、密度地域制の確立、更に地方計畫の分野に於ては農耕地域等の設立等、目下盛に研究せられてゐるが、未だ成案を得るに至つてゐない。



の副會長であるセント・ルイスのルキ・ラボーム氏の樂天的豫想である。而して、投機的無節制を避け堅實なる都市計畫による實質的向上は、新住宅及聯邦、州、自治體、商工業の建築物の建設、其の他廣範圍の近代化及復位手術をなすものであると、同氏は豫想してゐる。

建築家のみならず、計畫家、不動產賣買者、經濟學者及商業家の考へは何れも斯かる方向に集つてゐる形跡があり、この趨向に理解力ある刺戟を與へることは1935年度の緊急事の一である。前に行つた不振の都市計畫が若し實用的でないとの正當な批難を受けてゐる場合には、後に行はれんとする計畫も同樣の批難を受けぬやう細心の刺戟が必要である。惡質の計畫や公共出資は却つて不良住宅地或は不衞生地區を招來する原因となるに反し、賢明な計畫や出資は之を豫防し改良し得る手段となることを、記憶しておかねばならぬ。

VII • "綠 地 帶" 聚 落

前に合衆國上院の反對がなかつたならば、レツチワース[12]やウエルウイン[13]の如きイギリス式田園都市に似た郊外聚落地が今頃多數實現してゐたのである。

併し多少後撒きの觀はあるが、將來のアメリカ聚落の標本として、低額收入者 5,000家族を抱擁する廉價住宅を有する綠地帶の建設が、郊外植民行政部によつて10月11日告示され、總豫算額は 31,000,000弗、緊急救濟費條例の規定に據り大統領より分配せられることとなつてゐる。其の建設豫定地は、バーウイン・ハイト、マリランド、ラウンド、ブルツク(ニユー・ジエルシー)附近及シンシナチ、オハイオの外方、ミルヲーキー、ウイスコンシンばある。

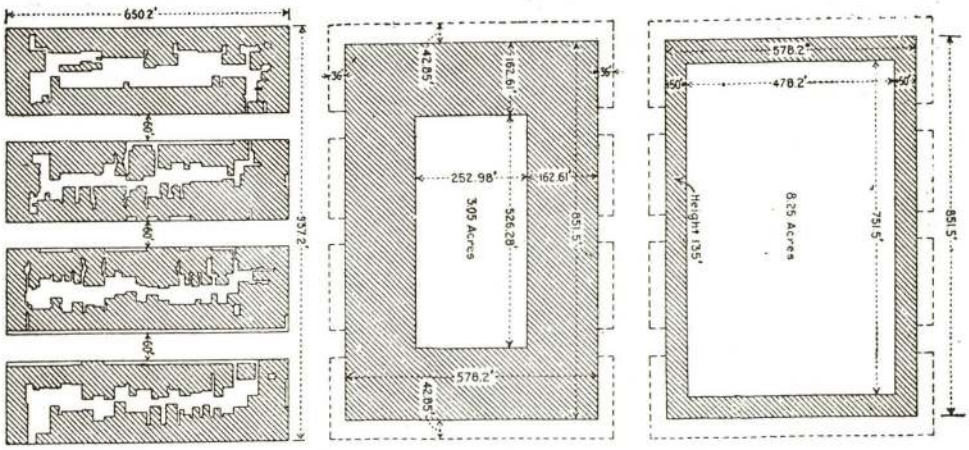
VIII • 道 路 及 路 傍

街路、交通路締及街路交叉點等は何れも現代自動車交通萬能時代の要求を滿たすに充分でなければならぬとの過渡期的欲求、路傍美の保存及增進、公園道路竝に遊步道の計畫及建設、之等は後世都市計畫史家の喜んで特筆記錄するであらう近代的の特色である。この趨向に對する刺戟は、1935年に於けるアメリカ計畫及文化協會及國土路傍會議等、竝に各種刊行物、例へばハーバード都市計畫研究叢書の第9卷として發行された所の、故フリツツ・マルシアー氏著〃定流交通系統〃[15](第8圖參照)の如きものによる所が多い。

併し、自動車駐車問題は依然として都市計畫家竝に市吏員の最も難點とする所の一である。之が緩和法の一として駐車時間制の採用を見てゐるが、オクラホマ・シティ及びダラ

註 12. Letchworth 位置ロンドンより57粁。1903年創立。面積1,823ヘクタール。最大收容人口35,000。近く住宅3,349戸、商店157戸、工場36戸、仕事場62戸、人口13,500となる見込。

註 13. Welwyn 位置ロンドンより30粁。1920年創立。面積965ヘクタール。最大收容人口40,000。1926年現在の建築物1,675戸中、商工業用78戸。人口5,020。



第7圖・不良住宅地區改良案(ニユー・ヨーク)　マンハツタン區の下東部の1地區に對する提案
左…現況。4區劃よりなる　中…建築面積及空地面積を前者と同樣にし、4區劃を1區劃に合せるもの　右…室面積を前者と同樣にし、空地を擴大せるもの

スに於けるものは特に其の効果顯著であると報ぜられてゐる。

IX・裁判、立法界の趨向

天然資源の利用及保存或は住宅問題等に對する聯邦立法を除いては、別に新奇な目覺しい重要問題が起らなかつたにも拘らず、昨1935年には都市計畫に關する重要法律案の通過、或は多數の訴訟事件の判決が見られた。

控訴院で取り扱つた事件中最も重要なのは地域制に關するものであつて、多數の判決が斷定せられ決斷せられた。就中特に刮目しなければならぬ訴訟事件は恐らくニユー・ヨークに於ける事件[14]であつて、其の結果之等

第8圖・定流交通系統——Steady-flow Traffic System



各院の共通的批判を綜合すれば、地方行政部の立法支廳より權限を簒奪して之等の院が聚落の地域制をやるべきであると云ふこととなる。

立法中最も目覺しい進捗を見せたものは、地方計畫及州計畫に關するものであるが、續いて郡計畫條例も亦多數通過し、特にニュー・ジエルシーの法律は標準的のものとして重要である。ハーバド一大學都市計畫研究叢書の第7卷として發行された所の〃都市、郡及州計畫に對する標準法[15]〃は之等を理解するに最もよき參考書である。

又、地方の聚落に對する立法も行はれた。1935年には多數の州に於て、都市及他の地方的行政部に計畫法令を通過せしむべき權限を附與した。之等の法令は殆ど例外なく目下聚落が直面してゐる問題の解決をなすべき努力と研究があらはれてゐる。

以上の如く、1935年の合衆國立法界の概況は、計畫さるべき地方に計畫の權限を附與すると云ふ法律の下に、地域制其の他の計畫に一大進歩を見せたのである。

註 14. (1) People ex rel Rock Jay Realty Co. v. Murdock, reported in N. Y. Law Journal 3/2/35.
(2) Matter of Levy v. Board of Standards and Appeals, Court of Appeals 5/21/35.
(3) Matter of Cohen reported in N. Y. Law Journal, 5/11/35.

註 15. Harvard City Planning Studies として現在迄に發刊されてゐる叢書は次の如し。何れも最近の著述で斯界の研究者に多大の參考となるべきことを信ずる。

I : AIRPORTS. Their Location, Administration, and Legal Basis. By Henry V. Hubbard, Miller McClintock and Frank B. Williams.

II : BUILDING HEIGHT, BULK, AND FORM. How Zoning Can Be Used as a Protection against Uneconomic Types of Buildings on High-cost Land. By George B. Ford.

III : NEIGHBORHOODS OF SMALL HOMES. Economic Density of Low-cost Housing in America and England. By Robert Whitten and Thomas Adams.

IV : URBAN LAND USES. Amount of Land Used and Needed for Various Purposes by Typical American Cities. An Aid to Scientific Zoning Practice. By Harland Bartholomew.

V : TRANSITION ZONING. By Arther C. Comey.

VI : THE DESIGN OF RESIDENTIAL AREAS. Basic Considerations, Principles, and Methods. By Thomas Adams.

VII : MODEL LAWS FOR PLANNING CITIES, COUNTIES, AND STATES. Including Zoning, Subdivision Regulation, and Protection of Official Map. By Edward M. Bassett, Frank B. Williams, Alfred Bettman, and Robert Whitten.

VIII : BUILDING LINES AND RESERVATIONS FOR FUTURE STREETS. By Russell Van Nest Black.

IX : THE STEADY-FLOW TRAFFIC SYSTEM. By the late Fritz Malcher.

X : BIBLIOGRAPHY OF PLANNING, 1928-1935. A supplement to Manual of Planning Information, 1928. By Theodora Kimball Hubberd and Katherime McNamara.

綠　地　帶　都　市 註1

アルバート・マイヤー
亀井幸次郎譯

米國は永い間、田園都市運動に對しては、むしろ反對の態度を持續して來たもので、そこに米國特有の都市計畫が發展して來たのであると思ふ。最近米國に於ても此の田園都市問題が一般的都市問題として登場し、具體的には之れが實施の途上にありそして米國の都市問題に新しい話題を提供して居るのであるが、此處に譯出した綠地帶都市は即ちそれである。（譯者註）

綠地帶都市とは何にか、そして何故それ等の都市を建設せねばならぬか、或は何んな事情又は原理で彼等の位置が指導され且つ計畫されて居るか？、是等の質問に對して、地方及都市計畫の地圖とグラフとを特別に引證し、且つそれぞれを一般的に說明する事を以つて答へる事が出來やう。

建設中の4つの綠地帶都市と云ふのは～ワシントン近傍の Berwyn, ニウジヤシーに於ける Greenbrook, シンシナチー附近の Greenhills 及ミルウオキー近傍の Greendale 等である。～是等は、レツチワス、ウエルウイン及其の他英國に於て建設された同種の諸都市と全く同樣な、必然性と原理とを基礎とするもので、是等の實例による回答は、或は極めて古臭いものであるかも知れないが、それは今日でも猶、都市の勞働者及農民に關し、都市及農民問題として、日々の新聞を賑して居るところのものである。

大都市には、多くの困難な問題が堆積して居る。即ち產業革命以後勞働賃銀が漸次低下して來て以來急激にこれ等の問題が擴大して行つたのであるが、同時にこれと平行に農村地域から都市に向つての移住運動の波も擴大して行つたのである。その結果都市と云ふものは、吾人の知つて居る限り、無暗やたらに、何等の考もなく發達して來たのである。にもかゝはらず是等の無方針の發達を訂正又は修正すべき如何なる重要な努力も殆んど要求されなかつたのである。であるから假りに修正が行はれたとしても、それはほんの一小部分に於て成功したに過ぎない事情にあつたのである。何故なれば、地主の數が無數に輻輳して居り、地價は騰貴して居ると云ふ惡條件に、加ふるに現在利用されて居る道路又は特許されてある道路等による道路網が存在して居て改正が殆んど不可能な事情にあつたからである。以上の樣な譯であるから、郊外の急速なる發達は、斯樣な都市の惡化に對する一種の抗議に外ならないと看做すことが出來るのである。けれども、郊外の發達に有力なる關係を持つ幹線道路の位置決定に就て、慣習とされて居る土地投機に對し、何等の方策も持

註 1. The Greenbelt Towns: The American City, may, 1936.

つて居らなかつたので、郊外は屢々、都市自體がスラムの中に、自然的な濕潤地、交通機關の危險の中に發達して來たと同樣な混亂狀態を繰返して居るのである、そして更にその周圍部をサーヴスステーションやホツトドツグスタンド等を以つて害しつゝあるのである。

農民の經濟的社會的困難と云ふものは都市問題發生以前の古い昔より長く繼續して存在して居つた事は勿論である。經濟問題に關するだけでも、農民は彼の生產物に對して殆んどその收入がなく、又消費者側も輸送されたそれ等の生產物を求める時には、仲買人の利益が加へられる爲めに、結果として、高い費用を拂つて、それ等の生產物を得て居つたのである。此の場合たとへ多くの自動車又はラヂオが改善されたとしても、農民は社會的及び敎化的には比較的孤立する樣に置かれて居るのである。

モートラツクが增加され、動力による輸送機關が强化されねばならぬと云ふ、これ等の事が根本的な問題にして、工場も職工等も、最早都市の心臟部にある必要はなくなつたと同時に、安い動力を必要とした工場が動力に必要な燃料源の近くある必要もなくなつたのである　是等の工場は彼等の市場近くにより良く配置されれば、それでよいので、彼等の生產品は思ふまゝトラツクにより迅速に分配することが出來るのである。一般に自動車と云ふものは一方に於ては、都市生活を危險のものにするが又他方に於ては、人々をして大都市より逃れしめて生活の品位を高める事にも役立つものである。

合理的な分散

綠地帶都市はさきに概要に述べた諸問題を解決する爲めの提案であると同時に、分散の方向を理解すべき基礎的のものである。一般に周知の如く、分散と云ふことに關しては、合衆國は工場と地方人口とを、全國的に點在さすと云ふ形式を取らずに、かへつて大都市の周圍にこれらのものを發生せしむると云ふ形式を取つて來たのである。都市の中心部に於ては人口を失ひつゝあるのに大都市の市域を着々と廣げつゝあると云ふのは、即ちそれであつたのである。けれども綠地帶都市は都市それ自身より遙かに遠い距離に配置されるのであるから、それ等から全然獨立的に存在するものである。——それは單なる郊外の寢場ではなく獨立した社會である。——が然し都市の敎化的機會を充分享有し得るに便利な程度に充分接近して居る事が必要である。それは現在の產業的雇用關係及將來の產業の趨勢に就て充分なる考慮が拂はれて位置が定められるべきであるから、市の自由勞働市場を保存する必要があるがそれは農村の生存に關する問題ではないのである。で此の綠地帶都市と云ふのは、廣さが限定されて計畫され且つ建設されるので、道路及 utilities 等に關しては、一般都市改良が行はねばならない樣な、後日のつぎはぎ又は餘分に高價なる變更及擴張等を避けるため、周知の要求に隨つて充分細心の設計がなされねばならないのである。それは出發の時より、地價の高い事の爲め非常なる利益を得てゐる都市に於ては不可能とされてゐる所謂用途及人口密度に關する地域制度が自由なる理論的根據の下に敷かれ

て居るのである。都市開發に關する限度は都市自體の周圍を取りまいて居る所謂綠地帶によつて確定的に定められるのである。此の綠地帶は森林、牧場、草地又は農場等の恒久的オープンベルトにして有形的には都市の究極の發達を制限するに役立ち、或は又此の新しい都市の性質が損傷されない様に他の都市を制限するか或は獨立的投機者を避ける事にもなるのである。

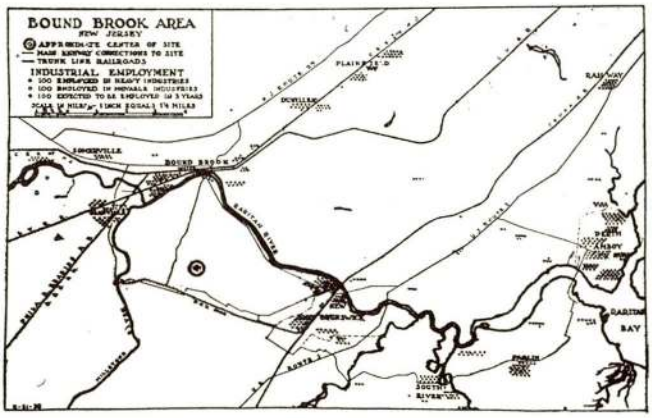
此の自治體に關しては、財政的負擔はないのである、何故なれば農民は定つた地方の市場に於て彼等の生產物の大部を賣る事が出來るから經濟的には好都合に農民がその地を占めるからで、又同時に都市に於ける勞働者は農村よりの生產物をより安價に買ひ取る事が可能であるので、經濟的には好都合になる譯である。彼等は、彼等自身の庭園又はアロットメント(菜園)により直接土に接し或は又農民自身との接觸により土に再びかへる事が出來るのである。

是等の精心的な原理を以つて Resettlement Administration (郊外再移住部を通じて)は建設する此の4つの衞生都市の計畫案を持つて出發したのである。それは人口の增加を示してゐる 100 の大都市の市域に關する調査がなされ、そして圖表の形式で每年の夥しき多數の工場の業態別による記錄をプロットし、然る後凡てに就て各々の平均が比較研究されたのである。ニューヨークの如き大都市の地域は此の方法によつて選定されたのであるが、——Newark の市域はその一例である。そこで次に來る問題は、敷地(市域)の選擇と云ふ事である。

必要なる　項目

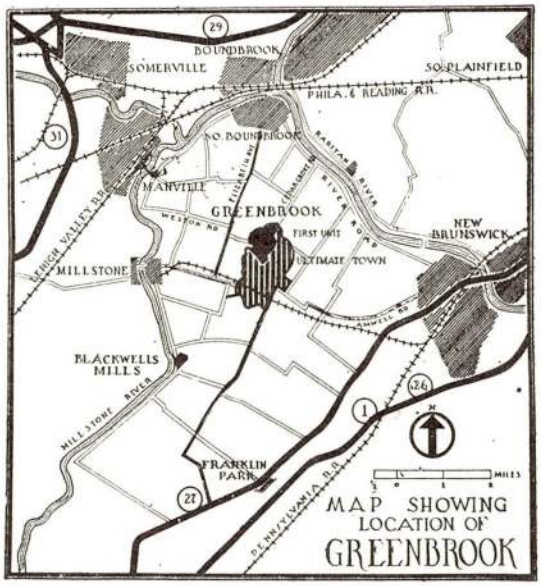
1. 敷地は現在並に將來共(新しい都市が都市自身の產業を取得するまで)產業的雇用關係のあるところに接近して選定する事。第1圖は Greenbrook の計畫と周圍の產業中心地との關係を示す。次に研究すべき事柄は、是等の產業中心地への通勤時間であるが——18.000 位の勞働人口に對しては 15 分位、50.000 位の勞働人口に對しては35分位が適當であるとされて居る。

第1圖・グリーンブロックの計畫と周圍の產業中心地との關係



2. 經營地は鐵道又は幹線道路による良き交通運輸機關を持つこと。主要幹線道路は、居住民又は產業にも好都合に出來るかぎり接近せしむべき

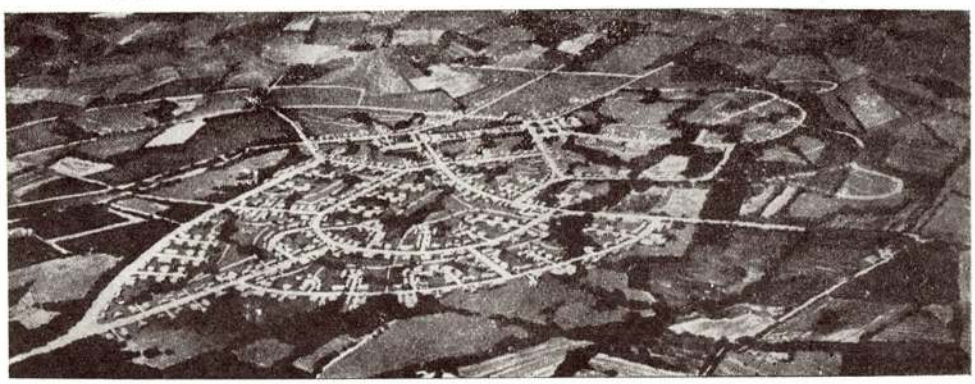
であるが、交通混雑を招來するので、市内を貫通さすべきでない。第2圖は幹線の凡てが、ニユヨークに、ニユワークに、トレントに、そしてフイラデルフイアに非常に接近して居るが、然し一つとして都市を貫通して居るものがないのを示すものであるが又同様にB及O線、Lehigh Valley 及ペンシルベニア線等の鐵道線路も亦その凡て敷地の近くを通つて居るをも示して居るのである。中就ペンシルベニア線は、此の特質を明かに說明して居る。で我々は我々の工業地の位置を自然的にかゝる見地のもとに決定するのである。即ち道路又は鐵道のいづれによらうとも、決定すべき敷地は是等のどの都市に達するにも1時間を越えてはならない。



第2圖・道路又は汽車のいづれによるとも、1時間を要しないで圖中の諸都市からグリーンブロツクに達する事が出來る。

3. 出來得るかぎり充分廣く且つ毀損されない土地を利用する事、——此の場合4.000英町(4.896.000)坪位である。此處は綠地帶都市が劃然と普通の都市に對し境界の線を引て居る。地價は開發されたとしても、都市の値段としては僅少なものに過ぎない。だから廣大な土地を所有せんとしても、その收得は容易である。であるから比較的未開發地と雖も、交通機關の輻輳を避ける手段として經濟的な街路計畫が、より廣大な區廓を利用してなす事が出來る。此の方法によれば舖裝面積を減少さす事も出來、隨つて經費の節約も可能と云ふことになり又各區廓の中に廣大な內部空地と庭園を殘す事も出來る。此の事は明に次

第3圖・グリーンブロツクの最初に開發する部分 (外方のブロツクは中心部より比較的包含的でなく開發される。全部開發された場合の住居密度は1英町6軒と云ふことになる。)



に示す Greenbrook の鳥眼圖から理解する事が出來やう。即ち最小ブロックと雖も約15英町はある。

4. 經營地の風土及地形が其處に生活するところの條件に適し且經濟的な汚水處置法が構じられて居る事。

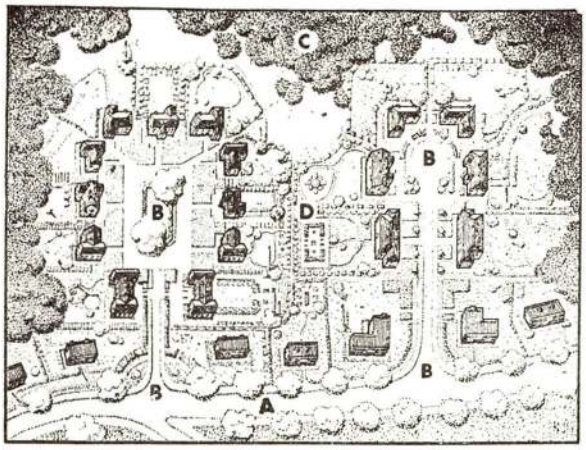
計畫部と土地取得部とが緊密に協力することによつて、現在並に將來とも都市全體が實際的にポンプ所なしに Raritain 河に汚水を處置出來る樣に、平坦でない土地を選定する事が必要である。

5. 土地は農業に適するものであらねばならない、何故なればそれは綠地帶としては缺くべからざる條件であるからである。此の Greenbrook の土地は日々の農業及果實のよく發育するのに好都合の田園である。

以上の如き樣々な條件は、Greenbrook の敷地を選定する時に與へられたものであるが、又一方かゝる條件は大都市の場合、無方針で開拓される土地に對して當然採用の必要ある方法の說明である。

グリーンブロツクの計畫

Greenbrook の場合、計畫問題は二重の問題として考へねばならぬ。即ち 3.000人の居住者のために直ちに都市を建設せねばならぬ事が1の問題であると同時に將來20.000人を收容し得る最大限度都市を考慮に入れて設計する事が問題の2である。此の2つの問題の物理的關係に就ては第2圖に見る事が出來やう。即ち黑い部分は直ちに開發の必要のある部分で、ハツチのしてある部分が都市が究極に發達する最大限の部分を示す。此の都市はエリザベスアヴエニュ及Amwell 道路の如き地方的な小交通道路ですらを避けて配置されて居る事が示されて居る。此の都市の居住者は斯樣にして再び道路網を增加する事が出來るのであるが、それ等の道路は市內を貫通する他の交通機關による損害はないのである。鳥眼圖(第3圖)は周圍に農耕地を持つて居る最初の都市の主要部を示して居るので、それは內部の庭園區廓の爲め、在來より存在して居る森林等を充分利用し得る樣に區廓計畫が行はれて居る事が理解されるであらう。道路設計及グループ住宅はクルーデサツク式にそして公共の通路に沿ふて住宅を外圍へ配置する方法(The peripheral method of houses)を採用してゐる。此のクルーデサツクの方法を採用すれば、それ自身が包含的な大なる廓區とすることが出來、且つ經濟的特點がそれに附帶して來る。即ち道路の鋪裝は極めて狹い部分ですむし、交通機關が通過する道路より遙かに輕いコンクリート鋪裝で足りるのである。(第4圖參照)此の場合一般代表的のクルーデサツク式道路の幅員は18呎にして、道路帳員の最小のものは24呎である。中心部の大なる區廓は殆んどクルーデサツク式の取扱で道路計畫が出來て居る。此の點が汚水處置に關して經濟的なる理由である。汚水處分の場合クルーデサツクなれば、一般の汚水はそのまゝ交通道路の汚水溝の中に斷絕される事



第4圖・クルーデサツクの規範例　A. 幹線道路　B. クルーデサツク　C. 共同庭園　D. 個人庭園

なく流し込み得るのである。中心部の大區廓は幾分中心か小丘になつて居り、此處より凡ての方向へ傾斜をなして居るのである。でクルーデサツク式の道路はそれ等の方向に向つて開發される譯である。

都市計畫に於て內部の主要道路を決定する時、學校の位置の問題は最も重要な部分として扱はれる。學校の位置に如何なる場合でも、生徒の徒步距離が遠過ぎざる事及通學に際し主要交通道路を橫斷せざる事、この2項は絕對に避ける必要がある。故に此の兩者に對して充分なる研究がなされねばならない。最後の決定的研究が現在完了したばかりであるから、此の問題が直ちに建設すべき都市の部分と、開發の最後に當達すべき部分とが如何に作用するかに就ては未だ示すことは出來ない。

直ちに建設される都市と將來開發される都市の部分に關する二重の問題が、商業的及都市の中心地決定に關して困難な問題を生ぜしめたのである。即ちそれは最初の都市に對して建設してある商業の集團地が、後日開發されて最後に當達すべき都市の部分の開發が完成した時、その商業的集團地が近隣の商業的中心地となるであらうかと云ふ問題であつた。けれども、此の事に對する討論は次の如きものであつた。即ちかゝる中心は都市の究極への中心地の妨害になるであらう。何故なれば旣に設置した商店が再び此の新中心地に商店を新設するのは困難であらうし、又假に此の新しい中心地に商店が設置されたとしても、その優勢なる商店の集中が、最後にはその近隣の商業中心地を廢れさす事になるのである。であるから最後の解決策として採用された案は、〃現在その一部分を開發し得且つ後に到つて都市の發達に隨つて擴張が可能である樣に、最初に開發した都市に出來るだけ好都合に將來開發される都市の中心地を決める事〃と云ふのであつた。

必要なる研究

如斯計畫に於て惹起した無數の問題の內で特に注意すべき問題が 2、3 ある。即ちそれは、〃詳細に關する研究〃が自由裁量し得る程度に凡ての種類に關してなされねばならぬと云ふ事である。

——電氣の分布、住宅の日照及集團、材料に關する最初の經費及經濟的維持、地方的慣習と偏見、其處に生活を期待し得る家族の收入、住家及學校の大さに影響する幼兒の數と年

齢及性の分布、自動車を持つ家族のパーセンデーヂと都市改善が出來た時、自動車を持つことを期待出來る人々の割合、各住家に地下室（Cellar）は用か不用か、或は洗濯所は地下室へ設くべきか又は1階に配置すべきか等の問題が即ちそれである。是等の問題は凡て充分綿密なる研究の上、解決されねばならぬものである。故に線地帶都市に於て以上の事柄が施工される時、周到なる調査研究によつて得た原理を實施するとせば、多くの間違を避ける事になるであらう。

是等の事柄を實施すべき固定の原理は、小規模の住宅供給の必要に應ずるのに周章狼狽して居るのに比較すれば本質的には、遙かに正しく、經濟狀態の明朗化も容易で、生活の手段としては實に愉快なもので、且つ健康維持に就ては確實に保證されるのである。それが適當に實施されゝば一般の需要へ影響し、產業の供給も可能で、且つ市民の爲めに眞實に適當した家庭及環境となすことが出來る。彼等は、現代の要求に對してかゝる自治體を整然とよく適應さすべき權利を有して居ると同時に、他の時代の人々の不合理によりその重要性を輕減させぬ義務がある。非常に多くのものが實行される筈であるから、田園の將來性に對して、かゝる偉大な機會が提供され且つその中で動いて居る我々の凡ては謙遜な氣持で滿たされて居るが又一方是等都市の凡てが、我々が望んで居る理想を現實に見たいといふ熱望で滿たされて居るのである。

昇　降　機　に　就　き　て

設　備　委　員　會

客用及貨物用各種昇降用機械及び附屬構造、設備に對する大阪府の取締方針は次の如し。

A動力及手動昇降機

(1) 昇降路(籃の昇降する通路)

(イ)外部より籃、平衡錘等に觸れぬ樣、周圍に圍障（昇降路なる之に接する床、階段等より區劃するもの）を設けること圍障の高は床面(階段に接する部分は踏面)から 1.7米以上とし附近に物が置かれる場合は天井迄とすること。圍障に「クリンプ」金網を用ひる時は1寸角目以下のものとすること。

(ロ)出入口には扉を設けること。扉はなるべく引戸とし伸縮戸の立機「ヒツチ」は乘用では65粍、貨物用では90粍以下とすること。開戸及開戸と引戸と組合せたものは多衆の昇降する場所に、又上下戸は乘用に用ひぬこと。扉の高は 1.7米以上とすること。

(ハ)扉には鎖錠裝置を設け籃が停止せる階以外では外方より容易に開き得ない構造とすること。自動操縱式では鎖錠裝置は運轉開始の際自動的に動作した後又は同時に「ドアースキツチ」が動作すること。

(ニ)扉に動力開閉装置を有するものは動力が遮斷した際昇降路内側より手動に依つて開閉し得る様にすること。

(ホ)扉には「ドアースキツチ」を設けること。扉が全閉鎖の位置から60粍以上開いたときは「ドアースキツチ」は遮斷さるること。電氣昇降機以外のものは扉を閉鎖しなければ籃を運轉し得ない裝置をすること。自動上下扉には「ドアースキツチ」を要しない。

(ヘ)昇降路の頂部及底部には籃が終端階の床面に停止したとき籃との間に左表の間隙を有すること此の距離は籃の上部又は底部架構と昇降路頂部又は「ピツト」底部との鉛直距離で索輪其の他の裝置が突出して居るときは其の部分より測るものとす。

籃の速度毎分	間隙
50米以下	70糎以上
50米を超過し80米以下	90糎〃
80米を超過し110米以下	1.2米〃
110米を超過し160米以下	1.5米〃

(ト)籃が「ピツト」内で緩衝器を全壓したとき籃の底部と「ピツト」底部との間には60糎以上の間隙を有し、此の時平衡錘は頂部に於て尙60糎以上昇り得る間隙を有すること。

(チ)平衡錘が「ピツト」内で緩衝器を全壓したとき籃は頂部に於て尙60糎以上昇り得る間隙を有すること。

(リ)出入口床面の端と籃床面の端との間には4糎以下2糎以上の間隙を有すること。

(ヌ)籃と平衡錘及昇降路内壁(凡て突出物を含む)との間には2糎以上の間隙を有すること。

(除　外)　籃の速度毎分30米以下のもの又は衝撃等に依る危險の虞のないものは適當な間隙が有れば右項目中(ヘ)(ト)(チ)に依らないで差支ない。

(2) 機　械　室

(イ)機械室は特定の室とするか又は周圍に圍障を設けること。昇降用機械の「ベット」及制禦盤等と機械室の壁又は圍障との間は30糎以上離し、其の他に點檢補修に必要なる場所を有すること。

(ロ)適當な床を設くること。

(ハ)天井の高は床面より 1.7米以上とすること、但し之は最低の場所で測るものとす。

(ニ)出入口を設け之に戸を備へ適當な通路に接すること出入口を床に設けるときは其の幅(縱横共) 60糎以上とし、梯子を用ひるときは、之を固定すること。

(ホ)内部に電燈を設備すること。

(除　外)　機械室を昇降路の下方に設けるとき頂部に索輪等を設置する場所も右の規準に依るが(ハ)の高は1米以上として差支へない。

(3) 籃

(イ)籃の床「ガイドシユー」索條等を支持する架構部及床の外部架構は鐵材其の他の金屬を以てすること。

(ロ)側面及頂部には適當な圍障を設け籃内より平衡錘、昇降路内壁等に觸れない様な構造とすること。

(ハ)出入口には扉を設けること。伸縮戸の立棧ピツチは昇降路の場合と同じ。((1)の(ロ)參照)

(ニ)扉にはドアースキツチを設けること電氣昇降機以外のものには扉を閉鎖しなければ籃を運轉し得ない裝置をすること。

(ホ)出入口は1個所とすること。

(ヘ)乘用のものは頂部に幅30糎以上、面積1600平方糎以上の非常出入口を設けること。

(ト)籃内には電燈の設備をすること。

(チ)調速機(スピードガバナー)に依つて動作する籃安全機(カーセーフチー)を設けること。調速機は籃の速度が15乃至40パーセント超過したとき動作する様調整すること但し速度毎分50米以下で動作する必要はない。瞬間的に動作する籃安全機は籃速度毎分50米以上のものには用ひないこと。

(リ)調速機が動作したときは原動機の動力は自動的に遮斷されること。

(除外)貨物用昇降機で昇降行程5米下のもの又は昇降行程6米以下で昇降路出入口2個所以下のものは右項目中(ロ)乃至(リ)の規準に依らなくても差支へない。

(4) 昇降用機械(エレベーターマシン)

(イ)乘用のものでは捲揚機及牽引機の動力傳達には調帶及「クラツチ」等の裝置を用ひないこと。

(ロ)捲揚及牽引機には制動機を設けること。

(ハ)制動機は籃の操縱裝置が運轉停止の位置になつたとき發條又は重力等に依て自動的に動作すること。電氣昇降機では制動機は電氣的に開くこと。

(ニ)ドラム型昇降機(捲揚機を有するもの)では索條は「ドラム」に常に一捲以上の捲殘りを有すること。

(ホ)ドラム型昇降機には索條が弛緩したとき動力を自動的に遮斷する裝置を設けること。

(5) 自動停止裝置

(イ)籃が昇降路頂部及底部に進んだとき自動的に動力を遮斷し籃を安全に停止さす裝置(電氣昇降機では「リミツトスヰツチ」)をすること。

(ロ)電氣昇降機では各單獨に動作する二重の自動停止裝置をすること、即ち「リミツトスヰツチ」を籃又は昇降路に設け、別に「フアイナルリミツトスヰツチ」を昇降路に設けること。ドラム型昇降機では「フアイナルリミツトスヰツチ」を捲揚機にも設けること。

操縱裝置に「ハンドロープ」を用ふるものでは「ハンドロープ」に「ストツプボール」を設け之に依り「リミツトスヰツチ」を動作せしめ「リミツトスヰツチ」は機械其の他適當な場所に設けて差支へない。

(ハ)速度毎分30米を超過するものでは「ハンドロープ」又は之に類似の操縱裝置を用ひないこと。

(ニ)「リミツトスヰツチ」及「フアイナルリミツトスヰツチ」は函内に入れること。

(6) 操縱裝置

(イ)カースヰツチ式操縱裝置の「ハンドル」及押釦式操縱裝置(自動操縱及シグナル操縱等)の昇降用押釦又は「スヰツチ」は自動的に運轉停止又は遮斷の位置に復すること。

(ロ)押釦式操縱のものでは籃の運轉中昇降用押釦又は「スヰツチ」は反對方向への動作をせず又籃の停止せる階への押釦は動作しないこと。電氣昇降機では籃内に操縱裝置の電路を遮斷し且籃の運轉を停止する「スヰツチ」(非常停止スヰツチ)を設けること、但し貨物用で昇降行程5米以下のものは之を要しない。

(7) 非常信號裝置

乘用昇降機で籃の運轉中、故障の場合昇降路外部と連絡し難きもの(密閉された昇降路)では籃内に適當な信號又は電話の裝置をし、係員詰所等に信號し得ること。信號裝置の電源は電池等に依ること。

(8) 索　　條

(イ)籃及平衡錘の索條は鐵製とし其の直徑は索輪の直徑の40分の1以下とすること(直徑12粍未滿の索條は使用せぬ方がよい。)索條を取付ける「ソケツトボールト」に用ひる「ナツト」は2個以上とし割ピン等の「ナツト」止をすること。

(ロ)右索條の强度計算では安全係數は靜荷重に對し10以上とすること。

(9) 軌　　道

(イ)軌條は昇降路底部より頂部まで達し全荷重で籃安全機の動作したときの衝撃に對し充分の强度を有すること。

(ロ)古軌條及其の支持物(ブラケット)は鐵製とすること。

(10)緩衝器(バツフアー)

籃及平衡錘には緩衝器を設くること。發條緩衝器は籃の速度毎分80米以下のものには用ひてもよいが此の速度を超過するものには油入緩衝器を用ひること。

(11)平衡錘(カウンターウエート)

各片は2本以上の「ボールト」を以て貫通連絡し「ボールト」は2個以上の「ナット」を以て止めること。

(12)強度計算及動力容量計算に於ける籃の動荷重の最小限は左の通りとす。

種別	動荷重(1平方米に付瓩)
百貨店、集會場、劇場其の他之に類する建物に設ける乘用昇降機(主として來集者用)	500
手動昇降機	300
其の他の昇降機	370

籃及平衡錘に依つて昇降路頂部に於ける支持梁に加はる荷重は最大靜荷重(籃動荷重を含む)の2倍以上とすること。

(13)定員

乘用昇降機に於ては定員は籃の床面積0.14平方米に付1人の割を超えないこと但し前項(12)の籃の動荷重を500瓩以上としたものは0.12平方米に付1人の割として差支へない。

(14)手動昇降機(籃の昇降用機械に動力を用ひず手動によるもの)

手動昇降機は右各項目中(1)の(ホ)、(3)の(ニ)、(リ)、(4)の(イ)(ハ)(ホ)、(5)、(6)、(7)、(8)の(イ)、(9)の(ロ)(15)の(ニ)、(16)の(ヘ)を除外するものとす。

B小型及工事用昇降機、エスカレーター

(15)小型昇降機(貨物用にして籃の内法高1.2米以下床面積0.8平方米以下のもの)

(イ)昇降路の周圍に圍障を設けること。圍障の構造は動力昇降機に準ず。

(ロ)出入口には適當な扉を設けること。

(ハ)機械室は高1米以上とし、出入口及戸を設け階段又は固定梯子に依り容易に出入し得ること。

(ニ)昇降路頂部及底部には自動停止裝置を設け、籃及平衡錘との間に適當な間隙を有すること。

(ホ)籃の出入口は1個所とすること。

(除外)「コンベヤー」は右項目中の(ロ)、(ニ)、(ホ)、を除外す。

(16)工事用昇降機(工業用として假設し一時の用途に供するもの)

(イ)昇降路の周圍に適當なる圍障を設けること。

(ロ)籃の主要構造部は鐵材又は木材を以て堅牢に構成すること。

(ハ)籃の天井及側面には適當なる圍障を設けること。

(ニ)籃には調速機に依つて動作する籃安全機を設けること。

(ホ)昇降用機械ニハ適當ナ制動機ヲ附スルコト

(ヘ)昇降路頂部及底部には自動停止裝置を設け籃及平衡錘との間には適當な間隙を有すること。

(ト)籃及平衡錘の索條は鐵製とすること。

(チ)右索條は索輪の直徑の30分の1以下とすること。

(リ)強度計算で索條の安全係數は靜荷重(籃の動荷重を含む)に對し10以上とし、籃の動荷重は籃の床面積1平方米に付370瓩以上とすること。

(ヌ)籃及平衡錘の進路は鐵製軌條に依ること。

(除外)昇降行程6米以下のものは右項目中(ハ)(ニ)及(ホ)に、人を乘せないものは(イ)(ハ)(ニ)及

(ホ)に依らなくても差支ない。

(17)エスカレーター

(イ)進路の軌條及其の支持物は鐵製とすること。

(ロ)進路の兩側に適當な扶欄を設け之に沿つて進路と同上速度で移動する手摺を設けること。

(ハ)上下兩部の昇降口に非常停止「スキツチ」を設けること。

(ニ)昇降用機械には適當な制動機を附すること。

(ホ)進路は落下のとき自動的に動力が遮斷され安全に停止すること。

(ヘ)機械室は點檢補修に支障なき構造とすること。

C 特種建築物に設ける昇降路機械室等の構造

(18)左の各項目の建物に設ける昇降機の昇降路の圍障、機械室の圍障、床、屋根又は天井其の他主要構造部は之を耐火構造とすること。

(イ)劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場、集會場、公會堂、學校、病院、旅館、貸座敷、常設展覽會場、市場、勸工場及之に類するもの

(ロ)百貨店、共同住宅、自動車々庫。

(ハ)高20米又は軒高15米を超過する建物。

(除外) 1、貨物用又は來集者の乘用に供しないもので適當に防火壁を以て區劃された場所(耐火構造のエレベーターホール等)に設けるものは右の耐火構造とする部分を不燃材料を以て構成して差支ない。

(ニ)右項目中(イ)及(ロ)の建物に設け昇降行程10米且昇降階數3を超えないもの、又は(ハ)の建設に設け昇降行程15米且昇降階數4を超えないものは建物が耐火構造でなければ之等の昇降機は耐火構造としなくても大體差支なく又建物が耐火構造であれば之等の昇降機の耐火構造とする部分を不燃材料を以てして大體差支ない。

(19)右の(18)に依つて主要構造部を耐火構造とした昇降機の昇降路出入口扉は防火戸とすること但し其の面積の10分の1を超えない範圍で網入硝子を使用して差支ない。1個所の扉が2枚以上から成るものは右の硝子は扉の各1枚に付いて其の面積の10分の1以下であること。

(20)右(18)の(イ)(ロ)(ハ)に該當する建物に設けるエスカレーター昇降路の各階の開口には鎧戸又は之に代るべき適當な防火裝置を設けること。

建築隨想

そこはかとなく

坂井則夫

材料の一品指定

まさに世は疑獄時代である。しかもその大半は建築、土木に關する疑獄である。これは建築とか土木とか云ふ仕事が、如何に疑獄を生みやすい性質のものであるかと云ふ事を、如實に立證するものである。獄をおこすもおこさぬも、その人の人柄によることは勿論であるが、併し制度の弊と云ふことも大いに考へなければならない。その制度の弊の一つとして、材料の一品指定と云ふことを引用するわけであるが、云ふまでもなく材料の一品指定と云ふのは、設計者が仕様書の作成にあたつて或る材料を特に指定することである。指定された材料の製作或ひは販賣業者は獨占市場が與へられるわけで、そこで何等か設計者と材料業者の間に、因と果の關係が釀されてゐるのではあるまいかと、疑惑の眼が向けられやすい立場となる。そんなわけから官公署では固く此の一品指定を避けて居り、また民間方面にみても特別の場合以外一品指定をしてゐる建築事務所は皆無のやうである。一應それはそれで誠に結構な話である。併しこれは逆說的な云ひ分であるかも知れないが「果して設計者は常に鋭角的な良心を持合せてゐるか？」と反問したくなる。一線一角に粉骨碎心のデザインを行つたものである以上、少くとも或る部分の使用材料には「是非これでなくては」と云ひたいものがある筈である。人々の疑惑を恐れて、此の良心を置き去ることは極言すれば「女でさへあれば……」の醜惡さと一般である。が、さて實際に當面して、意のまゝにばかりは行かないところに、抜くべからざるヂレンマがあるわけである。

「主體」と「附帶」

最近の統計によれば、官廳、民間を通じて我が國の建築工事費は、年額實に十一億圓に達してゐると云ふ。このうち暖冷房、電氣、衞生その他の附帶設備一般に投ぜられる金額を全體の30%弱とみても裕に三億圓になる。年額三億圓と云へば、確かに重要產業の列に入るべきものである。しかも建物に對して、ますます機能的な完全性が要求されてゐる趨勢にみても、今後時を經ずして主體工事費と附帶設備費は相半ばし、やがて地位を顚倒する時代が來ることを想像出來る。——と云つたやうな情勢の中にありながら、一方が「主體」と稱して据然たるに對し、いつまで「附帶」と從屬的な呼稱に、不合理を忍んでゐるべきでもあるまい。少くとも兩者はフィフティー・フィフティーであるべき筈だ。「附帶設備」に代る思ひつきな新語はないか？

建築工事のスピード

デパートなら開店の、工場なら操業開始の、一日でも早ければ早い程それだけ利潤の大きくなることは、說明の冗語を必要としないであらう。同樣に社會公共的な建物に就ても、竣工が早ければ早い程それだけ公衆の便益をあげることが出來る。此の場合請負契約の當初5%や10%の契約額の高低は、全く問題でないことになる。工期の短縮と云ふことは、目下の建築界に課せられてゐる最も重要な問題の一つである。試みに最近大阪市内に竣工した代表的建築物に就て、そのスピードをみてみよう。起工から竣工までの總日數で建物の延坪を除

し、一日當りの進工坪數を出すと云ふ方法で算定してみると——大阪株式取引所が5.3坪、大阪市水道部新廳舍が7.6坪、濟生會大阪府病院が5.7坪、そごうが4.6坪、新大阪ホテルが5.9坪と云ふことになつてゐる。いろいろ現場々々の事情により、一概には云へない點もあるが大體一日當り進捗延坪は5乃至7坪どころが平均らしい。併し大阪三井ビルの例にみるやうに、一日10坪以上を仕上げて行つたもののあるところからみても、今後なほなほスピード・アップの餘地が殘されてゐる事は肯ける。

「用」と「趣味」

隱棲二十三年。望鄉の情にたへず、故國の土を踏んだ彼の守山又三氏が、上陸第一歩にもらした感懷は「日本のオフヰス・ビルのデコレーションに凝つた贅澤さには驚いた」であつた。トタンにもらす、人の感情には偽りがなくまた正鵠を得てゐるものが多い。守山氏の此の一言も、確かに建築界にとつては、勘考一番すべきものではあるまいか。建築群は、都市を構築する最も重要なモメントである。その一つ々々の建築が粗惡では、到底都市美の完成を願ふことは出來ない。併し鐵とセメントとガラスを主要材料とする近世建築の勃興以來、我が國の建築界は、ひたすら技術のみの理論と實際を追ふことに懸命で、經濟的・採算的建築學の一面を沒却してはゐなかつたであらうか？端的に云へば、オフヰス・ビルは構造的に確かで、機能的に完全なら、コンクリートの地肌を、そのままむき出しでも差し支へないわけである。併しそれは、實の成らぬ花を不要のものとするのと同じで、無用の用と云ふことを忘れてはならない。とは云ふものの無用の用と物本來の用が主客顚倒されては困る。「用」と「趣味」の渾然たる境地こそ最も望ましいところで、われわれは此の點に關する系統だつた研究の完成を俟ちたいものと思ふ。

建築資金の低利融資

月賦ならこその有難さで、六十圓の洋服をつくるのに六十圓のキヤツシュを持つてかからねばならないのでは、洋服人種の大半は悲鳴をあげるであらう。十萬圓の建築を營むには十萬圓の正金を用意してかからねばならない現狀が、如何に建築界の躍進を阻害してゐるかは、想像に難くない。大藏省の低利資金は對象を公共團體に限つてゐるが、これを一般に向つても門戸を開けるとか、または半民半官の制度でもとつて建築資金融資の會社でも創設すれば……と夢を描いてみたくなる。併しこれはいつまで夢としてのみ置くべきものではなく、齊しくわれわれ共同の目的として、實現に努めなければならないものである。失業救濟の土木事業と云ふのがある。限られた期間に、定められた數の失業者を使役しなければならないために、時としては、一旦運びこんだ土をまた運び去らせ、も一度あらためて運びこませると云ふやうなバカバカしい事もやつてゐる。嘘のやうな實話だ。そんな無意味な金の使ひやうよりも、それを建築資金に廻はせば、「人夫は失業者を」の條件一項で失業救濟の實を擧げ得る。他方景氣の波及する範圍の廣さは遙かに土木工事の比ではない。一石にして少くとも四、五鳥を覘ひ得る妙想たり得ること疑ひなしだが……。

訂　正　本誌6月號、西山卯三氏建築隨想欄　原稿中64頁、前列4行目より5行目にかけての「建築藝術、非藝術論の論戰と云ふ風な興味深いものが大正初期にありました」の文章は（附註）につき、削除す。

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖（二萬分ノ一）1部

- **實　費　15錢**　（外に送料2錢）
- **送金方法　振替**　（振替口座大阪39975）

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

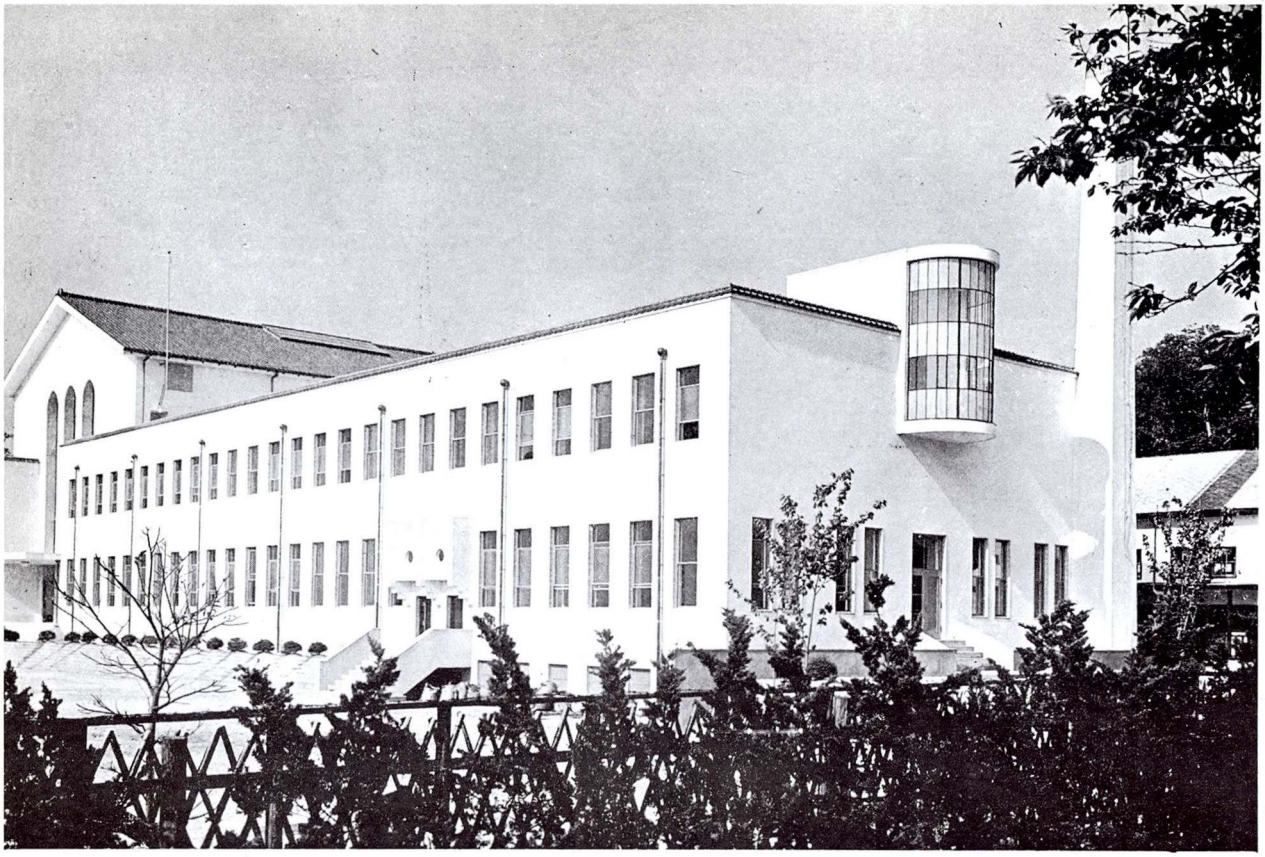
內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 **日本建築協會**

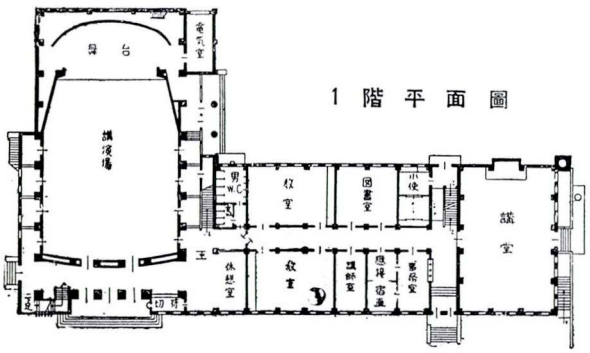


正　　面

“大阪青年塾堂”　設計・大阪府營繕課・施工・松村組　1

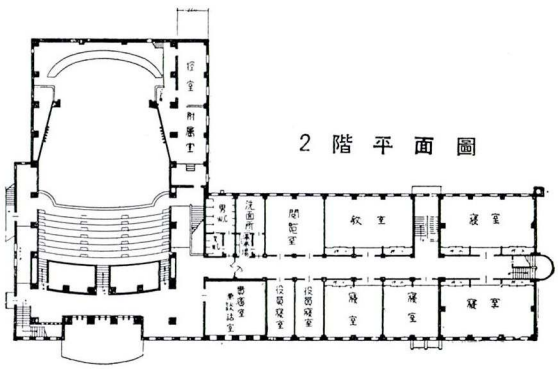


全　　景

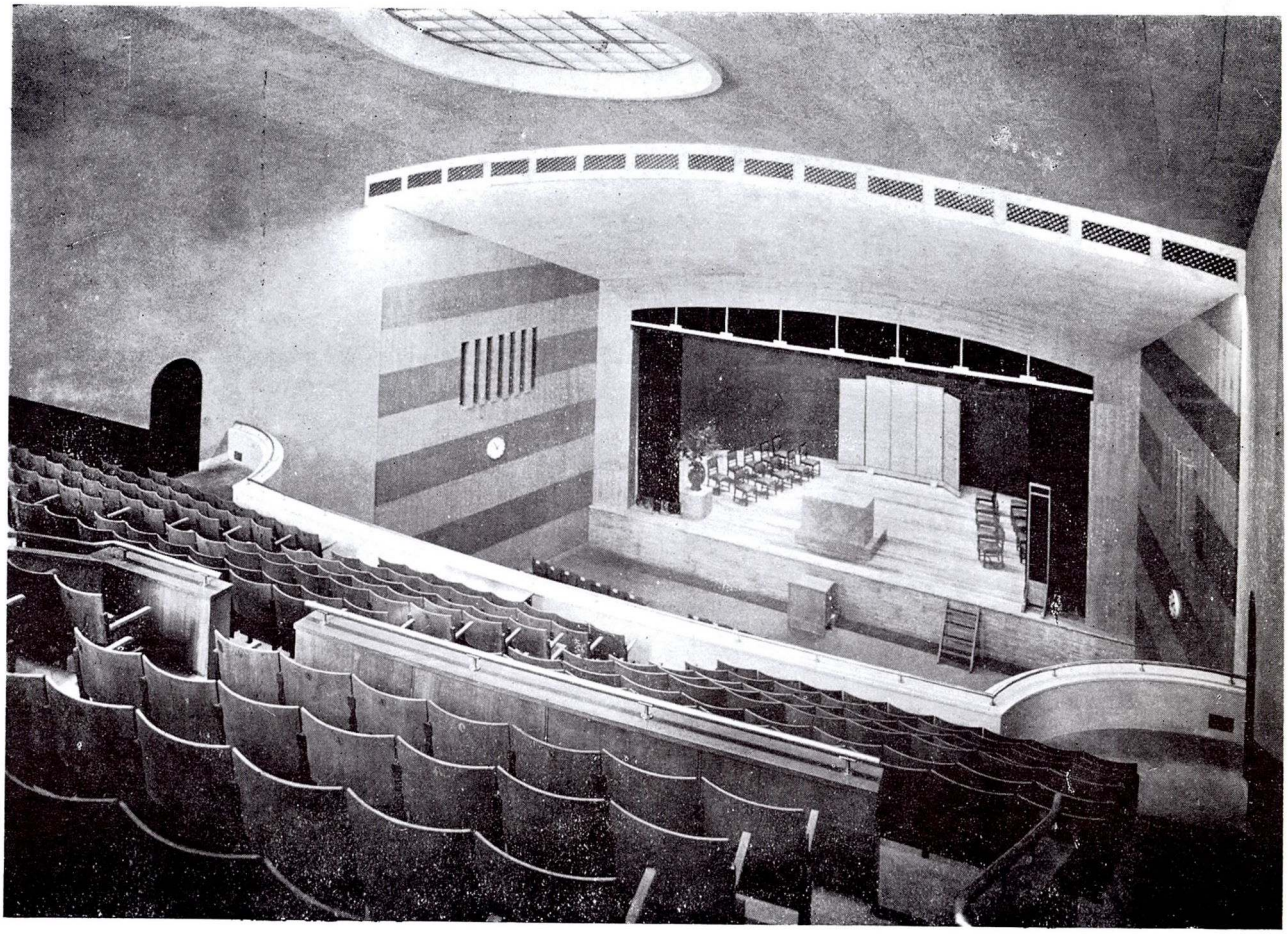


1 階 平 面 圖

VII 2 “大　阪　青　年　塾　堂” 設計・大阪府營繕課・施工・松村組



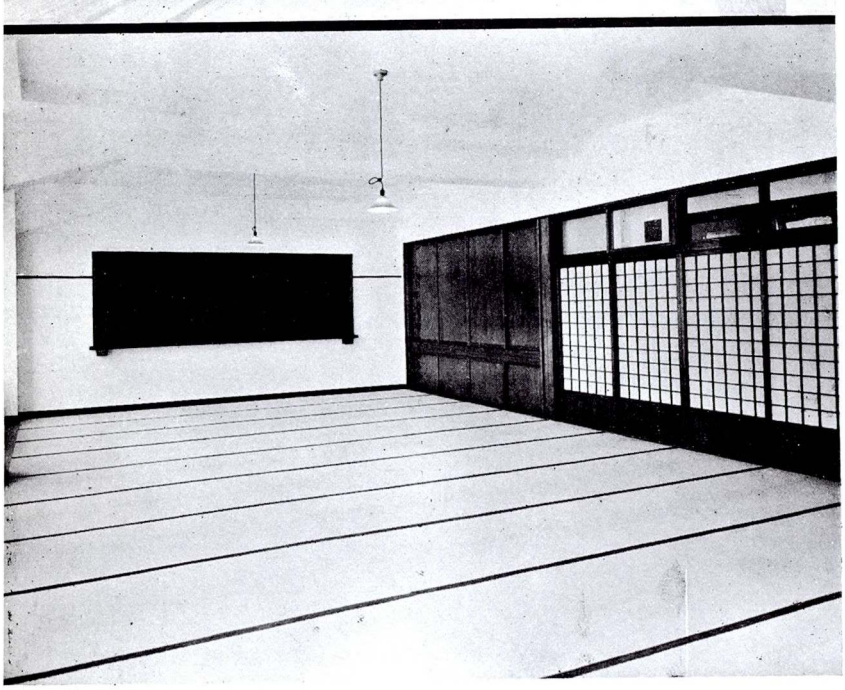
講　演　場



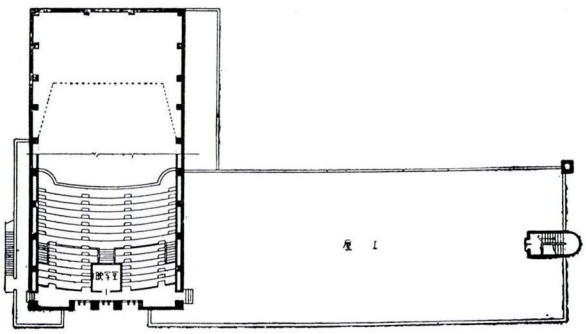
“大　阪　青　年　塾　堂”　設計・大阪府營繕課・施工・松村組　3　VII



講　　堂

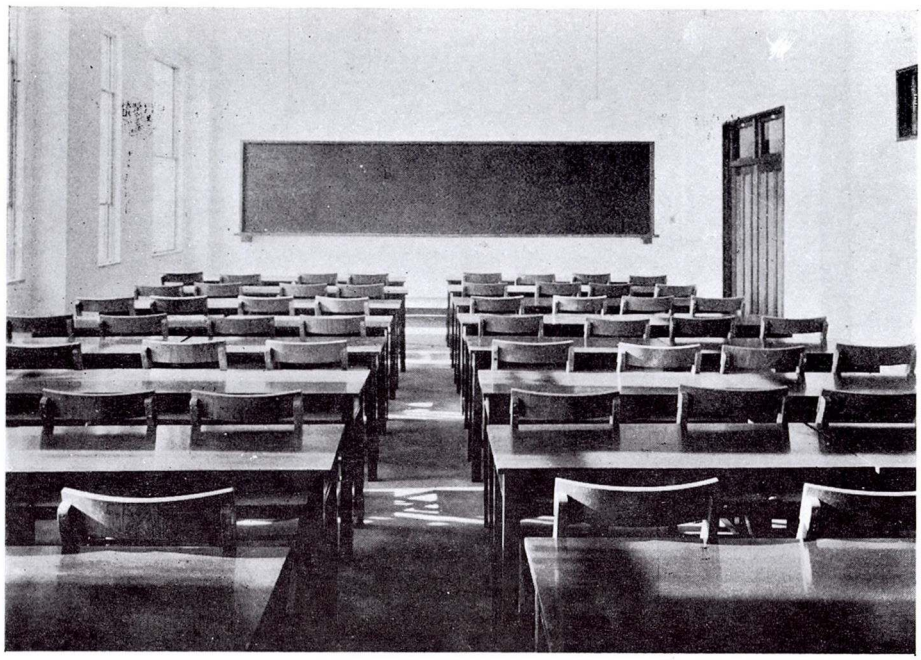


疊敷教室



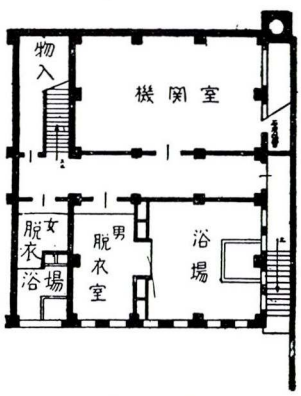
3 階 平 面

VII 4 “大　阪　青　年　塾　堂” 設計・大阪府營繕課・施工・松村組



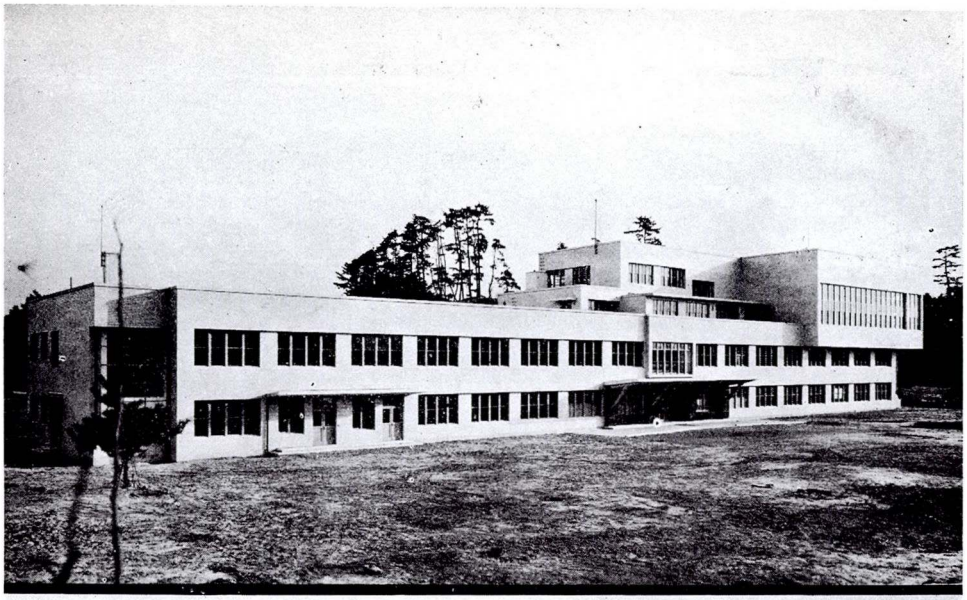
教　　室

位　　置	大阪市天王寺區夕陽丘町
敷地坪數	3219坪
建物坪數	本館830坪　地階73坪　1階411坪　2階274坪　棧敷68坪　屋階4坪　別館218坪5　1階197坪941　2階68坪708
建築様式	近世日本式
設　　計	大阪府營繕課
施　　工	松村組
工　　期	昭和10年5月着工昭和11年5月竣功
建物の高さ	一般軒高34尺　講演場50尺
建物の構造	主體構造は鐵骨並に鐵筋「コンクリート」造とす
外部仕上	外壁は白色「セメントモルタル」、「スポンヂ」仕上　腰10粍角濕式「タイル」貼り講演場屋根及「パラペット」上端泉州産銀灰色瓦葺
内部仕上	イ、講演場床、「リグノイド」塗壁、「プロセニアムアーチ」並に前面傾斜壁鹽地「ベニア」板張り其他總て「パルボイド」2回塗、腰「レザークロース」張り巾木「トラバーチン」貼り　天井、舞臺前面及棧敷下1部「プラスター」塗「カペツクス」仕上　其他總て(1.2階背面壁共)「トマテツキス」張り　固定席1.074　ロ、教室、圖書室其他　床「リグノイド」塗　壁「プラスター」塗巾木仕舞　天井「プラスター」塗　ハ、寢室　床疊敷　壁「プラスター」塗　天井「プラスター」塗　ニ、講堂　床板張り　壁「プラスター」塗巾木仕舞　天井「プラスター」塗　ホ、浴室、洗面所、便所　床「タイル」敷　腰「タイル」張り　壁天井共白「セメントモルタル」塗　ヘ、武道場　床板張り　腰羽目板張り　壁「プラスター」塗　天井格縁「ベニア」板張り　ト、食堂及集會室　床板張り　壁「プラスター」眞壁塗、巾木仕舞

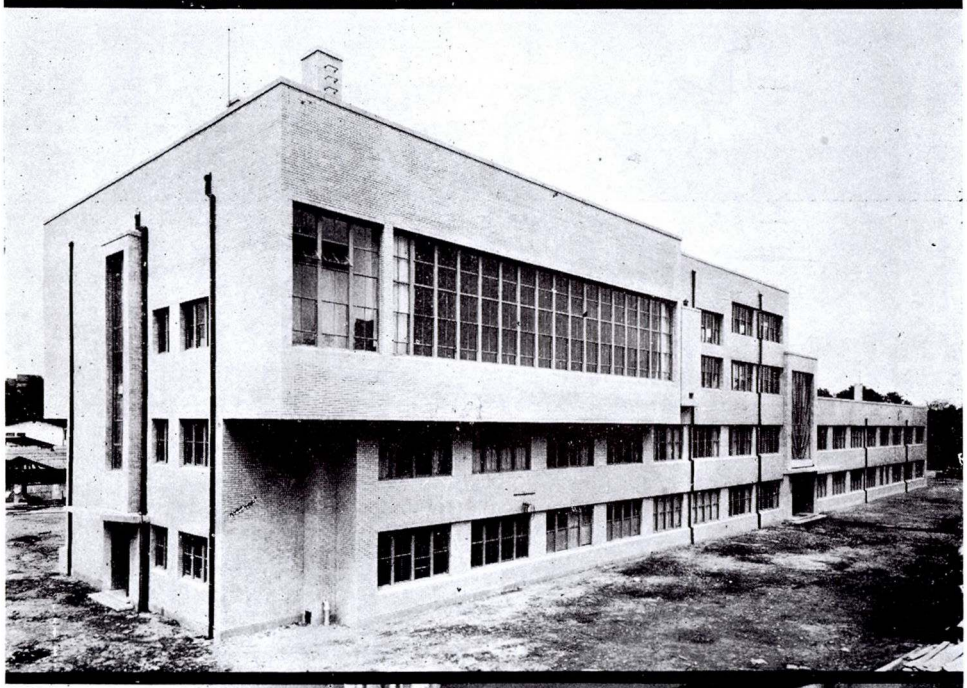


地階平面圖

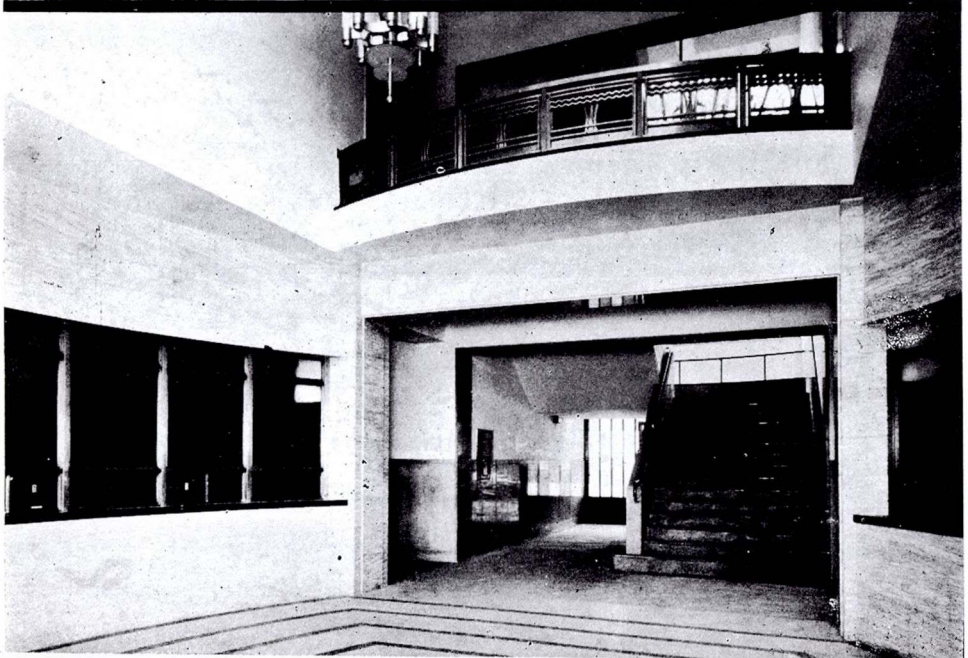
關西大學豫科教室



正面外觀（北面）



背面外觀（南面）

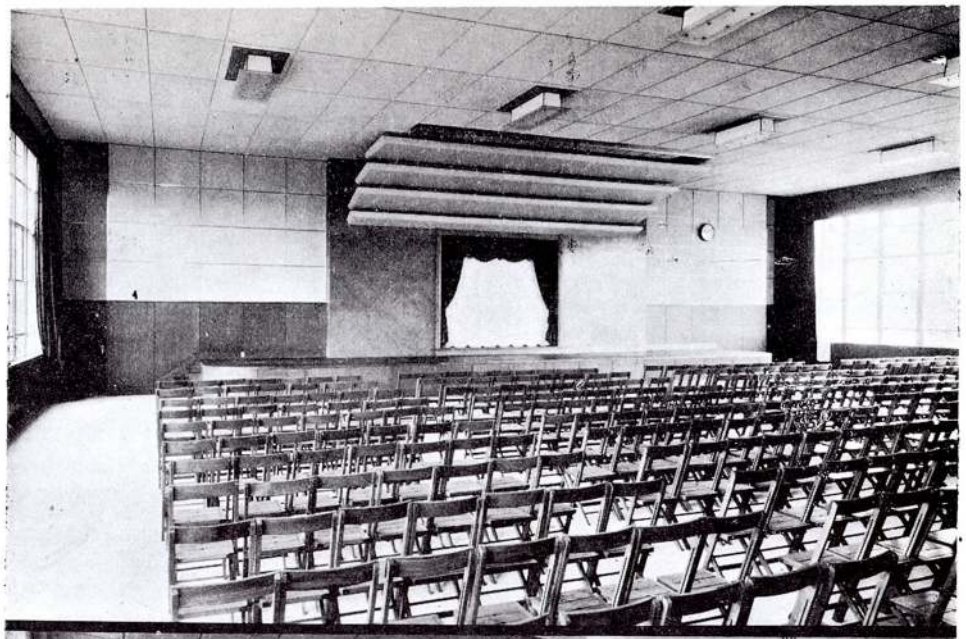


玄關ホール

設計・施工・大林組

關西大學豫科教室

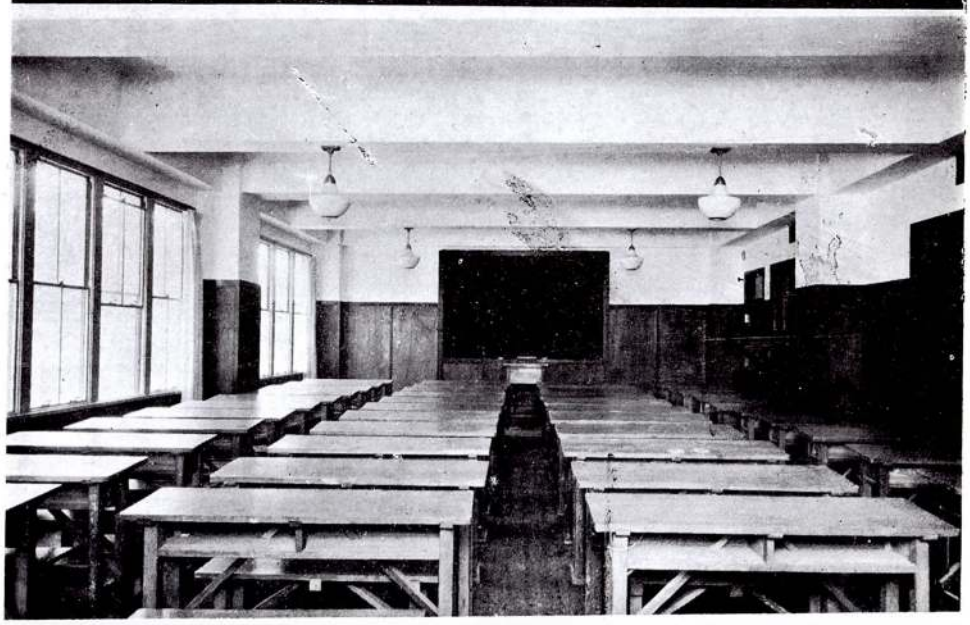
第3階講堂



第3階特別教室



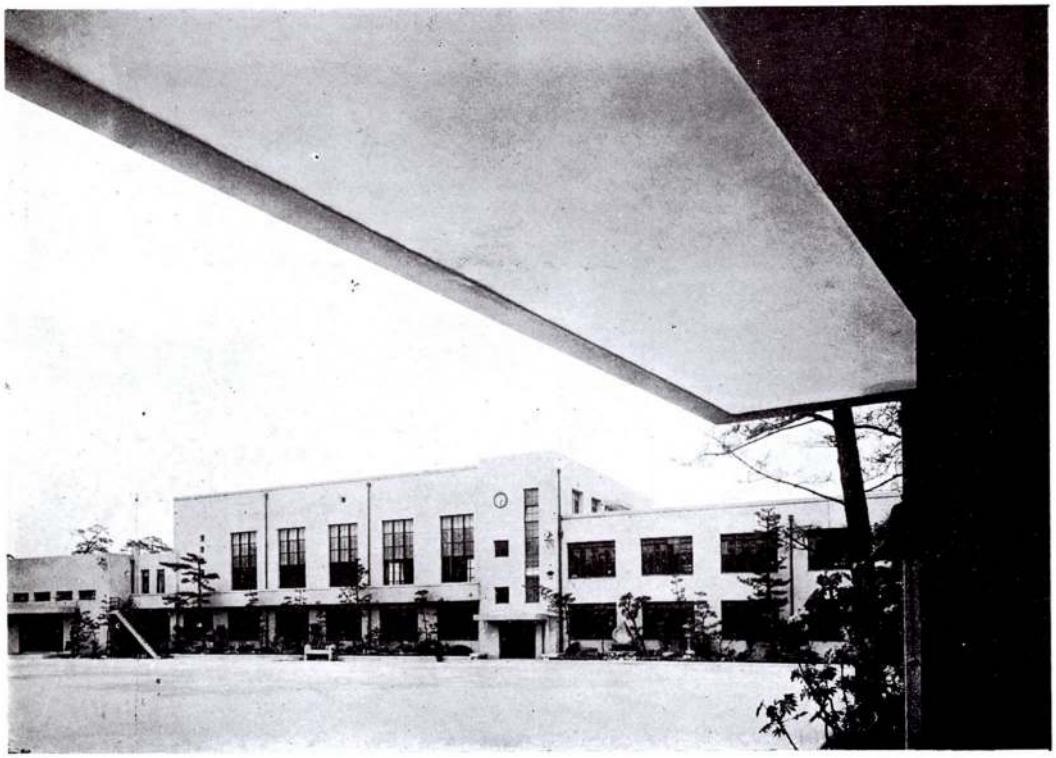
教室



設計・施工・大林組



正面外觀



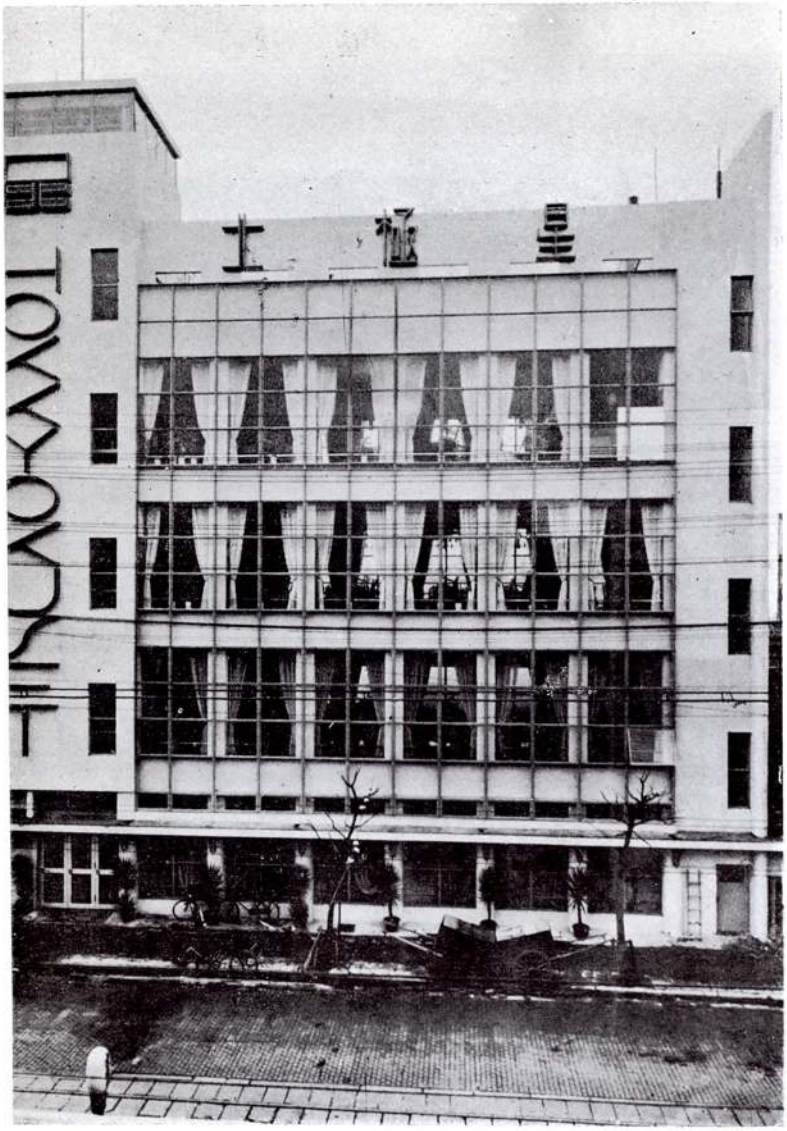
校庭側外觀



校庭側外觀



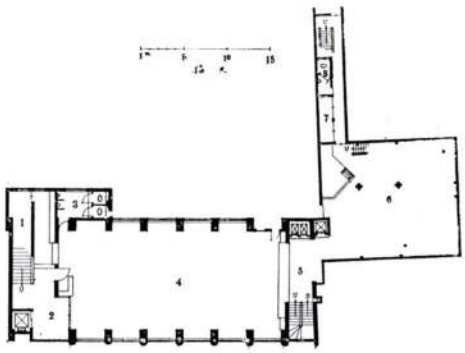
體育館



外　　觀

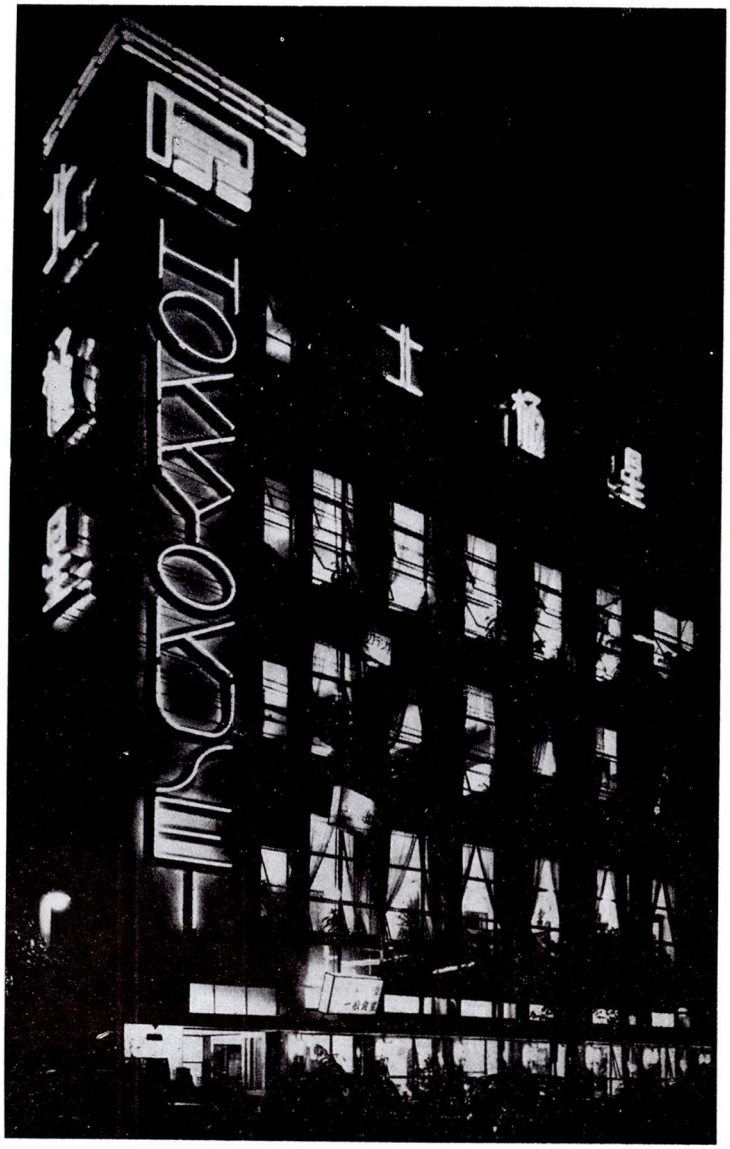
第 1 階 平 面

1	電氣室	5	配膳室
2	廣　間	6	調理室
3	便　所	7	物　置
4	客　室	8	便　所



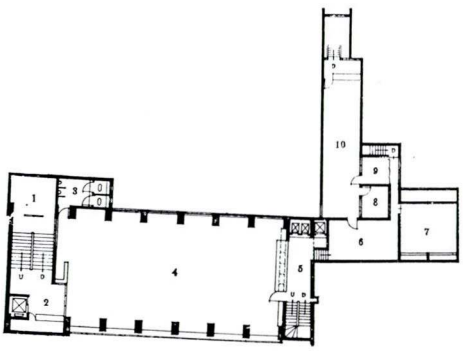
VII　10　“北　　極　　星”　設計・木村詢建築事務所・施工・小阪井組

夜　　景



第２階平面

1 整容室　6 店員食堂
2 廣　間　7 居　間
3 便　所　8 社長室
4 客　室　9 豫備室
5 配膳室　10 事務室



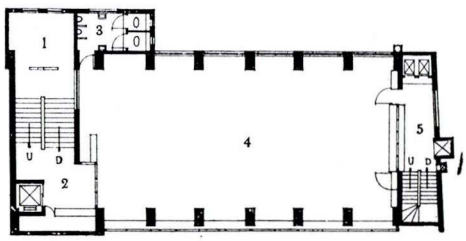
“北　極　星”　設計・木村詢建築事務所・施工・小阪井組　11　VII



第 1 階 上 踊 場
の 客 用 書 机

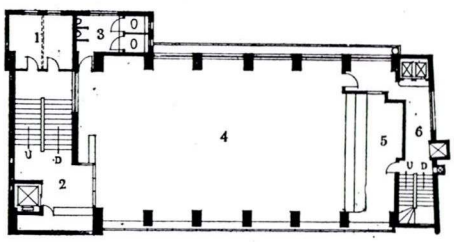
第 3 階 平 面

1 整 容 室　4 客　室
2 廣　間　5 配 膳 室
3 便　所



第 4 階 平 面

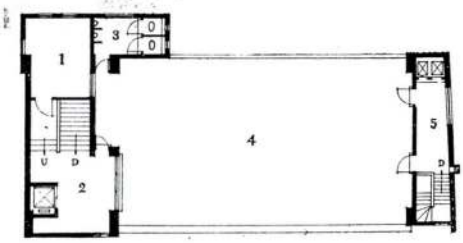
1 店員更衣室　4 客　室
2 廣　間　5 調 理 室
3 便　所　6 配 膳 室





第　4　階

グ　リ　ル　ル　ー　ム



第　3　階

宴　會　場

第5階平面

1 應接室　4 屋　上
2 廣　間　5 配膳室
3 便　所





第　5　階

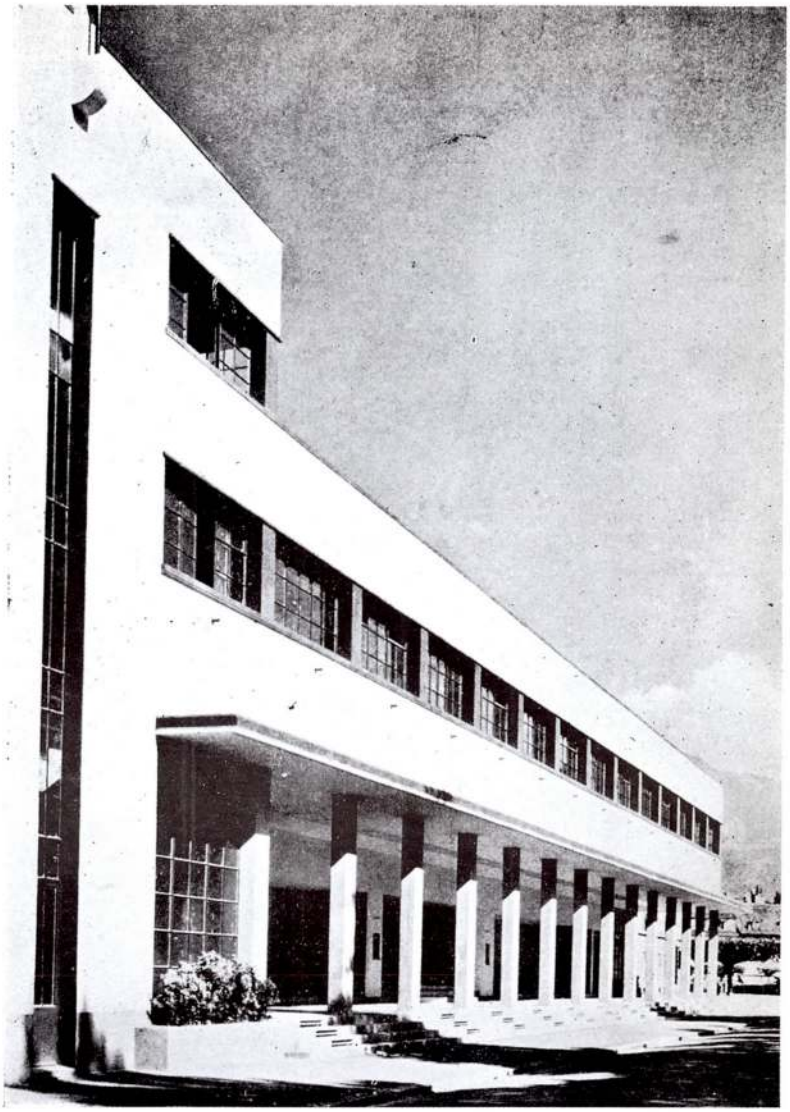
特　別　客　室

位　置　大阪市南區難波新地四番地ノ四
敷地面積　399.06m²
總延面積　1117.95m²
内　譯

1 階	316.98m²	内客室	135.0m²
2 階	316.98	内客室	135.0
3 階	198.5	内客室	135.0
4 階	198.5	内客室	113.5
5 階	71.00	内客室	14.2
屋階	16.00		

高　さ
塔屋頂上迄　23.5m
パラペット頂上迄　18.00
構　造
基礎　割栗地形鐵筋コンクリート造
主體　鐵筋コンクリート造1部木造
樣　式
營業目的に立脚し既製材料を効果的に構成せるもの

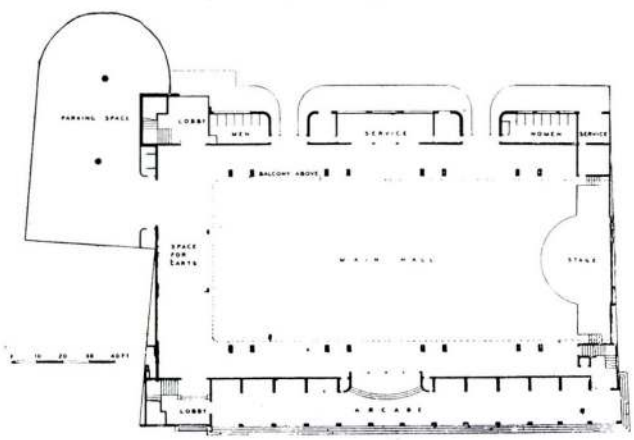
外部仕上概要
表通路に面する側は全部深川鼠モザイツクタイル貼り裏面白セメント入モルタル掻落し仕上とし窓及出入口はスチールサツシユ及ドアーを使用しサツシユは青色ペイント塗、ドアーは銀鼠色ラツカー仕上とす
内部仕上概要
正面入口床モザイツクタイル貼壁人造研出し天井プラスター仕上
階段室廻り蹴込深川鼠モザイツクタイル踏面及手摺、壁人造研出し眞鍮目地入段鼻眞鍮製金物天井プラスター仕上
1、2階客室床幅フローリングブロツク敷腰人造研出し見切眞鍮コーナービード壁天井プラスター仕上
3 階客室床幅フローリングブロツク敷巾木琉球産トラバーチン腰ラスタイル貼り壁天井プラスター天井1部水性ペンキ塗仕上
4 階客室床幅フローリングブロツク敷巾木鹽地オクルト、テンワニス仕上腰壁紙貼見切縁チークラツカー仕上壁天井プラスター天井 1部水性ペンキ塗仕上
5 階客室4階のものに同樣
配膳室廻床クリンカタイル貼り壁モルタルペンキ壁天井プラスター
調栓室床クリンカタイル貼り壁天井石綿スレート貼ペンキ塗仕上
設備概要
電燈電話電鈴電氣時計避雷針給湯給水排水昇降機 1)リフト、3)其の他の設備をなす
工　程
起工　昭和10年9月25日
竣工　昭和11年4月10日
設計計畫指導　海上靜一
設計並監督　木村詢建築事務所
施　工　小阪井組



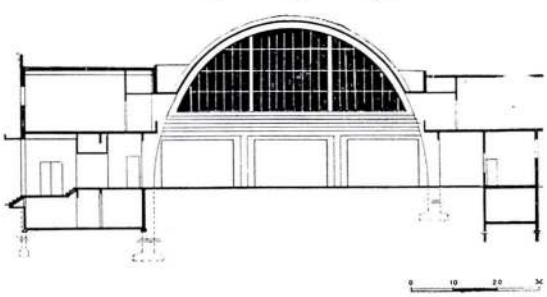
ボーチ側外觀

最近・ベベーの舊市のシビツクセンターに設立されたこの市場は、本來の市場としての機能を完全に果さすべく設計されたものであるが、時には、他の公共的な用途にも十分間に合そうと意圖してゐる。例へば音樂會・ダンス・其の他運動競技の備物等にである。第2階などはバルコニーを開放して展覽會場にも流用しようと云ふのである。この融通性のあるこの建物でも、最も興味を持たれそうなのは、後日、ある機會に最上階を55室のアパートに最初の計畫通り難なく施設されればである。

平面圖

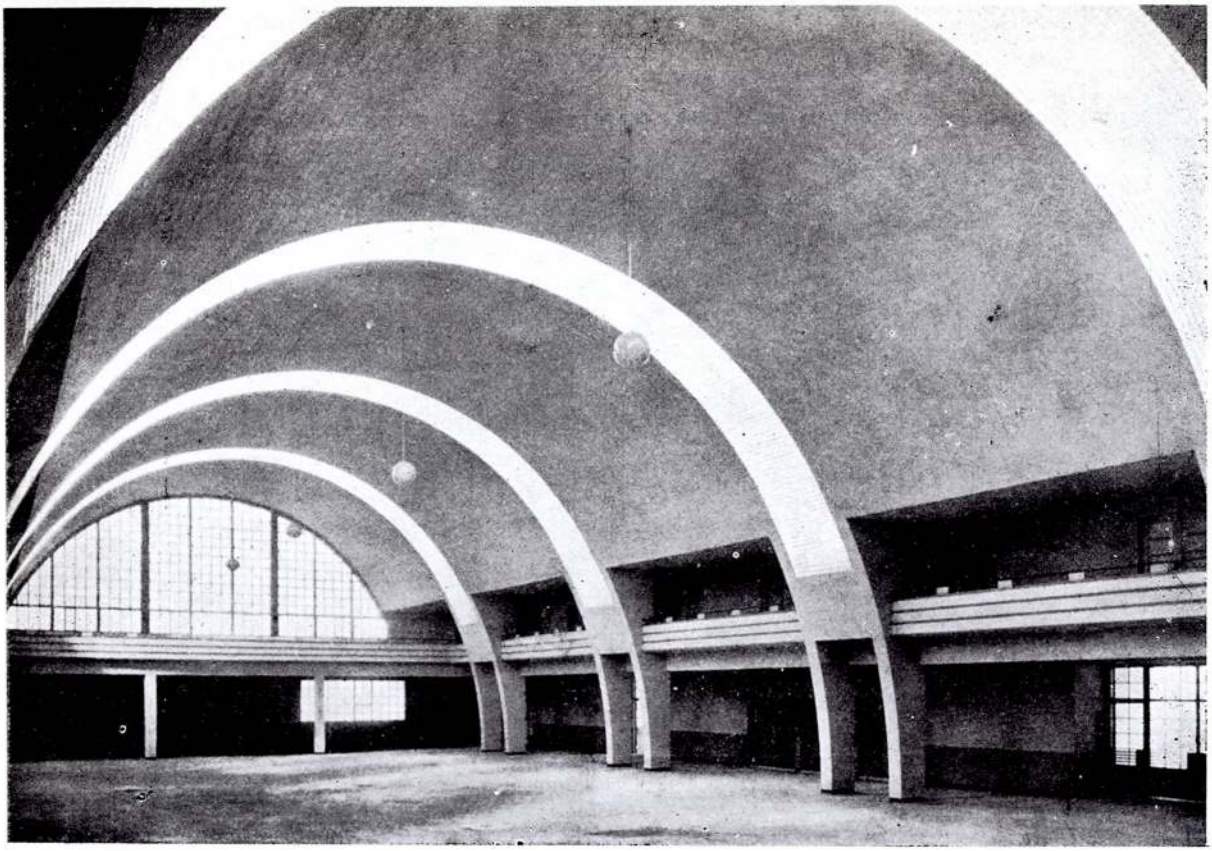


斷面圖



（スイス） 有蓋市場

建築家 Taverney, Schobinger 及 Getag



ホール内部

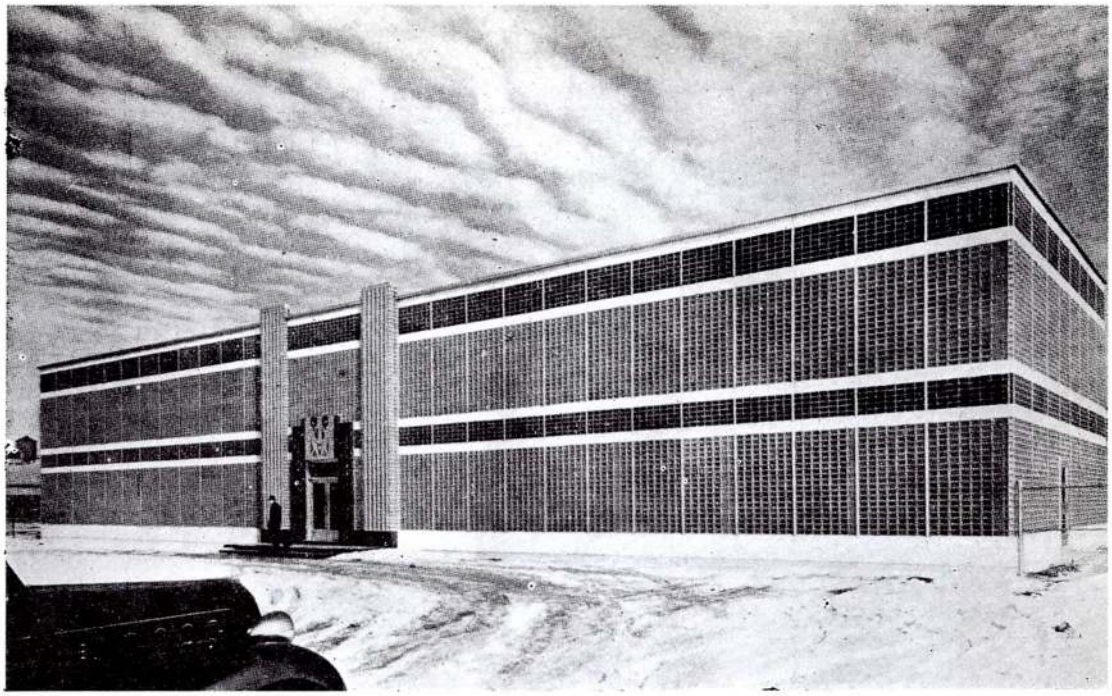


自動車置場

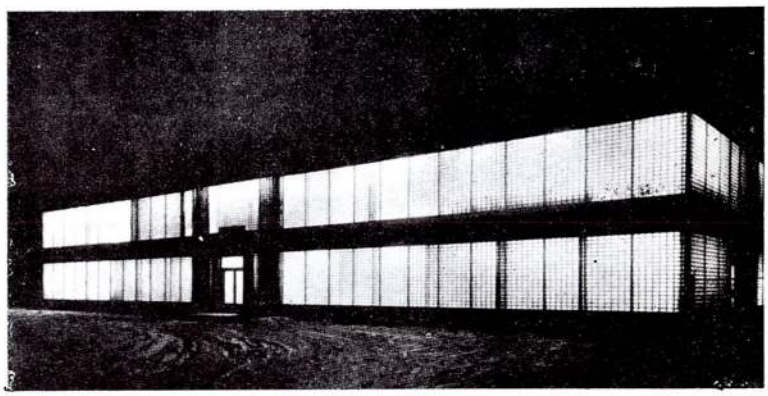
大ホールは寫眞にて理解出來る樣に2重のアーチの挟まれた部分から、乳白色のやわらかい光線な室内に投げてゐる。これはデッキガラス製のスラブであつて、妻側の大きい窓からさし込む光と相俟つて光量は十分隅々迄ゆきわたつてゐる。

この兩側のギャラリーが前述の變つた型に間仕切れる展覽會場に當てられるのである。

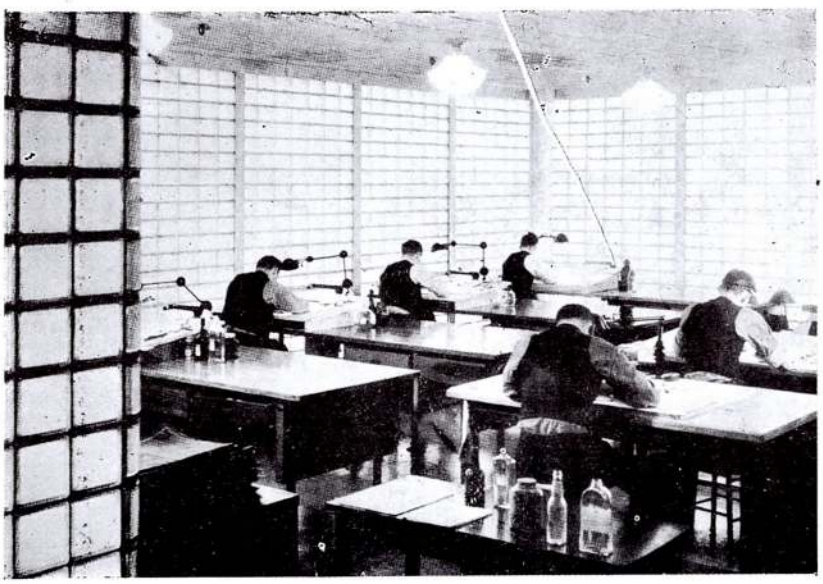
コンクリート工事はブラッセルのM. Sarrazin 氏が擔當したのであるが、アーチの構築には特別に仕立てた貨車狀の移動足場を使用した事とこの廣間の部分を3つの部分に構造的に絶緣した事が施工に就いて特記出來ることがらである。（The Architectural Record, May, 1936）



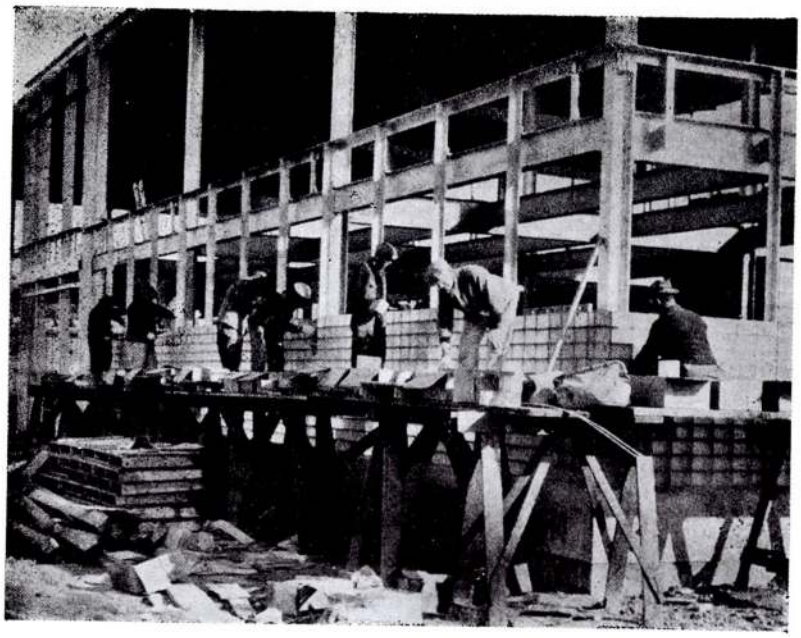
外　　觀



夜　　景



研究室內部



グラズブロツクを積む

窓無しの建物が可能であるといふことは、可成以前から稱へられた事であるが、ガラスブリツクの出現はその具體化を促進した。

ガラスブロツクは數年前ヨーロツパに於て製作せられ、オランダ、ベルヂウム等に於て可成使用せられたが、最近アメリカに於てこれが盛に用ひられるのは1つは空氣調整裝置の發達の爲であり、1つはその家内工業的に製造され易い爲でもある。

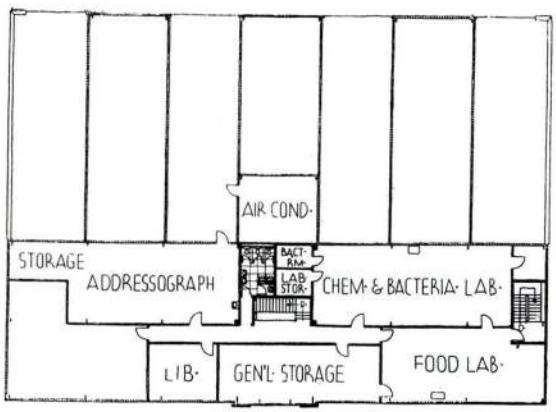
採光と音響及熱のインシユレーションとを兼ね、更に裝飾的價値、特に夜間の裝飾的効果を多分に持つて居るガラスブロツクは、最近現はれた建築の新材料中最も將來あるものの1つであらう。

ここに揚げるは Owens-Illinois 會社の研究所の建物であるが、同會社の製品を宣傳する爲に、内外壁の大部分をガラスブロツクで組立てたものである。外壁の欄間にもガラスブロツクを用ひ、その背後の綠色の布地に依つて、外觀上の變化を企圖して居る。

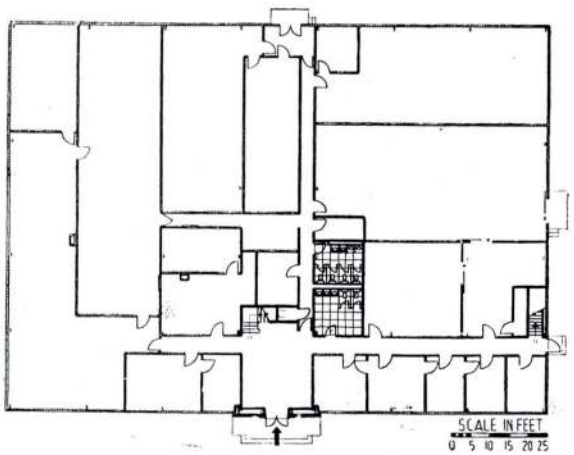
採光とインシユレーションとの利益のほか、輕量であるといふこともガラスブロツクの1つの長所であらう。80,000個で僅150噸であり、煉瓦や石材に比べて餘程輕量である。

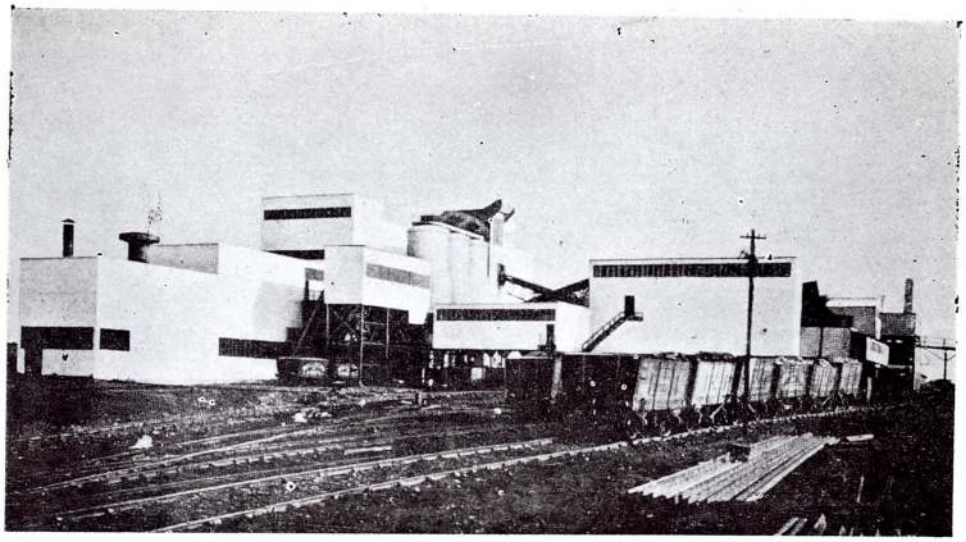
尙、この建物には反響防止用天井、屋根のインシユレーション及空氣調整裝置のフイルターにまでガラスを使用して居る。（Architectural Forum, May, 1936）

2 階 平 面 圖

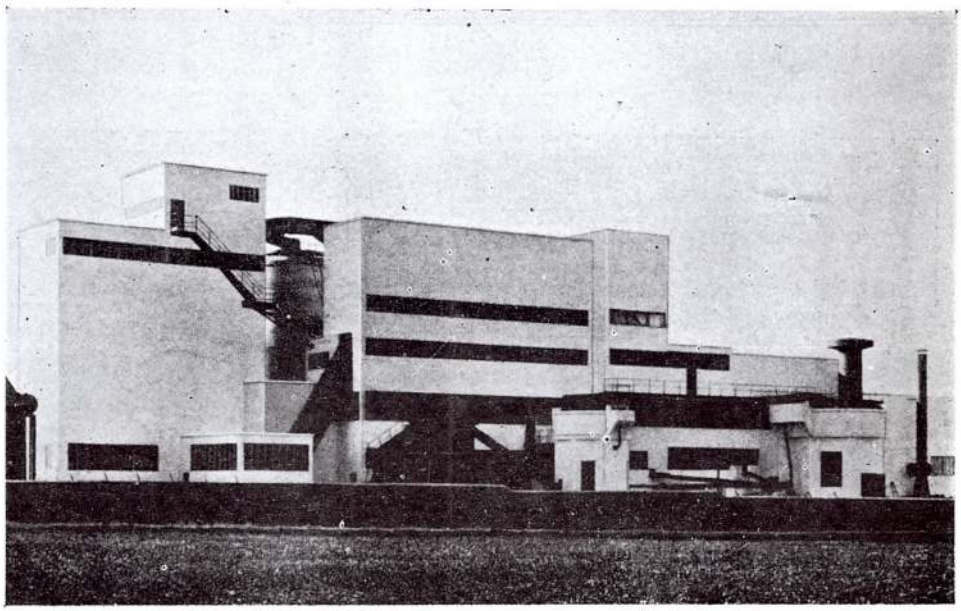


1 階 平 面 圖

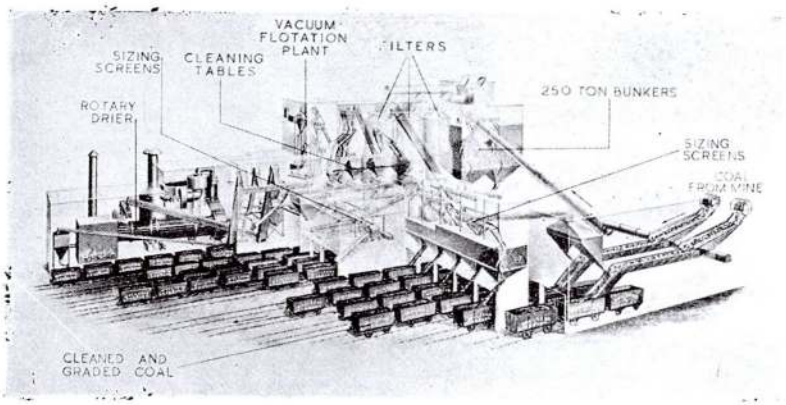




外　　觀



外　　觀

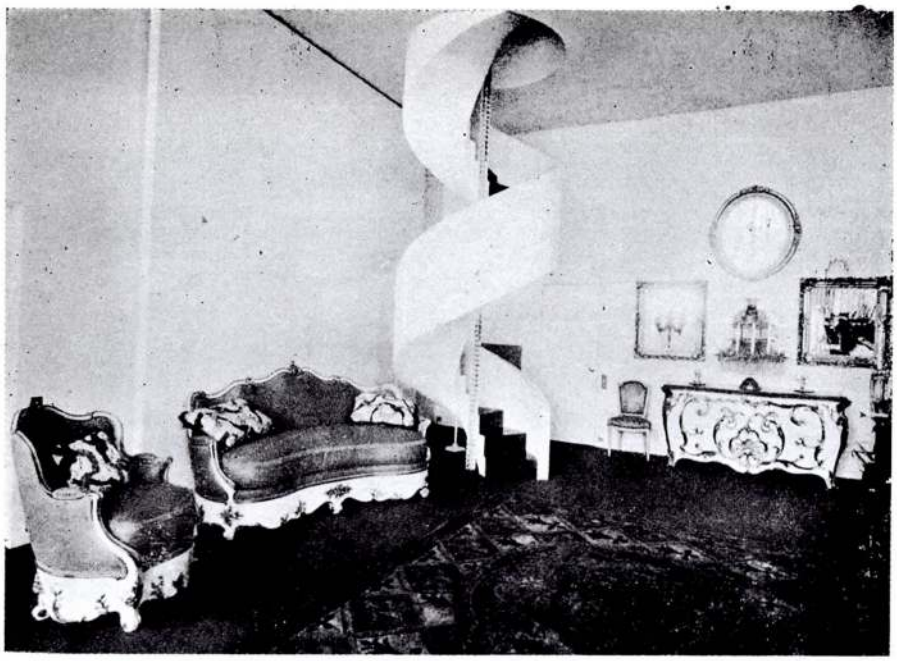


操作系統圖

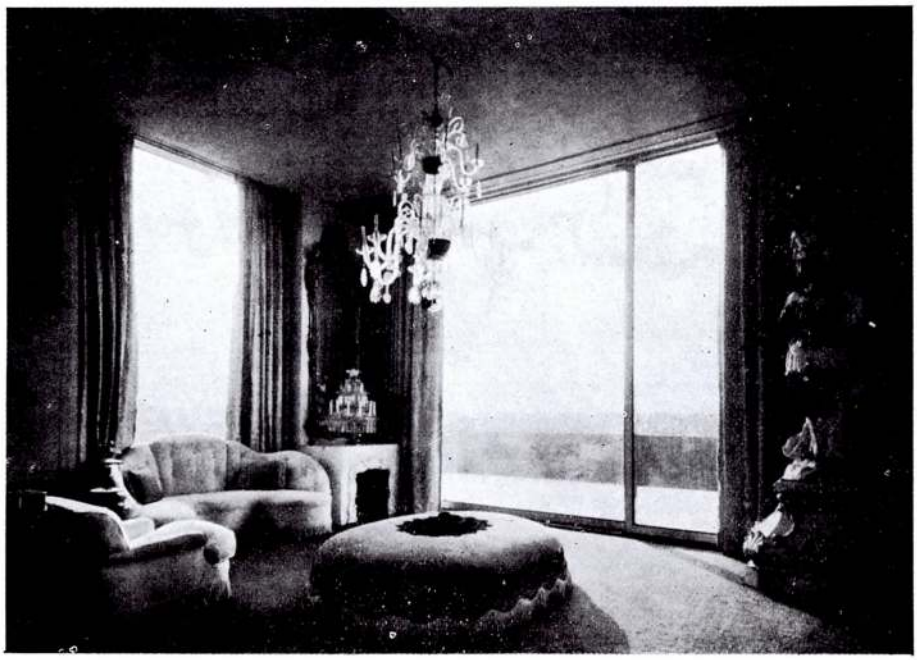
極度に機能的であると同時に、非常に美しい點に於て、建築家と技術家の仕事が最もよく、調和された作品の一つと考へる事が出來る。

發掘された石炭は選礦、雜物除去、乾燥、等級選別等の操作を經て1時間に160頓づゝ貨車に積込んで發送されるもので、圖中最も高い建物は250頓入の鐵筋コンクリート造石炭集積塔、3つの同筒はフイルターである。
(Architectural Review, Apr. 1936)

(オーストラリア) ウオルセンドのライジングサン石炭工場　建築家 R. Cordingley



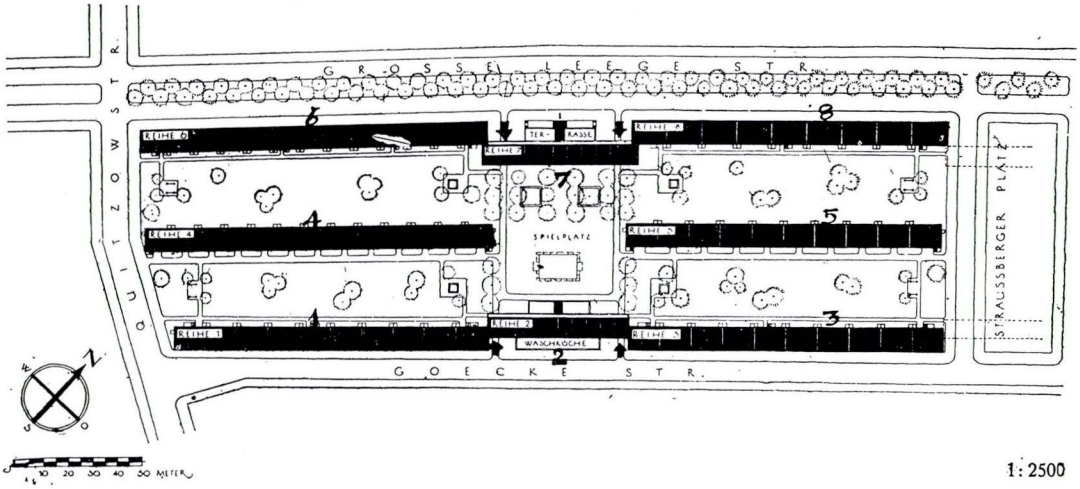
サロン内部



サロン内部

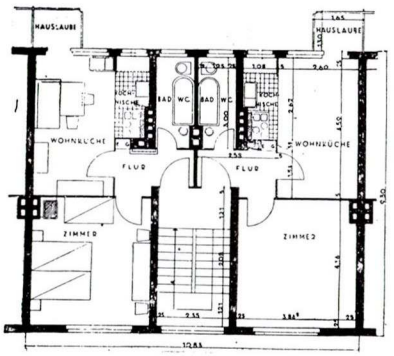
Le Corbusier の超現代風な建築とアパートメントの所有者 Carlos de Beistigui 自らの設計になるロココ風の内部装飾とが非常によく合致して、面白いファンタスティークな効果をあげてゐると云はれてゐるが、どうであらうか。但し此のアパートメントは居住のためでなく、主として接客のために用ひられるものである。圖は何れもサロンの1部で壁、天井共白色、家具は白と青が主調である。（Architectural Review, Apr. 1936）

VII 20 （フランス）パリーのアパートメント内部 建家築 Le Corbubier 装飾 Carlos de Beistegui

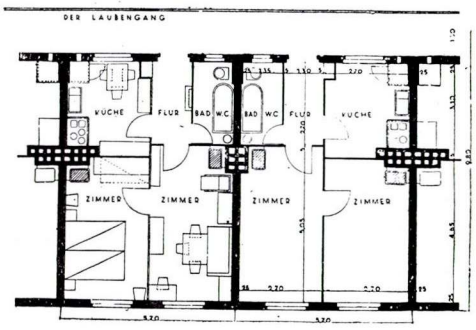


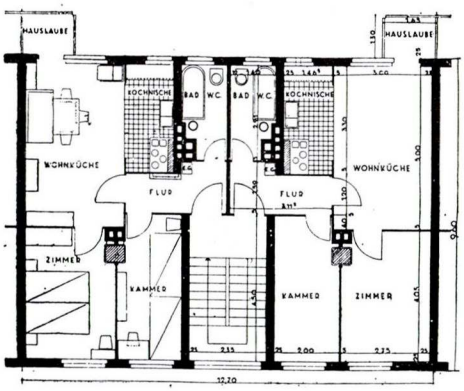
1:2500

配　置　圖

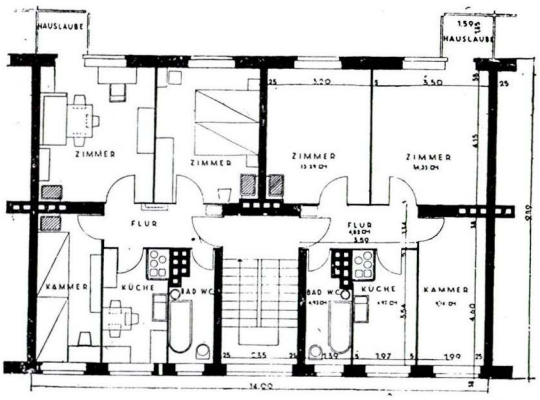


第二圖





第三圖

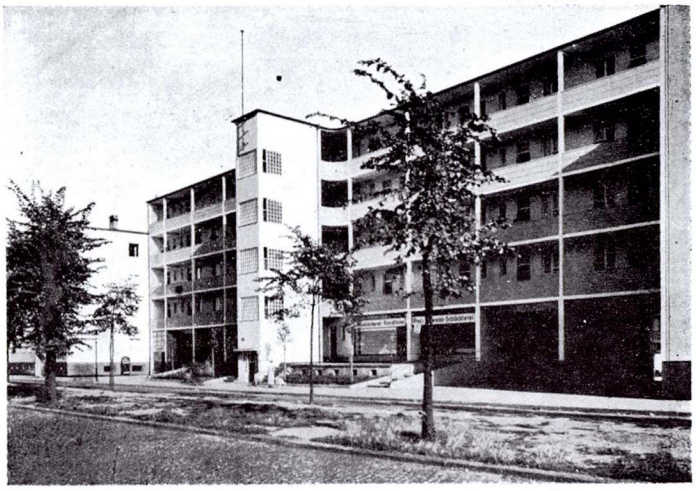


平面の扱ひ方各種

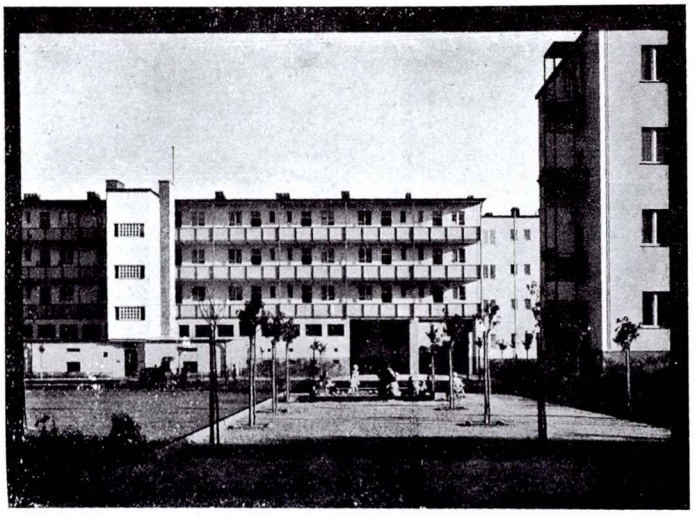


外觀その1

外觀その2



外觀その3



配置圖に示す如く Legce-strasse と Goecke-strasse との間の Block に3列の集合住宅が32—34mの間隔をおいて建築された。中央の列は Hintergebände としての惡條件をなくするために歩道を以て之に連絡せしめ、且 Block 中央に廣場を設け、之より直接建物の下を通じて前記2大道路に連絡するようになり設計されて居る。更にこの廣場は遊歩、並小供の運動場ともなり、泉水、動物の Plastik 芝生等で以て、この Block 全體の美觀の上にも効果がある廣場である。この集合住居の形式は Laubengangbaus（廊下式）と Etagenbau（階段式）と兩者功みに應用されて居て、中央廣場に面せる2棟(2.7)は前者であり、殘り、全部後者の型のものである。

1戸に居室數は家賃に應じて夫々3室、2室のものがあり、各戸へは直接大通りからではなくて、裏口から通路に依つて、出入出來るようになつて居る。其他2の棟には共同の機械的洗濯場があり、7棟には6つの商店がある。Weisensee にはすでに之までに 968戸の集合住宅が建設されて居た。今度の建築戸數を合計して1572戸の大住居聚落が出來た譯である。

有能なる建築家が全體を一手に把握し、絕へ間なく滿足するまで研究するならば "Mietkasernen" の恐怖は多少なりと放遂される。そして事實として〃住居地帶〃が發生するものである。

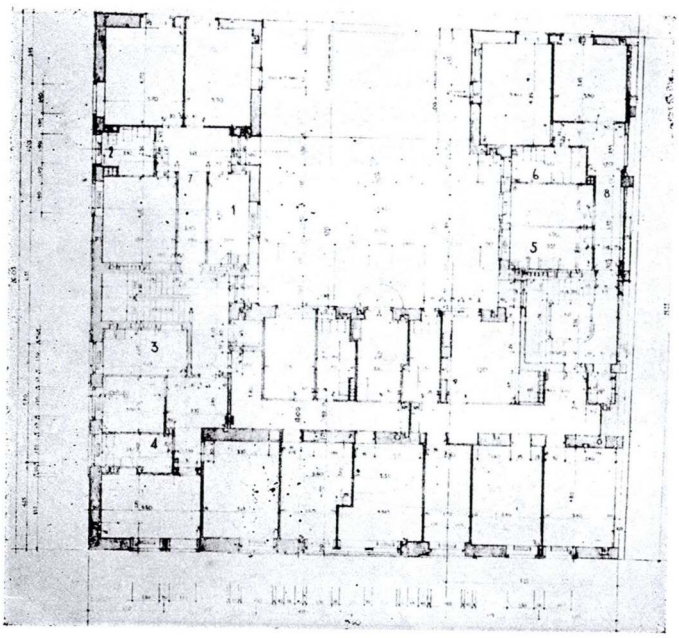
（Moderne Bauformen, Mai, 1936）

VII 22 （ドイツ）Berlin-Weissensee に於ける集合住宅 教授 Paul Mebes 及建築監督官 P. Emmerich

外　　觀



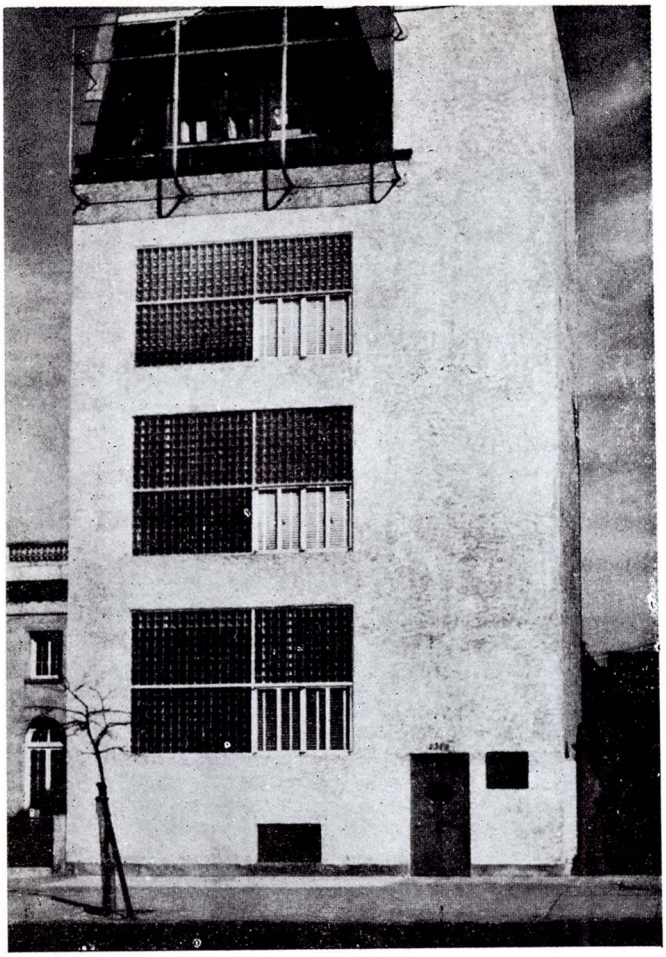
標準階平面圖



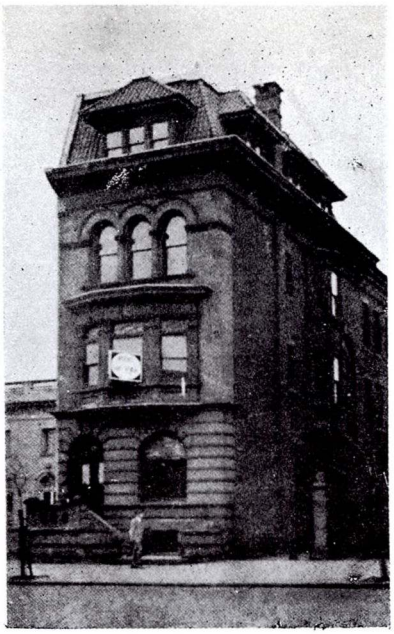
建築面積　514.75m²
建築容積　12786.00m³
構　　造　鐵筋コンクリート及煉瓦(壁體)
地　　階　ボイラー室　重油槽　物置(借家人用)
1　　階　門番、住居、店舗
標準階　(2階～5階)　各階5個のアパートメント
　　(アパートメント單位、3室臺所浴室便所)
6階～7階　各階2個のアパートメント

緩かな勾配の葺ばらざる四注屋根、壁面を害ふことなき開口の節度ある窓、シムメトリアにおさまつたアアサード、等は正に地中海的であり同時に古典的ではあるが建物の腰及窓廻り特に立面の中心部分に石材を用ひて外觀を引立て且強める手法は今日のイタリアに多く見る所にして一種のファッシヨ的モードとも稱すべきか。(Architettra Italiana, Apr. 1936)

(イタリー)　トリーノ市に建つアパートメント



改造後の外觀



改造後の外觀

銀行家は一般に近代風の建築を好まなかつたが、最近はこの傾向が無くなりつつある。その理由は極めて簡單で、工費が安いからといふに盡きる。

フイラデルフイヤの西部貯蓄銀行に約11,000弗を費して古い住宅をモダーン改造して成功した。

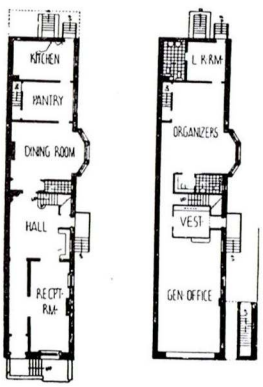
平面圖の左は夫々改造前の間取、右は夫々改造後の間取である。

正面をグラスブリツクで張り詰めたばかりでなく、内部も全く改造した。それに依つて古い住宅は一變して、メリヤス勞働者アメリカ聯合會の事務所に借りられることになつた。唯工費が不足の爲上部のマンケード・ルーフはその儘に殘さなければならなかつたから、前面につたの這ふ棚を作つて調子を附けてゐる。

12,000弗の抵當に取つたもので、稅金が604弗、それに 11,787弗の改造費をかけて2,100弗の家賃をあげることになつた。

(Architectural Forum, May, 1936)

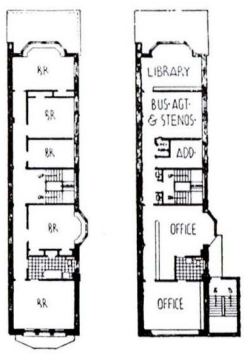
1 階 平 面



2 階 平 面



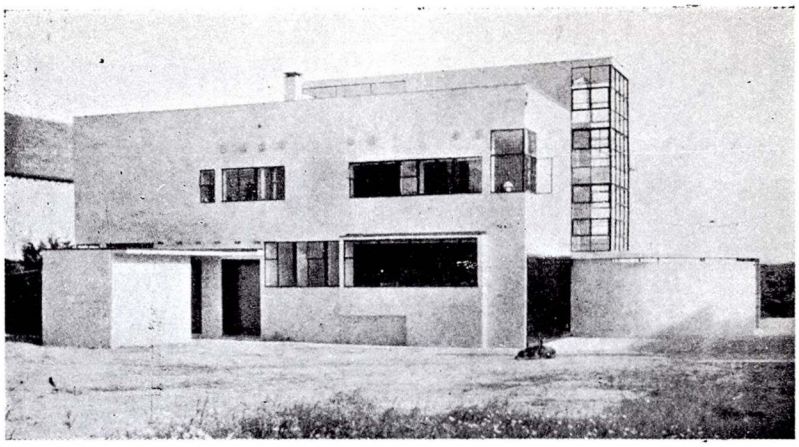
3 階 平 面



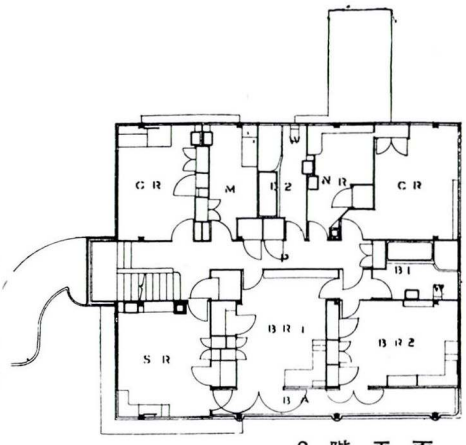
VII 24 （アメリカ） 古い住宅を近代風事務所に改造　　建築家 Oscar G. Stonorov

鐵筋コンクリート造で、柱の間隔はinsulating board 標準型割附に都合のよいやうに定めてある。

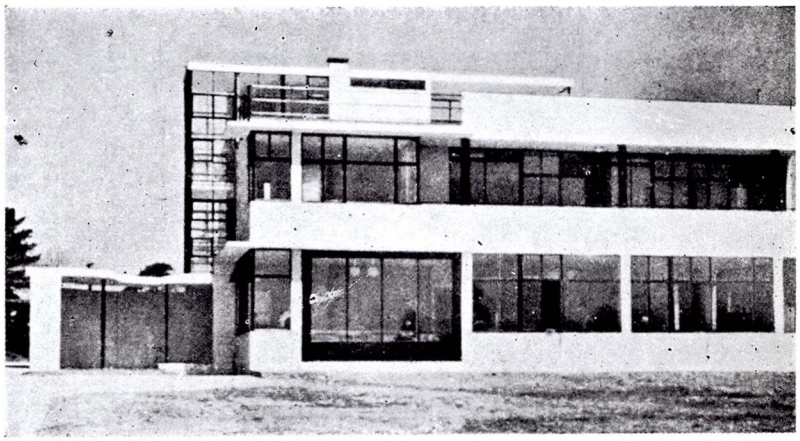
天井黄色、壁淡綠 fire place上の壁は暗赤色（Architectural Review, Apr. 1936）



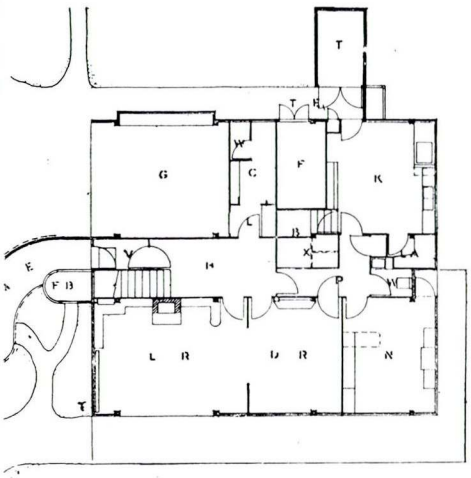
北側外觀



2階平面

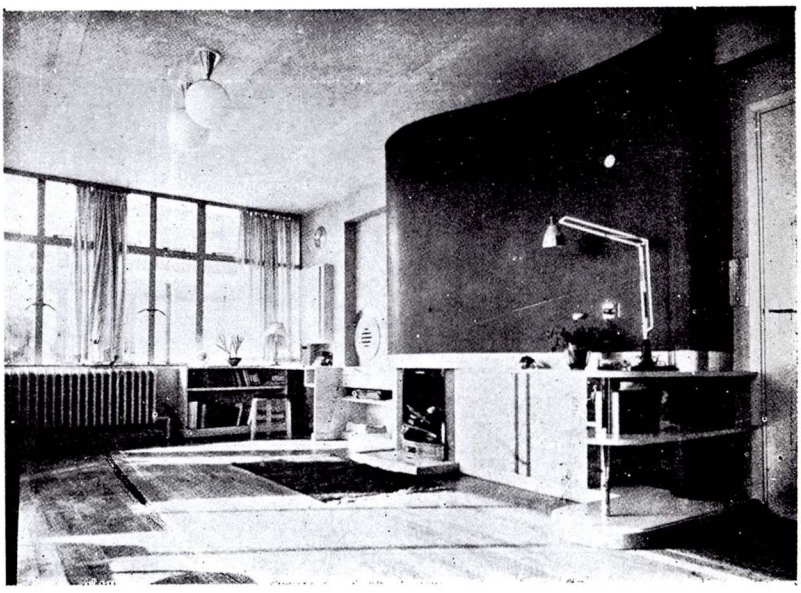


南側外觀



170

1階平面



內部

（イギリス） ブリストル郊外の住宅　建築家 Cononel, Ward 及 Lucas

圖は Mr. Wells の案に成る未來の世界を想像した活動寫眞のセットである。

それは日光、雨、寒暑等の影響を受けない、人間が自然の環境に對して最後の勝利を示した地下のユートピアである。そこには鬪爭も無く戰爭もない。

人々はこの太陽のない地下街で無線電話の仕掛のある衣物を着、窓のない建物に住み、自動車の片影すらない大通を散歩し、それから、これはいささか時代錯誤であるが廣い階段の上に立つて居る。

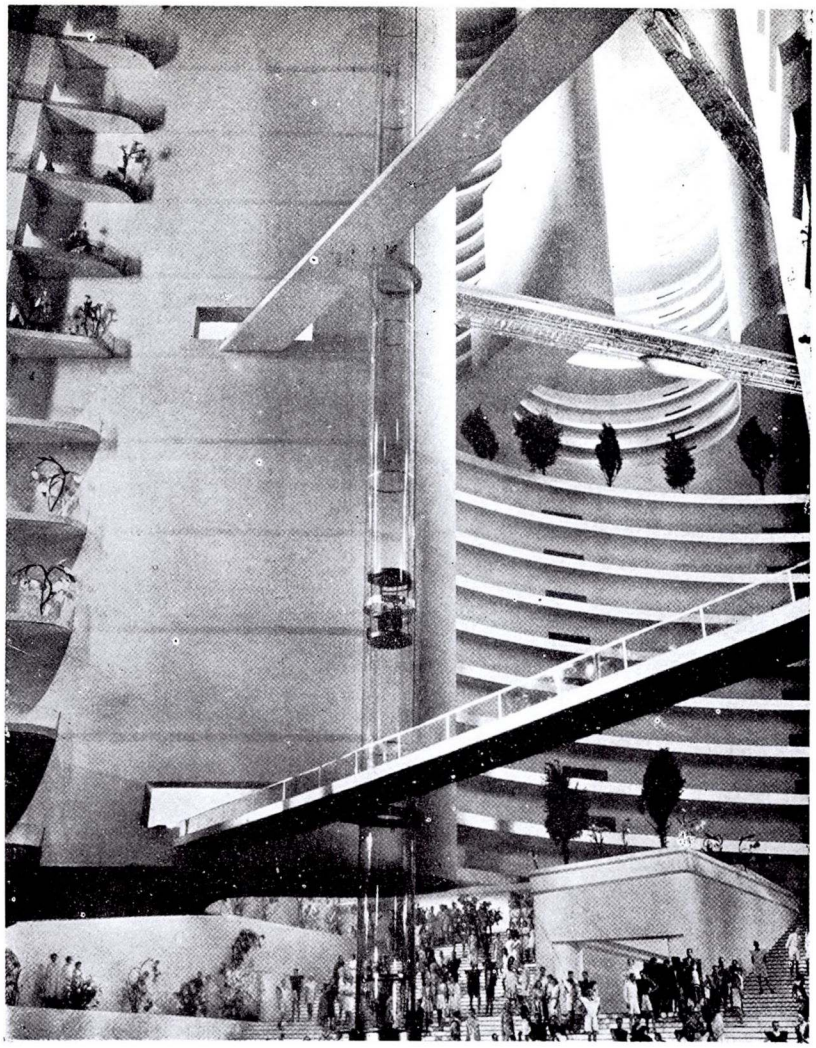
横の交通は吊下式軌道に依り、竪の交通は巨大なガラス管の中を神秘的に上下するエレベーターに依つて行はれる。

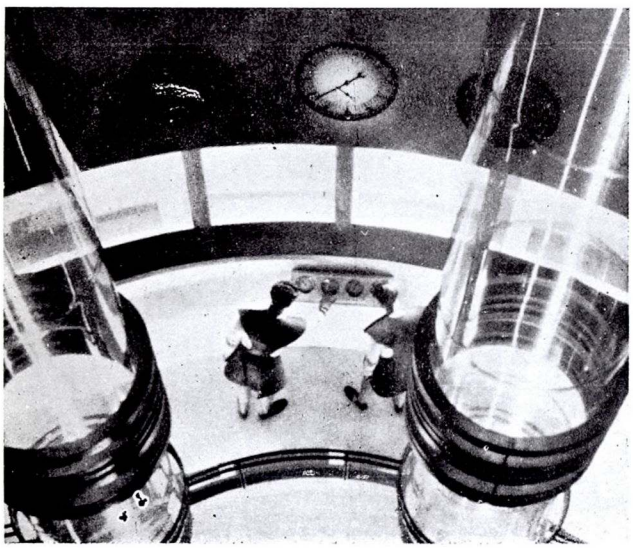
ガラス及類似の材料はあらゆる方面に利用せられ、家具までこれで作られる。

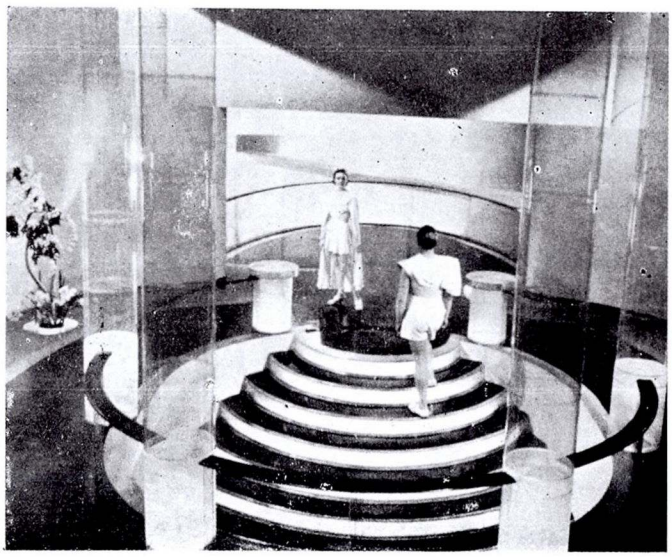
このセットの大部分は縮小された模形であるが、非常に精巧に作られて居る。

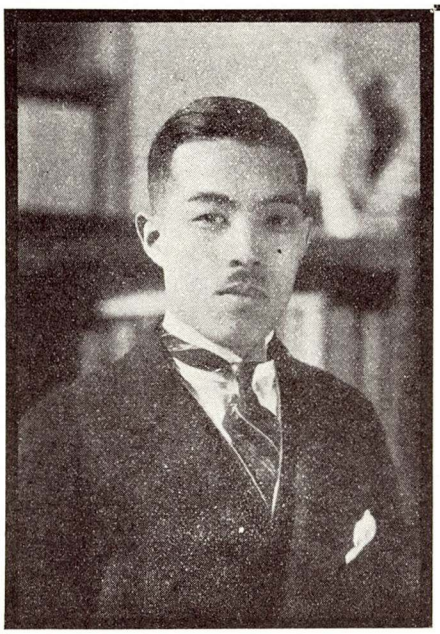
建築は主として Mr. Wells の考案に依るが、それよりも最近數年の間に英國の建築をその努力に依つて變化せしめつつある一群の若い建築家の輝しい想像力に負ふ所が極めて多い。

(Architectural Forum, May, 1936)









會　員

昭和11年度評議員
編　輯　常　務
災害調査委員會委員

故三浦尙史君

昭和11年2月12日會員三浦尙史氏病を以て夭逝せらるゝ　洵に哀悼に堪へず、深く弔意を表す。

三浦氏は大正15年當協會會員となられ、爾來10年間協會發展の爲に多大なる努力を續けられたる人であつた。

主として災害强度、災害調査委員會の仕事を分擔して居られたのであつたが、數年來に於ける委員會の活躍を省みて氏が遺した事蹟の決して少くなかつた事が想はれる。殊に昭和10年度評議員に當選され次いで編輯常務に當選せられ協會の樞機に參與し役員として一層の活躍を期待されて居つたのである。然るに昨年12月不幸にも重症の床に臥してから3ヶ月、療養の術も盡きて遂に永眠せられたのである。

洵に三十有餘歲、我協會の爲にも前途有爲なる氏の如き人材を喪つた事は惜しみても餘りあることで茲に謹んで三浦氏の略歷と照肖を揭げ以て冥福を祈る次第である。

1、明治36年3月14日廣島縣に生る。
1、大正11年東京豐島師範學校卒業。
1、大正15年東京高等工業學校建築科卒業。
1、大正15年3月31日大阪市立都島工業學校敎諭に就任。
1、同年5月日本建築協會々員となる。
1、昭和9年12月同會評議員に當選す。
1、昭和10年1月同會常務に當選し編輯を分擔す。
1、昭和11年1月同　　上
1、昭和11年2月12日腎臟病にて歿す。
享年34歲。

昭和11年2月14日大阪市阿倍野齋場に於て佛式を以て葬式を行ひ本會より役員代表として常務阪口芳三郎氏會葬し下記弔詞を代讀せらる。

弔　詞

茲ニ社團法人日本建築協會々員一同ヲ代表シテ恭シク故大阪市立都島工業學校敎諭三浦尙史氏ノ英靈ニ告ク

我日本建築協會カ曩ニ建築界ノ振作革進ヲ以テ關西ノ一角ニ其ノ旗幟ヲ樹ツルヤ氏ハ大正拾五年五月籍ヲ本會々員ノ一員ニ置キ爾來我協會ノ役員、委員ニ當選シ斯界ノ功績鮮カラス殊ニ我協會カ將來ノ施設ニ於テ氏ニ俟ツ處亦尠カラサルモノアルノ秋忽然トシテ幽界ニ歸セラル痛惜焉ソ禁ヘム

爰ニ本會々員一同ノ赤思ヲ捧ケ哀悼ノ意ヲ表ス

英靈夫レ髣髴トシテ來リ鑒ケヨ

昭和11年2月14日

社團法人日本建築協會

會長工學博士　片　岡　安

會　報

法制委員會（第5回）

時　5月26日午後7時～9時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　池田
　委員　板井、本田

協議事項

1. 防火地區完成促進に關し協議し其必要を認むる理由に付檢討す
1. 防火壁の効果に付き座談會を開催するの件

會長主催會員招待園遊會

時　5月31日午後1時～5時
所　木原氏別邸（東區餌差町丹頂庵）
出席者　秋本研造氏外221名

1. 前日の降雨に當日の天候を案ぜられしが朝來時々小雨ありしも正午よりは曇天にして折々初夏の陽光を見るを得定刻の午後1時には會員の來會するもの既に80名餘
1. 園遊會開始の午後3時には振鈴の合圖に一同庭園の廣場に設けられし天幕內及其周圍に設けられし赤毛氈の床机に集合
1. 先づ片岡會長は壇上に立ち本日の來會を謝し招待の理由其他希望等に付一場の挨拶あり次で中西主記より木原別邸の歷史等に付詳細なる說明あり
1. 次で池田寅氏は來賓一同を代表して謝辭を述べられ何れも拍手の裡に挨拶を了り夫れより愈園遊會に移る
1. 宴酣にして「レコード」により雇仲20餘名及會員の手踊等の餘興あり
1. 斯くて豫定の午後5時となるや中西主記の發聲にて「日本建築協會長片岡博士萬歲」を三唱一同之に和し次で片岡會長より「日本建築協會萬歲」を大呼一同之に和して三唱す
是に於て片岡會長主催の園遊會は和氣靄々の裡に大盛會を以て閉會一同解散す

常務會（第10回）

時　6月1日午後5時30分～8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　理事　安井副會長
　常務　中澤主記、中西主記、內藤主記
　加田主計、作間主計、清水主計
　島田編輯、本多編輯、堀口編輯

議事

1. 6月例會に關する件
2. 大阪都市計畫防火地區圖印刷發賣の件
3. 日本ポルトランドセメント同業會申出に係る小住宅設計圖案懸賞募集に關する件
4. 法制委員會より電車賃支出要求の件
5. 敎化委員會要求に係る映畫目錄完成（前年度繼續事業）及試寫に付經費支出の件並に建築講座開設に關する件
6. 會員增加に付臨時會員新名簿作成に關する件
7. 給仕1名採用の件
8. 愛の設計圖貸與の件（2件）
9. 滿洲建築協會より申越の協會相互の會員の會費に付便宜を與ふる件
10. 會員詮衡
11. 細則1部（第6條）變更に關する件
12. 職員上半期賞與並昇給に關する件

報告

1. 4月分會計報告
1. 春季大會清算報告
1. 建築學會長より講演、展覽會に關し禮狀

都市計畫委員會（第5回）

時　6月5日午後6時20分～9時30分
所　建築材料陳列場
出席者　委員長　鳥井
　幹事　加藤、福知
　委員　龜井、村井
　吉田、元吉

協議事項

1. 前回に引續き全國都市問題會議提出問題に付調査研究す
1. 上記問題に付各自資料を次回までに持ち寄ること

敎化委員會（第2回）

時　6月9日午後4時30分～7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　永澤

幹事　篠原
委員　伊東、堀口

協議事項

1. 午後5時10分MGM會社試寫室に於て映畵の試寫を行ひ午後6時より協會倶樂部室に於て委員會を開き下記事項協議す
1. 映畵目錄追補に付照會狀發送の件
1. 建築講座開設の可否を常務會に催促の件
1. 各所巡回の上試寫を行ふの件

材料委員會（第6回）

時　6月11日午後7時～9時30分
所　朝日倶樂部談話室
出席者　幹事　松久保
委員　楠瀬、高岡
道田

協議事項

1. セメント防水劑の試驗に關する件

住宅委員會（第8回）

時　6月12日午後7時～9時10分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　石川
幹事　矢田
委員　荒木

協議事項

1. 各委員分擔の研究問題に付次回委員會に其研究方法又は中間報告を發表すること

常務會（第11回）

時　6月15日午後5時40分～7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　理事　片岡會長
常務　阪口主記、中澤主記、中西主記
内藤主記、加田主計、清水主計
島田編輯、本多編輯、堀口編輯

議事

1. 6月例會に關する件
2. 教化委員會より建議に係る建築講座開設に關する件
3. 木材市場品寸法規格案を知事に建議するの件
4. 編輯幹事追加依囑に關する件
5. 陳列場幹事長要求に依る職員東京に出張に關する件
6. 同　新聞廣告料支出に關する件
7. 同　出品各小間に電燈設備費に關する件
8. 會員詮衡
9. 職員上半期賞與及昇給に關する件

會員動靜

入會者

會員

角野　孝君	普通賛助員より轉格
川村　淺一君	〃
山田七太郎君	〃
安井　芳治君	〃
弓馬　重龜君	〃
吉本　德夫君	〃
米本佐一郎君	〃
山本　一善君	〃
安藤　芳雄君	住吉區天王寺町2693苗代アパート（第四師團經理部）
池上　直輝君	北區堂島北町17（建築設計）
板倉　達君	京都市左京區下鴨中川原町76（京都府建築工場課）
岡田　樸君	北區澤上江町4ノ23藤本方（大阪府建築課）
樫尾　幹雄君	旭區中宮町748公園ハウス（大阪府建築課）
杉本　正一君	府下泉北郡濱尾村2259ノ6
福田　里三君	住吉區天王寺町3293ノ6（家具裝飾業）
藤田　弘君	西成區東皿池町46佐伯爲吉方（大阪市臨時校園建設所）
森口　清君	浪速區惠美須町1ノ1松岡テル方（大阪府建築課）
青島　務君	堺市車之町東3丁1須山正藏方（堺市役所事業部工營課）
安達與四郎君	天王寺區下寺町4ノ13（天滿配給市場建築係）
粟井　一馬君	住吉區北田邊町330（合名會社竹中工務店）
木村　進君	府下枚方町伊加賀93（京都競馬倶樂部）
小山　秀吉君	旭區新森小路中1ノ141（大阪府建築課）
杉　喜代一君	神戸市湊東區東川崎町1ノ53 大倉土木株式會社作業場（大倉土木株式會社）

寺島利三郎君　住吉區西今川町5ノ32
富田　哲輔君　府下豐中町常盤通1丁目トキワアパート(大林組設計部)
林　仙造君　京都府淀町京都競馬倶樂部內(京都競馬倶樂部)
古井　康男君　神戸市林田區池田廣町171ノ5花藤信太郎內(大倉土木株式會社大阪出張所)
松村　文甫君　兵庫縣武庫郡精道村打出堀ノ內19木村方(日本生命保險株式會社營繕係)

地方會員

今津　吉衛君　和歌山市新堀七軒丁7(和歌山縣立工業學校)
高原　武德君　德島市常三島町31(德島縣學校營繕技手)

特別賛助員

穴村　忠太君　住吉區西田邊町34(合資會社岡田建材店)
上村　永康君　住吉區天神森1ノ50(日刊工業新聞社)
黒川　雄平君　西宮市今津町津門西ノ口925ノ3
牧浦　定司君　府下中河內郡久寶寺村(日刊土木建築時報社)
山本　最純君　西區靱南通1ノ1(山本最商店)

普通賛助員

橋本　實君　東成區猪飼野東6ノ9
坂東　八郎君　德島縣名西郡入田村天の原

退會者

會員

鮎川豐三郎君

特別賛助員

坂本　一男君　田中　勇君　山口　民祐君

普通賛助員

岡本　判平君　小林　信雄君　佃　誠紀君
東　昊君　武田十子男君　渡邊　謹作君

轉居轉勤

會員

雙田萬次郎君　山口縣防府町鐘紡建築事務所
清水　清範君　府下北河內郡門眞村4番地
大石　忠夫君　此花區大開町西野田職工學校內
上野　逸夫君　住吉區天王寺町3249
中村　英男君　神戸市兵庫區上澤通7ノ37
保園　源三君　旭區中宮町747ノ2
本田　長次君　府下北河內郡門眞村舊4番
竹內　絲君　(事務所)尼崎市昭和通6ノ232(電759)
杉本　正一君　府下南河內郡金岡村長曾根2228駒田重夫方
綿谷　宏一君　山口縣防府町三田尻福島人絹株式會社內錢高組
竹內　成夫君　住吉區山阪町4ノ8
佃　十俊君　府下中河內郡矢田村照ヶ丘青柳通894
森　三郎君　住吉區天王寺町2032

地方會員

後藤米太郎君　名古屋市東區山口町18ノ18
楠　正巳君　南區北久太郎町三菱銀行船場支店建築場竹中工務店出張所內
木村　俊男君　東京市芝區三田四國町日本電氣株式會社建築場

普通賛助員

平川　眞實君　東區東雲町2ノ194(大阪市役所監査部檢査課工事檢査係)
御前　弘君　和歌山縣西牟婁郡新庄山野製材工場內
前田佐太郎君　津市綿內町1099ノ11
本木　武雄君　東京市目黒區原町1257宮崎方
山下　平司君　東成區猪飼野大通1ノ52
谷　信太君　東區今橋4ノ1三菱信託ビル東畑建築事務所內
木村　久君　住吉區住吉町978桑本眞太郎建築事務所
五條　宗次君　京都府福知山町福知山中學校京都府建築事務所

改姓

會員

後出　清範君　(舊姓　清水)

死亡

地方會員

加護谷祐太郎君　昭和11年6月7日逝去(謹みて哀悼の意を表す)

社團法人 日本建築協會役員及幹事委員 （昭和十一年）

役員

常務會（例會日 定第一第三月曜日）

會長	安藤雄
副會長	片岡貞雄
副會長	設樂武雄
監事	安井敏雄
監事	津田禹象
主事	松本之介
主事	北垣熊三郎
主事	阪口芳一郎
主事	中澤誠六郎
主事	中西亮一郎
主事	內藤安彥
主事	加田出生
主事	作間日榮二
編輯主任	清水種夫
編輯	新名良馨
編輯	島田正道
編輯	本多甚吉
編輯	堀口

評議員會

評議員	今井太郎
同	猪瀨彥太郎
同	小川幸吉
同	大倉陽郎
同	岡田三男
同	片岡孝安郎
同	河合貞一彥
同	加田安介
同	北垣熊之吉
同	久保田種茂
同	黑田廣太郎
同	兒玉芳三郎
同	阪井勇三生
同	酒間日出雄
同	作設樂貞二
同	清水榮夫
同	新名種馨
同	島田良吉
同	志岐善郎
同	鈴木太文
同	園部泰藏
同	谷民
同	弓削信一
同	眞澤藏郎
同	鳥井捨郎
同	鳥井一誠郎
同	中澤西六雄
同	中西村義一
同	內藤亮郎
同	藤本賢太郎
同	本多正道
同	堀口甚吉
同	松井清之助
同	松浦松之助
同	三浦茂
同	安井武雄
同	保田虎五郎
同	山口久誠
同	山田次郎
同	吉本政幸
同	渡邊實

幹事

編輯幹事會（「建築と社會」編輯幹事會）

幹事	岡田孝男
同	龜井幸次郎
同	桐本楠雅
同	島田良馨
同	篠原太郎
同	新名種夫
同	高橋榮治
同	瀧澤眞弓
同	田中捨一
同	島井新厚
同	中藤井義一
同	藤原甚藏
同	堀口正吉
同	本多乙道
同	本間秀彥
同	宮田忠穗
同	森吉信一
同	和田登

「建築學研究」編輯幹事會

幹事	島田馨夫
同	新名良種

建築材料陳列場幹事會（例會日 定第二月曜日）

幹事長	岡部顯則
幹事	今林彥太郎
同	浦英之助
同	北垣熊之介
同	高橋榮治
同	中西六郎

倶樂部室幹事會

幹事長	中西六郎
幹事	伊藤和夫
同	浦英之助
同	作間日出生
同	須賀藤五郎
同	三島圓四郎

委員

都市計畫委員會

委員長	鳥井信吉
幹事	加藤善夫
同	福知秀次
委員	龜井幸進
同	村井武
同	元吉勇太郎
同	吉田信

法制委員會

委員長	池田實
幹事	今林彥太郎
同	松井清之助
委員	板井公威
同	津田敏雄
同	本田林八

教化委員會

委員長	永澤毅太郎	一治作武吉
幹事	篠原東恒太	
委員	伊高姫野甚	
同同同	堀口	

材料委員會

委員長	高橋榮治	三激生吉郎
幹事	松久保敬	
委員	楠瀬	
同同	作間日出三	
同	高岡田與泰	
	道	

災害强度委員會

委員長	波江悌夫	茂世一三郎夫藏郎喜誠藏吾
幹事	黒田	
委員	青柳貞新	
同同同	淺野新俊	
同同同	佐野俊太	
同同同	篠原太郎	
同同同	谷隆夫	
同同同	鳥井捨藏	
同同同	中井新一郎	
同同同	中島智喜	
同同同	山田誠	
同同	矢田鐵藏	
同	渡部圭吾	

設備委員會

委名長	小原笠祥光	克一彦
幹事	増井田敏	
同	村村小	
委員	西村安	

住宅委員會

委員長	石川藤純一	夫藏已男隆夫次郎
幹事	伊藤和	
同	矢田鐵	
委員	荒木田正	
同	岡田孝	
同同	貴賓院	
同	新名種	
同	玉置豊	
同	野口	
同	中宮脇晴	
同	野順次	
同	中	

都市計畫委員會

委員長	池田寶	信郎光二造治夫吾雄
幹事	鳥井	
同	中澤誠一	
委員	小笠原祥	
同同	清水榮	
同同	竹腰健	
同同	高橋榮	
同同	波江悌	
同	村野藤	
同	安井武	

災害調査委員會

委員長	波江悌夫	茂郎一郎雅三郎夫藏喜一道助美藏郎誠吾
幹事	黒田	
委員	玉置豊次	
同同	淺野新次	
同同	龜井幸次	
同同	桐本楠雅	
同同	佐野俊太	
同同	篠原隆	
同同	谷鳥井捨	
同同	鳥中島智	
同同	中内藤亮	
同同	本松多正	
同同	井清之	
同同	宮脇晴	
同同	矢山口儀三	
同同	山田	
同	渡部圭	

會員委員會

委員	今林彦太	郎彦吉郎則二憲一寶良
同同	池田宮	
同同	池田谷久	
同同	大倉三	
同同	岡部顯一	
同同	川口定	
同同	籠田寛	
同同	木村田	
同同	古宇	
同	小西一	
同	酒井勇三	郎郎馨作夫一郎雄武一治郎
同同	澁谷五	
同同	島田良	
同同	高木太	
同同	谷隆	
同同	坪井誠	
同同	中澤誠一	
同同	丹藤良	
同同	姫野	
同同	宮士岡重	
同同	松本儀八	
同同	宮本長治	
同同	山脇友三	

建築年鑑編輯委員會

委員	今林彦太	郎治光男次郎雅激夫馨郎治諒弓一藏一郎彦雄二一彦道吉助穗一雄武吾登
同同	伊東恒	
同同	小笠原祥	
同同	岡田孝	
同同	龜井幸次	
同同	桐本楠雅	
同同	楠瀬	
同同	新名種夫	
同同	島田良馨	
同同	篠原太郎	
同同	高橋榮治	
同同	棚橋諒	
同同	瀧澤眞弓	
同同	田中彌一	
同同	鳥井捨藏	
同同	永澤毅一	
同同	中井新一郎	
同同	西村安彦	
同同	坂靜雄	
同同	藤井厚二	
同同	藤原義一	
同同	本間乙彦	
同同	本多正道	
同同	堀口甚吉	
同同	松井清之助	
同同	宮田秀穗	
同同	森田慶一	
同同	森忠雄	
同同	横山尊武	
同同	吉田信吾	
同同	渡部圭登	
同同	和田	

今回新入協會員（自昭和十年十二月至同十一年六月）の名簿を左の通り作りました。昨年末調製の名簿に御追加下さる樣願ひます。

日本建築協會

會員

氏名	學位稱號	職業、勤務先	現住所
安藤猪久男	工	中尾隆亮建築事務所	東區谷町三ノ三八　中尾隆亮方
安藤芳雄	工	第四師團經理部	住吉區天王寺町二六九三　苗代アパート
青樹英次	工	大阪市役所	住吉區阿倍野筋四ノ五二　木全方
青島務		堺市役所事業部工營課	堺市車之町東三丁一番地　須山正藏方
青山復三郎		大阪市役所臨時校園建設所	住吉區田邊東ノ町五ノ二八
麻野俊定	工	大阪市臨時校園建設所	天王寺區石ヶ辻町九二　中島謙藏方
旭德次郎		自營	東成區南中本町一ノ六三
安達與四郎		天滿配給市場建築係	天王寺區下寺町四ノ一三
新井辰一		古塚正治建築事務所	西宮市越水宅地六八八ノ一

氏名	學位稱號	職業、勤務先	現住所
荒木正利	工	長谷部竹腰建築事務所	京都市左京區吉田泉殿町五
會津松藏			普通贊助員より轉格
有田勝	工	神戸市營繕課	神戸市楠公前東明ビル三階神戸市役所營繕課內
粟井一馬		合名會社竹中工務店	住吉區北田邊町三三〇
井上伉一	工	神戸市營繕課長	神戸市須磨區月見山本町一ノ一六一
井上利男			普通贊助員より轉格
井端義明		堺市役所事業部工營課	堺市樽屋町六
石井猛		大林組設計部	尼崎市宮內町二ノ八五
石井利雄	工	京都帝國大學營繕課	京都市上京區出町桝形通西入上ル相生町
石川領一	工	合資會社清水組	京都市左京區下鴨松ノ木町五
石崎卯藏	工	大阪帝國大學營繕課長	府下豐中町新免一二二一
石田慶一		株式會社大林組	神戸市兵庫區和田岬三丁目　大林組出張所內
石通太郎		株式會社大林組	住吉區濱口町一二六
石橋三四二		日本生命保險株式會社營繕課	府下豐中町櫻塚一一二九
石原達偉		村野建築事務所	住吉區住吉町一七〇八
今北乙吉		今北建築事務所	兵庫縣武庫郡住吉村戀野一三五八
今西太一		橋本勉建築事務所	西成區粉濱中之町二ノ二八

池上德一	工	大阪市役所臨時校園建設所
池上直輝		建築設計
池田總一郎		自營
伊藤太郎		津田敏雄建築事務所
伊藤武文		株式會社鹿島組
伊藤爲吉		建築設計監督
伊藤哲二		大阪鐵道株式會社
伊藤朔		大阪鐵道局神戸保線區
伊藤康夫		大阪市役所
飯田精次郎		日本染料製造株式會社
飯田爲次郎		國枝工務所
飯田稔		大阪市土木部河川橋梁課
飯干君美		大阪市役所臨時校園建設所
板倉達	工	京都府建築工場課
糸井直太郎		中山太陽堂裝飾係
上田修壯		清水榮二建築事務所
梅本由巳		

三

榎利夫	工	大林組設計部
小川光一		岡田建築事務所
小河吉之助		合資會社清水組
小笹德藏		株式會社大林組
小田島兵吉	工	西野田職工學校
大石忠夫		京都府土木部營繕課
大久保幸男		神戸市營繕課
大崎寬		中西商店建築部
大島太一郎		大阪市電氣局高速鐵道建設部
大瀧丈夫		
大塚錦三		大阪府建築課
岡田樸		大阪土木部
岡村市太郎		京都帝國大學營繕課
岡本田鳥		荻田工務店
荻田眞之助		大阪鐵道局
奥野時三		日本電力株式會社
鬼武信夫		

四

兵庫縣御影町上石屋四八	
北區堂島北町一七	
京都市上京區小川通今出川北入	
京都市左京區下鴨北園町八六ノ二	
府下中河內郡長瀨村金岡五七	
東區釣鐘町二ノ一九	
住吉區北田邊町七一九	
神戸市兵庫區大開通十丁目一ノ九	
西淀川區塚本町一六三ノ一	
北區野崎町一八	
府下吹田町八六八	
府下吹田町六地藏町九二五	
北區善源寺町三ノ四六　小屋畑方	
京都市左京區下鴨中川原町七六	
普通贊助員より轉格	
住吉區田邊東ノ町五ノ二九	
神戸市灘區德井町字大和町一五九	

兵庫縣川邊郡立花村塚口上慶長	
普通贊助員より轉格	
天王寺區勝山通一ノ一八五	
西區土佐堀二ノ二清水組內	
府下北河內郡蹉跎村中振	
此花區大開通西野田職工學校內	
京都市左京區聖護院西町一七　橫山英三方	
神戸市須磨區村雨町六丁目二ノ九	
堺市戎島二ノ三〇	
府下三島郡千里村千里山一二八	
普通贊助員より轉格	
北區澤上江町四ノ二三　藤本方	
府下吹田町一三五八	
京都市左京區田中野神町一七	
兵庫縣武庫郡精道村芦屋御所ノ內八五三	
天王寺區南河堀町九	
北區宗是町一　日本電力株式會社建築係	

香山毅	大阪市電氣局高速鐵道建設課	府下吹田町泉町三二九四
海上靜一	大阪市臨時校園建設所	大正區大正通一〇ノ三六
海妻郁夫		普通贊助員より轉格
笠井新十郎	大阪府建築課	普通贊助員より轉格
樫尾幹雄	久保田組	旭區中宮町七四八公園ハウス
勝田幸男	日本電力株式會社建築係	住吉區平野中町一九
桂川弘		天王寺區茶臼山町七九ノ一
角野孝	大阪市土木部河川橋梁課	普通贊助員より轉格
金島四郎	大阪市役所	天王寺區上本町九ノ七三
龜澗弘		住吉區阿倍野筋五ノ六五
川合安平	大阪府建築課	普通贊助員より轉格
川勝健二		住吉區湯里町五四七
川西梅次郎	大阪市水道部技術課	普通贊助員より轉格
川村淺一		普通贊助員より轉格
河邊寬	京都競馬倶樂部	北區善源寺町三ノ四五
木村正太郎		普通贊助員より轉格
木村進		府下枚方町伊加賀九三

五

菊池芳	株式會社大林組	兵庫縣武庫郡鳴尾村甲子園月見ノ里四〇
北野勇	大日本紡績株式會社貝塚工場	普通贊助員より轉格
岸田吉彦	阪急電鐵株式會社地所課建築係	府下貝塚町大日本紡績貝塚工場西社宅十三號
貴賓院隆	合資會社清水組	北區角田町三三　阪急電鐵會社地所課內
久保田英雄	大阪市臨時校園建設所	府下吹田町宮浦一〇〇三
黑熊春巳		住吉區松虫通一ノ四三　角屋方
黑澤董允	長谷部竹腰建築事務所	普通贊助員より轉格
國枝幸男	長谷部竹腰建築事務所	普通贊助員より轉格
汲川彌太郎	合資會社清水組	住吉區住之江町二五二
倉岡重雄	大阪市役所臨時校園建設所	此花區島屋町七
倉持勝一	津田建築事務所	西區土佐堀二ノ二清水組
栗岡忠夫	大阪市臨時校園建設所	北區北扇町五六　文化寮
小泉昇	大阪市電氣局高速鐵道建設課	東淀川區下新庄町五八六ノ一
小池鏞三		北區常安町五　中ノ島寮內
小島初三	大阪府建築課	西淀川區大仁東一ノ四八
小山助太郎		普通贊助員より轉格
小山秀吉		旭區新森小路中一ノ一四一

六

工

神崎良治		株式會社松村組
佐々木義夫		大阪鐵道局
佐竹信次		横河工務所
左谷米三郎		津田建築事務所
佐藤正二		西宮酒造株式會社營繕係
佐溝武雄		建築工務所
阪下圭彌		近江セールズ株式會社
下畑春太郎		大阪府營繕課
嶋昇次郎		橋本建築事務所
島野七郎		東洋紡績株式會社營繕課
清水憲吾		渡邊節建築事務所
須崎幸治		建築請負業
須藤員雄		大倉土木株式會社
末岡好杢	工	大倉土木株式會社
菅澤英夫	工	
杉喜代一		

大正區南恩加島町一ノ八八春本鐵工所内
普通贊助員より轉格
天王寺區大道五ノ四六
旭區江野町四九
港區八幡屋寶町二ノ二一五
西宮市石在町三六
府下柏原町市村三六六
住吉區山阪町四ノ五二
住吉區北畠中二ノ三
住吉區阿倍野筋八ノ八八
西成區粉濱本町四ノ六六
北區堂島中二ノ三九
西淀川區花川町岡屋
西淀川區大仁本町三ノ四二　電氣工事業
成所大倉組作業所
神戸市湊東區東川崎町一ノ五三　大倉土
木株式會社作業所

杉浦巴	工	村野建築事務所
杉本正一		第四師團經理部工務科
杉本忠勝		自營
外村房太郎		大倉土木株式會社
田川忠之助	工	大阪府營繕課
田口熊市		土木建築設計請負
田中久雄		荒木建築事務所
田中秀彦		大阪府建築課
田中元夫		大阪市役所校園建設所
竹内千代松		大阪市役所校園建設所
竹花末春	工	營繕管財局造幣局工事場
竹本節三		橋本勉建築事務所
武田雅男		
高橋茂		兵庫縣總務部營繕課
高橋鶴治		
高橋眞		大伍商店
瀧野覺之助		

住吉區阿倍野筋二ノ一二
府下南河内郡金岡村長曾根二二二八
駒田重夫方
京都市伏見區深草稻荷五
住吉區住吉町一一三六　帝塚山アパート
府下三島郡千里山片山二二六
東淀川區南濱町二ノ五〇
北區曾根崎中一ノ二九
府下北河内郡九箇莊村下神田
兵庫縣武庫郡大庄村西大島　長松方
兵庫縣武庫郡精道村打出鄕ノ本二
市外吹田町三三二二
北區東野田町七ノ二六　アパート阪雅莊
府下高石町北六〇三ノ四
普通贊助員より轉格
西宮市津門西之口九一八ノ三
普通贊助員より轉格
京都市左京區岡崎北御所町四五

坪内英雄	工	大阪市臨時校園建設所
鶴田勝		大阪市臨時校園建設所
辻卯藏		大阪市臨時校園建設所
塚安治		大阪府都市計畫課
出崎四郎	工	株式會社大林組
寺岡眞		大阪鐵道局大阪保線區
寺島利三郎		大阪市臨時校園建設所
寺西武吉		大林組設計部
傳谷一四二		大阪府建築課
土井久二		
戸川屋進一		
遠山勇吉		
富田哲輔		
友淵善信		
中川了文		
中澤吉郎		
中島八郎		

中田猛		津田建築事務所
中谷甚一		陸軍造兵廠火工廠營造係
中西十一		株式會社大林組
中村武雄		大阪府建築課
中村利正		合名會社竹中工務店
中村英夫		
中井德三		大阪府營繕課
中山克	工	大阪市臨時校園建設所
中山通成		日本電力株式會社
內藤資忠	工	京都帝大營繕課
永木甚造		大阪府營繕課
長澤榮一郎	工	戸田組大阪支店長
夏秋留次郎		
成田昌弘		大阪市臨時校園建設所
南條圓		日本電話建物株式會社
二宮太平	工	京都帝大營繕課
西崎辰之助		

南區北桃谷町四五
普通贊助員より轉格

住吉區松虫通一ノ四三　角屋方
住吉區桑津町九九
神戸市神戸區加納町三ノ七〇
尼崎市長洲石ノ戸上
住吉區西今川町五ノ三二
住吉區山阪町一ノ一九
神戸市須磨區權現町三ノ一一三
東成區勝山通九丁目九一ノ一六
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
府下豐中町常盤通一丁目トキワアパート
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
東淀川區三國本町五七　美富久莊內
普通贊助員より轉格

尼崎市南竹谷町一ノ五一　櫻莊
京都市外宇治村木幡字西浦
住吉區杉本町五三九ノ一
旭區森小路町六四九　古谷倉義方
兵庫縣武庫郡本庄村西青木一四六
普通贊助員より轉格
南區瓦屋町一番丁一四
府下吹田町片山前二三七一
北區宗是町一　日本電力株式會社電氣部發電課
京都市左京區田中高原町八一
住吉區阿倍野筋二ノ二
住吉區天王寺町二九九四
普通贊助員より轉格
府下北河內郡門眞村門眞驛南一丁半
西宮市大井手町二
京都市左京區北白川平井町七中津信二方
京都市東山區山科厨子奧矢倉町

西田偉三	工	大阪市土木部河川橋梁課
西原直一		大阪市臨時校園建設所
西村榮祐		鐵道省改良事務所建築係
西森一男		横河橋梁製作所
西山夏江		株式會社大林組
根岸坦		兵庫縣營繕課
根來弘		神戸市役所營繕課
能宗一男		大阪市役所營繕課
野坂和儀		大阪市役所校園建設所
野村敏一		大阪府建築課
野村安太郎		株式會社大林組
野々村五四男	工	畑工務店
後出清範		京都競馬倶樂部
橋本秀齋		
畑政七		
服部正巳		
林仙造	法	

普通贊助員より轉格
府下茨木町茨木一〇三九
京都市左京區下鴨下川原町二
東區東阪町四七八
神戸市林田區二葉町五ノ一〇六
住吉區北田邊町八五二
尼崎市神田中通三ノ一四三
神戸市神戸區水木通六丁目二〇ノ一四
神戸市楠公前東明ビル三階　神戸市役所營繕課内
府下中河内郡龍華町植松
東區鎗屋町一丁目
北區中野町二ノ三〇
府下北河内郡門眞村四番地
此花區大野町二ノ一五
神戸市林田區西山町二ノ二八
普通贊助員より轉格
京都府淀町京都競馬倶樂部内

一一

林田瀧太郎	工	横河工務所
曳野與藏		内海紡績株式會社建築部
平林美彦		兵庫縣武庫郡大庄村小學校設計監督
平山琴治		大林組設計部
福井福		家具裝飾業
福田勇雄		大阪市役所校園建設所
福田里三		自營
藤田弘		長谷部竹腰建築事務所
藤谷茂二郎	工	池田實建築事務所
藤原弘三		大倉土木株式會社大阪出張所
伏見孝悌		土木建築設計請負
吉井康男	工	大阪市臨時校園建設所
別府尙逸		田島應用化學工業所
保木本信二		津田建築事務所
保園源三		
眞壁博	工	
眞繼昇		

普通贊助員より轉格
北區澤上江町六ノ五〇　澤上江アパート
府下泉南郡尾崎村　千代秀吉方
普通贊助員より轉格
尼崎市西向島町二九九
兵庫縣武庫郡濱甲子園
住吉區天王寺町三二九三ノ六
西成區東皿池町四六　佐伯爲吉方
京都市左京區下鴨蓼倉町二〇
尼崎市難波南通二ノ六五　坂本寬司方
東淀川區三國本町一五一
神戸市林田區池田廣町一七一ノ五　花藤信太郎内
北區澤上江町五ノ五四
東成區生野田島町一一五
旭區中宮町七四七ノ二
北區善源寺町一〇ノ三六　吉田太德方
西淀川區海老江上二ノ一五四

一二

松村文甫	工	日本生命保險株式會社營繕係
松村弘之	工	大阪府建築課
松本宇市		大阪市電氣局高速鐵道建設部
松森修太	工	大阪府建築課
前原大二郎		大阪市臨時校園建設所
三島剛	工	神戸市役所營繕課
三宅孝雄		大阪府營繕課
三宅利雄	工	大倉土木株式會社
三好喜三郎		日本電話建物株式會社建築課
宮氏幸雄		關西工學校
宮崎巖		京都帝大營繕課
宮崎鐵二		大阪市電氣局高速鐵道建築課
宮谷顯市		建築請負業
水知忠清		日瑞貿易株式會社
水野長三郎		橋本勉建築事務所
南喜巧		京都府社寺課
村田繁規		

村山三郎		大阪市臨時校園建設所
森三郎		大阪府營繕課
森口清	工	大阪府建築課
森島輝夫		田中正義建築事務所
森本治一		日本電話建物株式會社建築課
森本義雄		大阪市土木部
元良勳		大阪市臨時校園建設所
藥師神賢一		河田組工業所
山內庄治		大阪市電氣局高速鐵道建設課
山口潔		池田實建築事務所
山崎萬壽夫		
山田軍三		大阪府營繕課
山田七太郎		兵庫縣營繕課
山田稔		關西理化學工業所
山中彰		
山本宗一郎		
山本正重		

兵庫縣武庫郡精道村打出堀ノ內一九　木村方
北區東野田町一ノ九〇　櫻宮アパート
神戸市灘區宮山町二ノ三八
旭區北清水町八九五　河野益夫方
兵庫縣武庫郡鳴尾村西畑三四ノ六東野方
神戸市林田區池田上町　明月館內
西成區東萩町二八ノ三　矢野方
府下三島郡千里村千里山八〇九
兵庫縣武庫郡住吉村字猿ノ松一〇〇八
住吉區平野流町八二〇
京都市左京區田中關田町吾妻青木幾次郎方
大正區鶴濱通一丁目一ノ二
神戸市葺合區磯上通六ノ二九
兵庫縣武庫郡本山村岡本一三〇八
普通贊助員より轉格
東區餌差町二〇五
京都市右京區嵯峨深谷町愛宕念佛寺國寶建造物修理事務所

旭區新森小路北一ノ六八
府下守口町瀧井四八八　村田德松方
浪速區惠美須町一ノ一　松岡テル方
旭區森小路町六四九　古谷倉義方
普通贊助員より轉格
神戸市林田區腕塚町七ノ一〇〇
京都市中京區土手町通竹屋町上
住吉區山王町三ノ二二
港區長巳町一ノ七
住吉區西今川町六ノ五〇
住吉區帝塚山中四ノ四八
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
旭區森小路町九〇
神戸市林田區片山町一丁目一六〇ノ五
西成區千本通五丁目四　關西理化學工業所
普通贊助員より轉格

矢代幸三郎	大阪市役所營繕課	府下豐中町櫻塚二四六ノ一
矢野藤一	汽車製造株式會社營繕係	此花區島屋町汽車製造株式會社設計課
安井源一郎 工	長谷部竹腰建築事務所	京都市上京區葭屋町出水下ル
安井芳治		普通贊助員より轉格
安家正明		普通贊助員より轉格
安田健三	京都帝大營繕課	京都市左京區田中樋ノ口町六三
柳川忠夫	日本電話建物株式會社建築課	神戸市湊區大同町二ノ一二八
弓達修	大阪市役所校園建設所	尼崎市東櫻木町一一四　鹽田方
弓馬重龜		普通贊助員より轉格
横瀨慶二		普通贊助員より轉格
横山三四次	大阪市役所公園課	府下豐中町南轟木四七二
吉川善彌	戶田組	旭區生江町七一二
吉田邦一	大阪市臨時校園建設所	西淀川區海老江中二ノ五八
吉田忠夫	京都帝國大學營繕課	京都市左京區下鴨松原町二九ノ一二
吉田東		普通贊助員より轉格
吉武章夫	和田建築事務所	東淀川區三國本町八一
吉原九州男	朝永建築工務所	東成區南生野町四ノ五一

一五

吉本德夫	岸和田市役所土木課營繕係	岸和田市大北町九四九
米田貞一	米田建築事務所	普通贊助員より轉格
米田光太郎		旭區今福町五三
米本佐一郎	自營	普通贊助員より轉格
呼子正		西區靱北通一ノ八
和田猪三郎		普通贊助員より轉格
和田次郎市	土木建築請負業	普通贊助員より轉格
若松初三郎		神戸市須磨區上中島町三ノ一

一六

會員（地方在住）

渥美棓 工	滋賀縣建築技手	大津市下百石町三〇
天野一正	東京府總務部營繕課	東京市小石川區原町一四
今津吉雄	和歌山縣立工業學校	和歌山市新堀七軒町七
岩城種三	合資會社勝呂組	富山縣射水郡大門町錦町裏通り
宇野貞三	兵庫縣營繕課	明石市三番町三九八
惠美保藏	石川縣土木課營繕係	金澤市川上新町三ノ三四
大明義隆	自營	東京市芝區西久保櫻川町一

大石多聞　西津組
大谷勳　合資會社清水組
大野木亮逸　伊藤工務店
神吉賢一　株式會社誠工舍
後藤勝男　愛知縣營繕技師
後藏米太郎　合資會社清水組
下田辰巳　吳海軍建築部舞鶴出張所
科野正一　鐘淵紡績株式會社
雙田萬次　自營
田口正夫
田中龜太郎　合資會社清水組大阪支店
谷內弘次　德島縣學校營繕技手
高原武德　合資會社清水組
德田嘉作　石本建築事務所
永澤龍雄
西田義雄
野口源一

工

滿洲國撫順東八條通五八
唐津市大名小路
名古屋市上名古屋町七ノ四八
兵庫縣印南郡東神吉村神吉一四九一
名古屋市東區千種町南畑四八
名古屋市東區山口町一八ノ一八
宇部市西區上町六ノ六九清水組出張所內
京都府與謝郡栗田村上司
山口縣防府町　鐘紡建築事務所
朝鮮釜山府富平町三ノ四九
普通贊助員より轉格
和歌山市宇須二
德島市常三島町三一
八幡市熊手管原町稅二九ノ二
東京市豐島區巢鴨町一ノ八　佐藤明方
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格

福野政夫　文部省建築課金澤出張所
富士原宗行
本田明三二
持田亮治　吳羽紡績株式會社
森岡正雄　廣島鐵道局改良掛
山本一善
吉田正一　前橋工業學校

特別贊助員

穴原忠太　合資會社岡田建材店
板谷厚志　工事資料社
今岡周之助　水道衛生工事請負
岩橋省吾
岩本熊雄
上村永庸　法
落合武繁　日刊工業新聞社
河田重雄　名古屋製陶大阪出張所
衛生機械工業

普通贊助員より轉格　住吉區西田邊町三四
金澤市上鵜間町四ノ二一三　旭區森小路町八三
普通贊助員より轉格　西淀川區大仁元町二ノ七
富山縣射水郡大門町　吳羽紡績株式會社　普通贊助員より轉格
大門工場建築場內　普通贊助員より轉格
廣島市段原町東浦町八七一　住吉區天神森一ノ五〇
普通贊助員より轉格　住吉區昭和町中一ノ四〇
前橋市岩神町　前橋工業學校內　港區千代見町四ノ八

片桐嘉祿　日本機械工業株式會社大阪支店長
木村壽德　株式會社新潟鐵工所大阪出張所
來山源藏　岡田建材店出張所
黑川雄平
小松四郎　杉本製作所大阪出張所長
河野金秋　建築材料
越賀隆治　住友合資會社
杉浦重彥　昭和鋼管加工株式會社
菅谷六郎　土木建築請負
西村福治
野間房義　日本金具株式會社
原田千彥　田島應用化學工業所大阪支店
古澤清外　日刊土木建築時報社
細川笹市
眞宮義輔
前田祐司
牧浦定司

經濟

三島圓四郎　山本最商店
山本最純　株式會社工英社
橫田喜一郎

法

青木昌一　合資會社清水組大阪支店
安東萬三郎　自營
今井齋　京都帝大營繕課
伊藤一郎　京都帝大營繕課
家石昇　大阪工廠技術課營造係
石田全男　松浦工務店
石山彥夫　荻田工務店
和泉了一　第四師團經理部
飯野敏明　大阪工廠技術課
尾龜清四郎　須賀商會
大久保治能　松本建築事務所
大嶋千太郎　中西商店鐵工部

普通贊助員

東區北濱二ノ九〇片倉ビル　日本機械工業株式會社大阪支店
普通贊助員より轉格
住吉區千躰町一〇
西宮市今津町津門西ノ口九二五ノ三
普通贊助員より轉格
東區北濱三ノ一三杉本製作所大阪出張所
天王寺區眞法院町三二
兵庫縣川西町雲雀丘
普通贊助員より轉格
西區新町南通五ノ一六
今治市榮町一ノ二六
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
普通贊助員より轉格
住吉區北田邊町九一ノ三
北區中ノ島六ノ六　田島應用化學工業所內
府下中河內郡久寶寺村

普通贊助員より轉格
西區靱南通一ノ一
住吉區住吉町一三八一

府下小阪町中小阪五五五
岡山市南方八四
京都市左京區吉田本町一二　中尾越郎方
京都市吉田上大路三五　竹內方
東成區中本町四八九　竹內一男方
神戸市神戸區加納町二ノ五八　松浦工務店內
港區桂町一ノ一二　小笠芳德方
旭區鳴野町二一二ノ一
東成區森町南一ノ三
北區堂島濱通四ノ一　須賀商會內
神戸市林田區宮川町八ノ五五　松本建築事務所內
西淀川區傳法町北一ノ五六

岡野博
川本隆之助
河津乙松
片岡正義
木村久
黑河申三
國岡長四郎
國永清喜
倉橋與藏
近藤岩夫
後藤光一
鹿田久男
繁岡鎭
鈴木隆
角谷一郎
田垣內由信
田中一郎

垂水町役場
神戶中島組
米子保線事務所
大阪市臨時校園建設所
桑本眞太郎建築事務所
第十一師團經理部工務科
鐵道省大阪改良事務所神戶分室
大阪府建築課
自營
大阪鐵道局大阪保線區
第一師團經理部
竹中工務店
岡山地方專賣局營繕係
鴻池組
錢高組
第四師團經理部工務科

兵庫縣明石郡垂水町役場水道部
神戶市兵庫區水木通八ノ九
米子市道笑町二丁目
府下柏原町今町三丁目
住吉區住吉町九七八　桑本建築事務所內
香川縣善通寺町第十一師團經理部工務科
神戶市灘區灘北通八丁目二ノ一
住吉區桑津町一三五
大正區今木町二ノ二八
兵庫縣伊丹町大鹿三六　東平方
東京市赤阪區新阪町　第一師團經理部工務科
神戶市林田區池田上町一〇六
岡山市大供本町二ノ一二九　砂崎方
神戶市兵庫區松本通三ノ一〇五
和歌山市本町五丁目
住吉區田邊本町五ノ二　竹內茂郎方
神戶市須磨區北野町三ノ一

田村忠雄
竹中幾太郎
辻本嘉男
寺井廣義
遠山信造
中川幸太郎
奈良久三
二階堂禎典
西江濟
橋本實
服部保
原田彥太郎
坂東八郎
廣田透
平山紋彌
福田峯雄
船木一郎

京都帝大營繕課
岩瀨工務店
荻田工務店

三菱重工業株式會社神戶造船所
建築請負業
大阪市臨時校園建設所
松尾鐵骨橋梁株式會社
大阪工廠技術課營繕掛
三越大阪支店庶務係營繕
京都帝大營繕課
建築請負業

建築請負業
建築設計業
陸軍造兵廠大阪工廠技術課
大阪市役所營繕課

京都市左京區吉田上大路八　山口方
西淀川區海老江中一ノ二　加藤喜美子方
北區天滿橋筋二ノ三〇
神戶市葺合區二宮町四丁目八ノ一五
神戶市兵庫區湊町一ノ二八五
兵庫縣武庫郡住吉村前田一〇三四
北區善源寺町五ノ一三
大正區福町一ノ一二松尾鐵骨橋梁會社內
北區澤上江町六ノ五〇
東成區猪飼野東六ノ九
京都市左京區一乘寺塚本町五
京都市中京區姉小路通大平通西入東月光町
德島縣名西郡入田村天ノ原
府下高石町羽衣八〇二
長崎縣南松浦郡福江町職入町
府下北河內郡諸堤村字三島三八四
府下池田町五九七

松田良雄	京都帝大營繕課	京都市左京區吉田上阿達町二〇　種田桂三方
松本幸夫	川楠組	西淀川區姫島町一七三九　川楠組内
三浦英太郎	大阪市臨時校園建設所	府下小阪町中小阪六一八
村田義雄	京都帝大營繕課	京都市東山區大和大路通正面下ル一ノ五三三
本木武夫	日本板硝子株式會社	東京市目黒區原町一二五七　宮崎方
山田勝	京都帝大營繕課	四日市市千歳町　日本板硝子株式會社内
横山一夫	大阪府建築課	京都市左京區北白川下池田町一四ノ二
吉川修一	京都帝大營繕課	大西方
吉田忠勝	竹中工務店	名古屋市中區下笹島町五二
吉永定雄		府下三島郡味吉村字正雀七八ノ二
和田敏男		京都市左京區吉田上大路町三五　竹内方
和田直政		神戸市灘區中原通五ノ一五
		府下高石町羽衣七六八

切取線



編後

◆1月近く雨らしい雨を見ない。炎暑の中に白く干乾びた田畑を見て居ると、農を業とせざるものも雨を翹望しないでは居られまい。まして天候に生活を託する人々は、實際焦慮に近い心で雨を待ち望んで居ることであらう。

◆こうした場合何時でも思はれることは、「洋風建築」の多數が、我國特有の蒸暑さに對して、今日も尙無關心に設計せられて居るものが多いといふことである。

◆建築本來の目的が自然的障礙から生活を守護するにあるに關らず、今、我國の大建築の大部分は、涼房裝置を持つた最近の少數を除き夏季に於ては寧ろ自然の暑熱を倍加する役割を演じて居るかにすら感じられる。

◆鐵筋コンクリート構造の建築の樣式は、それを規定する地方的諸狀件の最大公約數の範圍内に於て、國際的に統一され得るものであることを肯定するものではあるが、夏が來ると我國古來の葭簀戶や浴衣や風鈴などが、開け放たれた椽側と共に、いかに日本の夏にふさはしいものであるかを思ふ。

◆開襟シヤツは我國の夏季の服裝の徹底的解決では決してない。新式構造の建築、就中その住宅は、この夏の濕度に對して開襟シヤツ程度の「試み」で滿足すべきでないこと勿論である。

◆窓を開けば西の涼風が入るが、机上の紙片が散亂して仕事が出來ない。窓を閉ぢ風を遮斷した上、更に西日の炎熱を受けねばならない。一一で、上の樣なことが言ひ度くなつた次第である。

◆扨。今月號には最近竣工の關西日佛學館の設計に就いて木子七郎氏から、大阪放送會館の計畫に就いて渡邊仁建築事務所の中山克巳氏から夫々玉稿を得た。何れも特色のある建物であるから、設計者の資料として役立つものが多からうと思ふ。

◆佐古慶三氏の「大阪昔時の地割」に關する論說は往時の都市計畫に關する文獻として一讀に値する。

◆「勞働の家」で「建築と社會」誌上久しぶりに佐藤四郎氏の稿に接する。同氏は搖籃時代の本協會を守立てられた1人。名古屋からの通信を度々お願ひし度いと思ふ。

◆津田鑿氏「エルサレムの回顧」は同氏の外遊記の1部であるが、夏にふさはしい讀物たることを失はぬ。

◆井手氏、高村氏共に會員中の新人である。若い人達の振つて投稿あらむことを希望する。

◆研究及調査報告欄にも、建築隨想欄にも新しい人々の出現を期待して已まない。

◆8月號は「地方計畫」を中心とする特輯號とする。會員中この方面は健筆者揃ひであるから御期待を乞ふ。(新名種夫)

建築と社會

第19輯第7號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册6.00圓(同 24 錢)

昭和11年6月25日印刷　昭和11年7月1日發行

發行・編輯　小板常男

印刷人　大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大石堂印刷所　大阪市北區玉江町1丁目11番地

發行所　社團法人　日本建築協會　大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル　電話長北濱(23)4501番(9)　振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋西　電話土佐堀2440番　振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通(前附第1頁)	1頁	1回	45.00
普通(前附第2頁)	1頁	1回	40.00
普通(後附第1及最終頁)	1頁	1回	25.00
アート(中挿)	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
(建築關係業者案內)	1欄	1回	5.00

廣告揭載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第19輯第7號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……28
朝日建材株式會社……前附 1
阿部鐵工所……47
淺野物産株式會社……10
淺野スレート株式會社……21
淺海商會……36
イ　岩元工業株式會社……36
伊奈製陶株式會社……8
伊藤元商店……29
石川寛三建築事務所……7
エ　榮進社……27
英進商會……39
荏原製作所……53
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
岡田建材店……34
大阪伊丹商店……14
大阪組立コンクリート製作所……46
大野製作所……前附 4
奥村重兵衞商店……38
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　桐田商會……33
協和製作所……45
ク　黒川化學工業所……25
久保商店……45
ケ　建盛商會……44
コ　後藤商店……14
工英社……50
サ　佐渡島西店……20
三機工業株式會社大阪支店……表紙 2
坂本商會大阪支店……39
坂田ベンチレーター製作所……32
ス　須賀商會……15
セ　政正合資會社……31
清光社……32
タ　田島應用化學工業所大阪支店……54
大洋組建材部……29
田中昌司商店……48
田中工業株式會社……51
ダンロップ護謨株式會社……中挿
田村商會……42
淡陶株式會社……41
ト　東洋リノリユーム株式會社……30
東京電氣株式會社……23
ナ　內外土木建築材料合資會社……11
南滿鑛業株式會社……26
中井商店大阪支店……52
中野石材販賣店……34
ニ　日本建築紙工株式會社……31
日本金具株式會社……中挿
日本機械工業株式會社……13
日本建鐵工業株式會社……9
日本放熱器商會大阪支店……37
日本窒素肥料株式會社……表紙 3
西原衞生工業所……16
西孫南店建築金物部……25
ノ　野澤幸三郎商店……22
ヒ　日立製作所……19
ヒーロ特許工業所……中挿
平松釣戸車製作所……48
ホ　ボルネオ物産商會……44
邦光化學工業所……12
マ　マルエス工業株式會社……49
松井商店……46
ミ　三井物産株式會社……24
ヤ　矢橋大理石商店……43
大和護謨製作所……40
ヨ　横河橋梁製作所……35
吉田鹿之助本店……18
米本榮商店……43
ラ　ライトラバー工業合資會社……17
リ　理化學興業株式會社……前附 3
レ　玲光社(木內眞太郎)……26